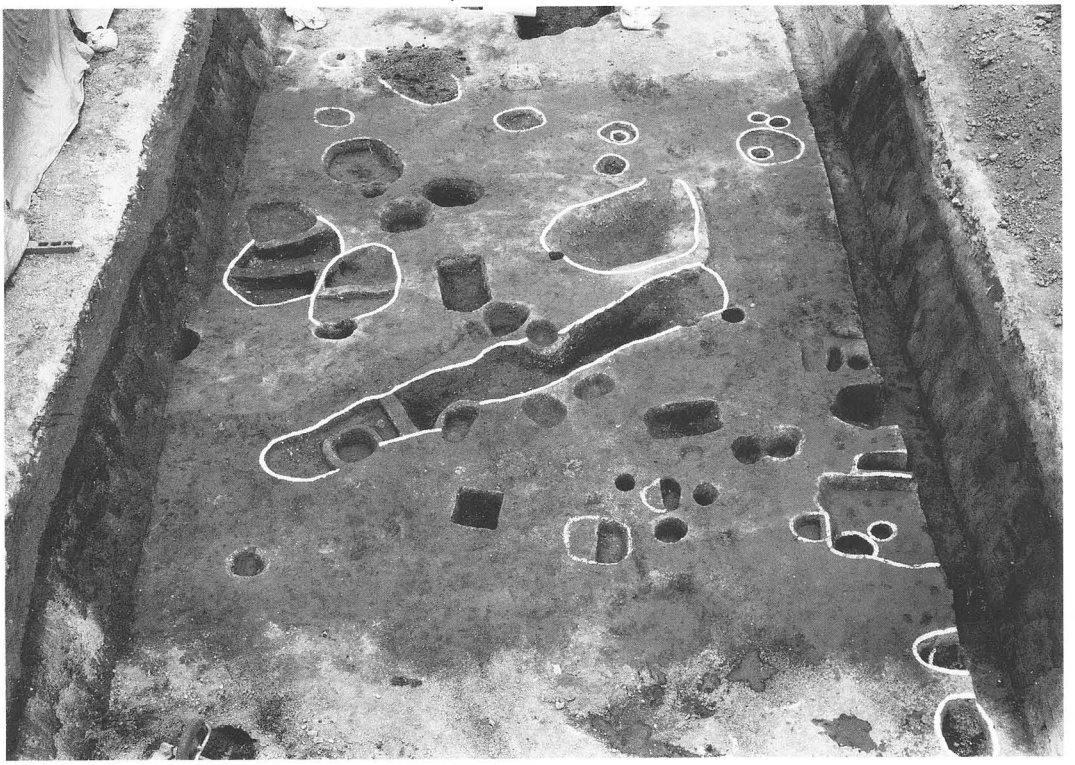
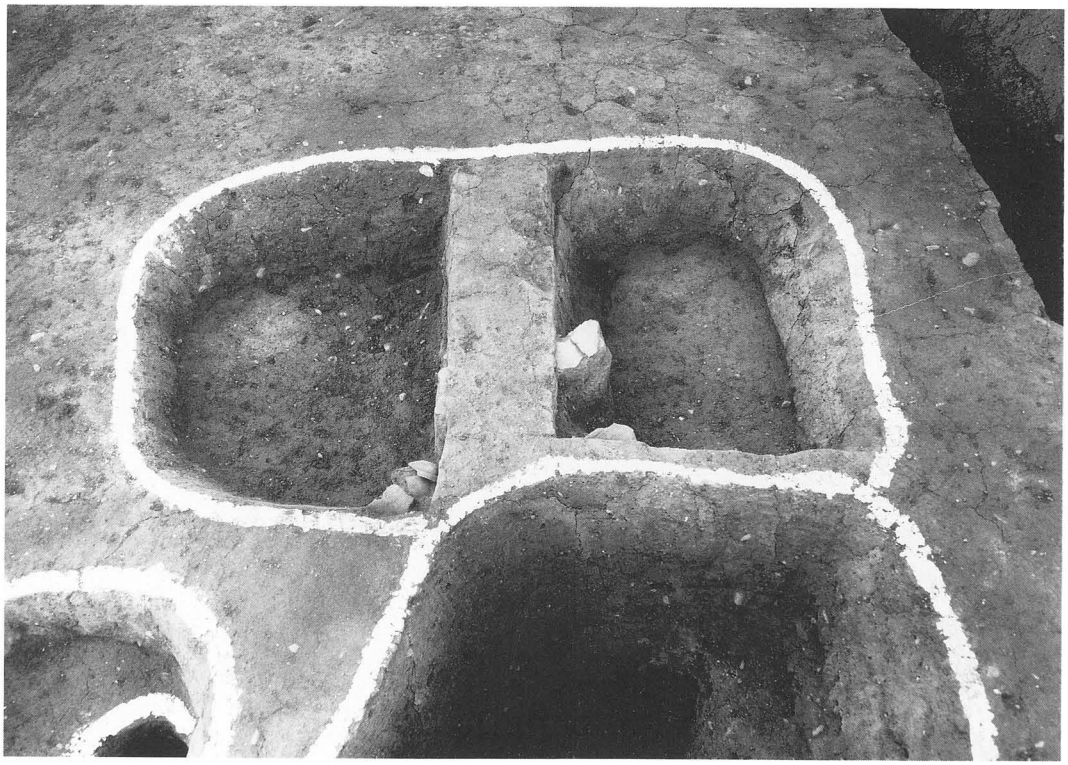
図版二　遺構写真

SW－1（西から）



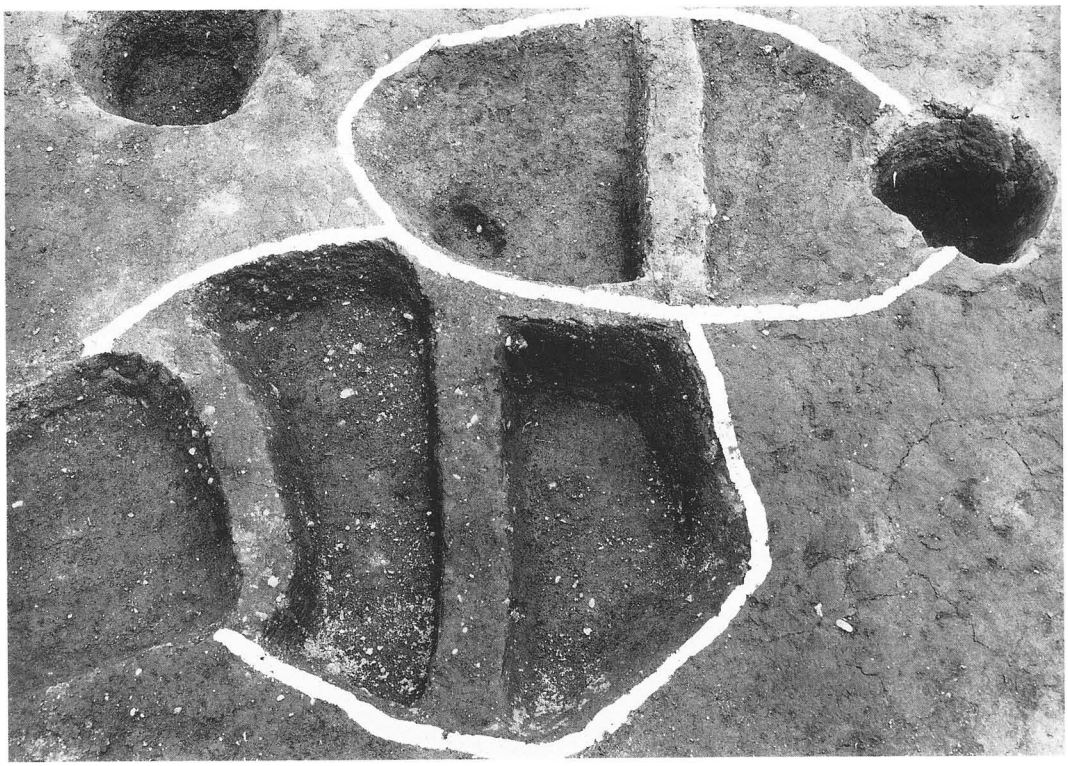
古墳時代前期の遺構（南から）

SK－1（北から）

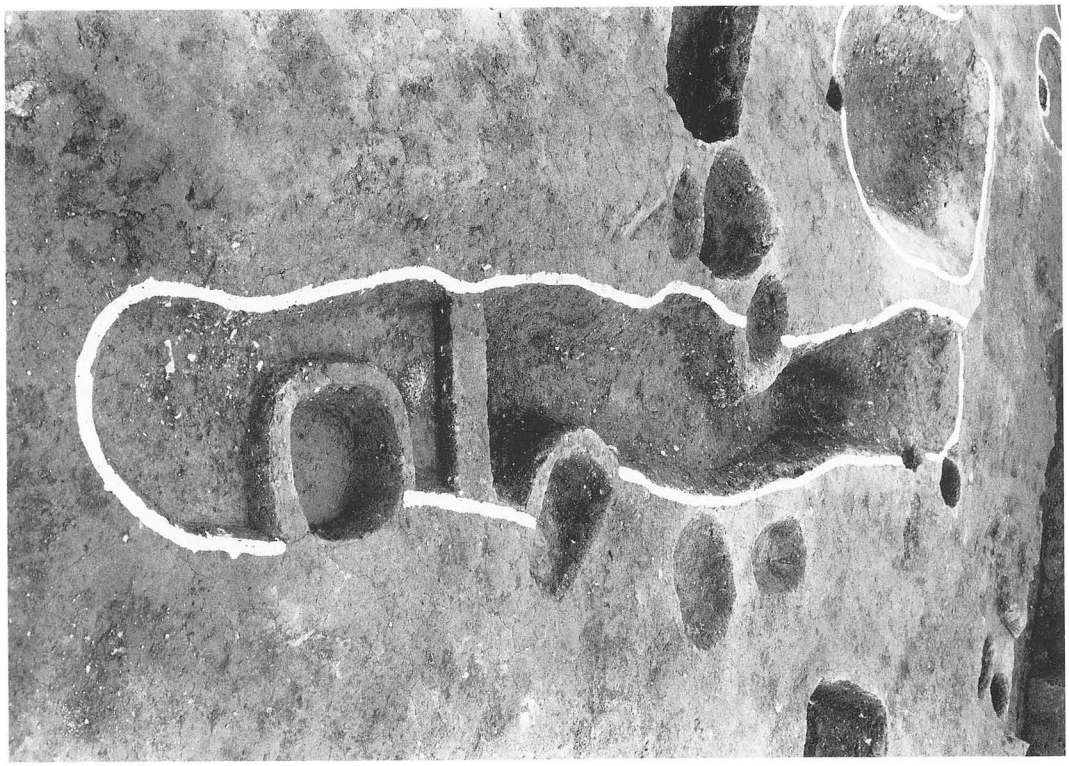


SK－1完掘（南から）

図版四　遺構写真



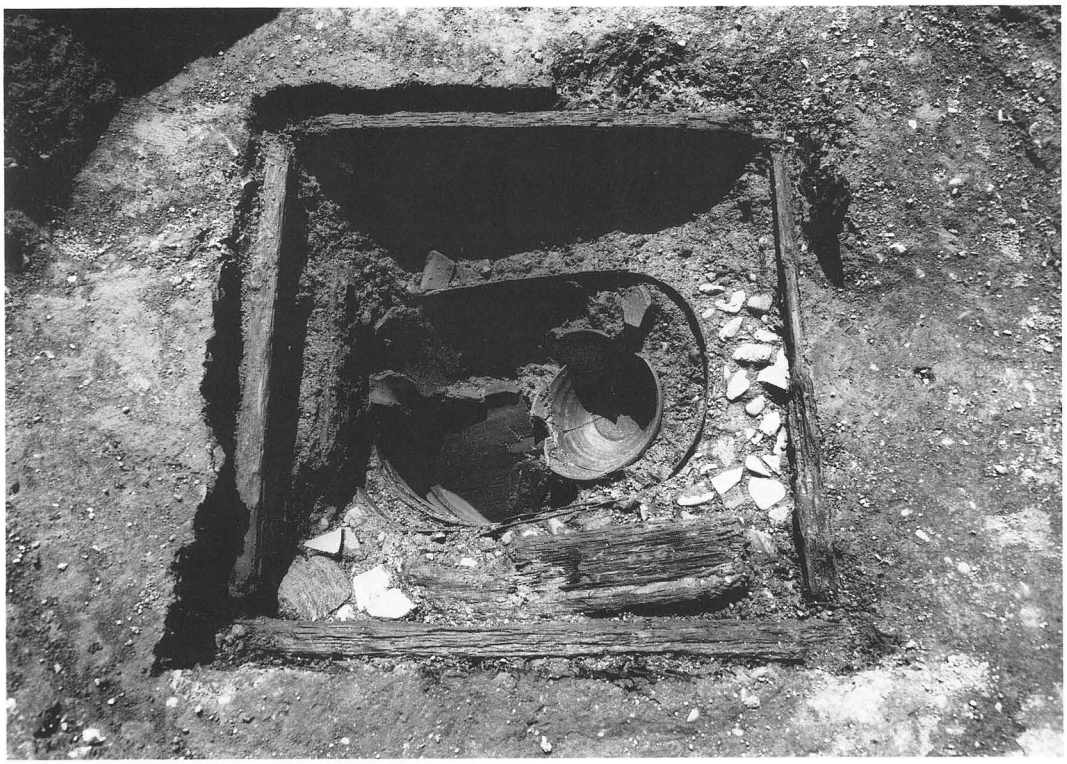
SK－4（東から）



SK－7（西から）

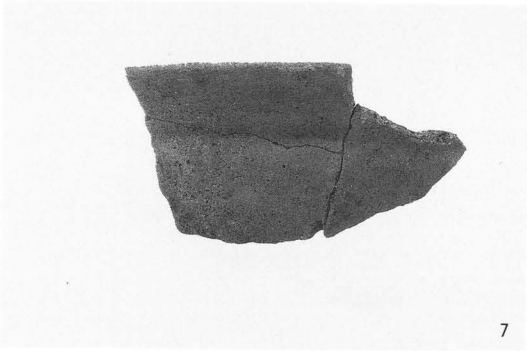
南部小穴群（北から）

SE－1（南から）

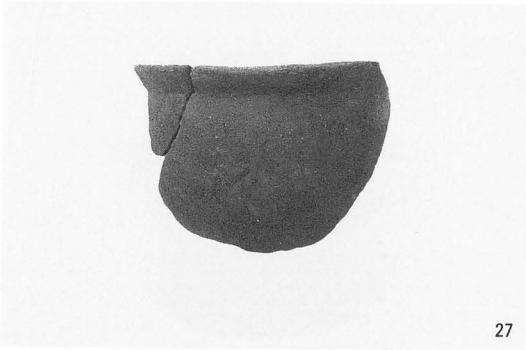


SE－１枠内遺物（南から）

SE－１断ち割り（東から）

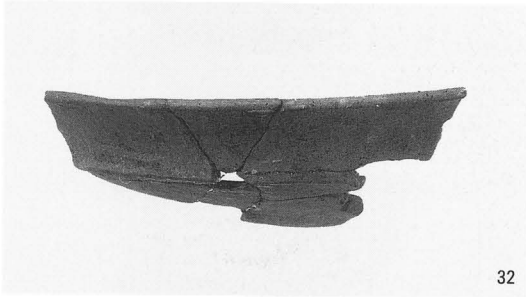

7

23


27

28

30


32

33

35

図版八　出土遺物

41

47

44

51

50

52

68

SK－1　41・44・47・50～52　SE－168

Ⅴ　東郷遺跡第35次調査（ＴＧ90－35）

例　　言

1．本書は、八尾市光町２丁目19で行った共同住宅建設に伴う発掘調査の報告書である。

1．本調査は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第128号　平成２年12月27日）に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が、川口建設株式会社から委託をうけて実施したものである。

1．本調査は、当調査研究会が東郷遺跡内で実施した第35次調査である。

1．現地調査は、当調査研究会　坪田真一を担当者として、平成３年３月４日に着手し、同年３月19日に終了した。調査面積は140㎡である。

1．現地調査には、岡田聖一・小山正子・坂下　学・濱田千年・松下哲也の参加を得た。

1．内業整理には上記の他、岩本順子・田島和恵・都築聡子・宮崎寛子・山内千惠子の参加を得た。

1．本書の執筆・写真撮影及び編集は坪田が行い、遺物観察表を田島・山内が作成した。

本　文　目　次

第１章　調査に至る経過 ……101

第２章　周辺の地理的・歴史的環境 ……101

第３章　調査概要 ……103

　第１節　調査方法 ……103

　第２節　基本層序 ……103

　第３節　検出遺構と出土遺物 ……104

第４章　出土遺物観察表 ……112

第５章　まとめ ……113

表　目　次

表１　竪穴住居内ピット（Ｐ－１～６）法量表 ……107

表２　第２次面ピット（ＳＰ201～210）法量表 ……110

挿　図　目　次

第１図　調査地位置図（Ｓ＝１／5000）……102
第２図　調査区設定図（Ｓ＝１／400）……103
第３図　基本層序（Ｓ＝１／40）……103
第４図　第１次面平面図（Ｓ＝１／100）……104
第５図　第２次面平面図（Ｓ＝１／100）……105
第６図　ＳＩ201・202平面図（Ｓ＝１／50）……106
第７図　ＳＫ202平・断面図（Ｓ＝１／50）……108
第８図　ＳＫ205・206、ＳＤ203平・断面図（Ｓ＝１／50）……108
第９図　出土遺物（Ｓ＝１／４）……109
第10図　ＳＤ202平・断面図（Ｓ＝１／30）……111
第11図　ＳＤ202出土遺物（Ｓ＝１／４）……111

図　版　目　次

図版一　南区　第１次面全景（東から）
　　南区　第２次面全景（東から）
図版二　南区　第２次面全景（北から）
　　ＳＤ204西壁遺物（３）出土状況（東から）
図版三　北区　第２次面全景（東から）
　　北区　第２次面全景（北から）
図版四　出土遺物

第１章　調査に至る経過

東郷遺跡は八尾市の中央やや北西に位置し、現在の行政区画では北本町・東本町・光町・桜ケ丘・荘内町がその範囲となっている。

当遺跡発見の契機は、昭和46年に八尾市東本町２丁目（光明寺付近）において行われた水道管埋設工事の際、奈良時代の墨書人面土器が出土したことに遡る。そして最初の発掘調査として昭和56年、桜ケ丘２丁目において八尾市教育委員会により試掘調査が行われ、古墳時代から鎌倉時代の遺物包含層が検出された。以降、八尾市教育委員会・大阪府教育委員会・当調査研究会により数次にわたる発掘調査が行われ、これらの調査成果から、当遺跡は弥生時代中期から近世にわたる複合遺跡であることが確認されている。

このような情勢下、平成２年、川口建設株式会社より、八尾市光町２丁目19における貸事務所建設の届出書が八尾市教育委員会文化財室に提出された。これを受けた同文化財室では、当該地が周知の遺跡範囲内にあることから発掘調査が必要であると判断し、事業者にその旨を通知した。そして、工事により遺構の破壊が予想される部分を対象に、発掘調査を実施することが両者で合意された。発掘調査にあたっては、事業者・同文化財室・当調査研究会の三者協定により、当調査研究会が主体となって実施することとなった。

なお今回の調査地の周辺では、当調査研究会により第８～11次調査が行われており、古墳時代前期の竪穴住居等の集落遺構が検出されている。

第２章　周辺の地理的・歴史的環境

当遺跡は、地理的には旧大和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置している。この南北方向に形成された沖積地上には連綿と遺跡が連なり、当遺跡は北で萱振遺跡、南で成法寺遺跡、南東で小阪合遺跡と接している。また西側には江戸時代の町並みを残す八尾寺内町が位置している。

ここではこれまでの調査成果から当遺跡の概要を簡単にまとめる。

当遺跡で確認された遺構で最古のものは弥生時代中期（第Ⅳ様式）にさかのぼり、土坑が西部で検出されている。また第Ⅲ様式の土器も河川から出土しており、集落が存在する可能性もある。続く弥生時代後期では東部で土坑・土器集積、西部で溝等が検出されている。

古墳時代前期では庄内式古相の集落が中央部から西部、南部で、また北部では方形周溝墓・

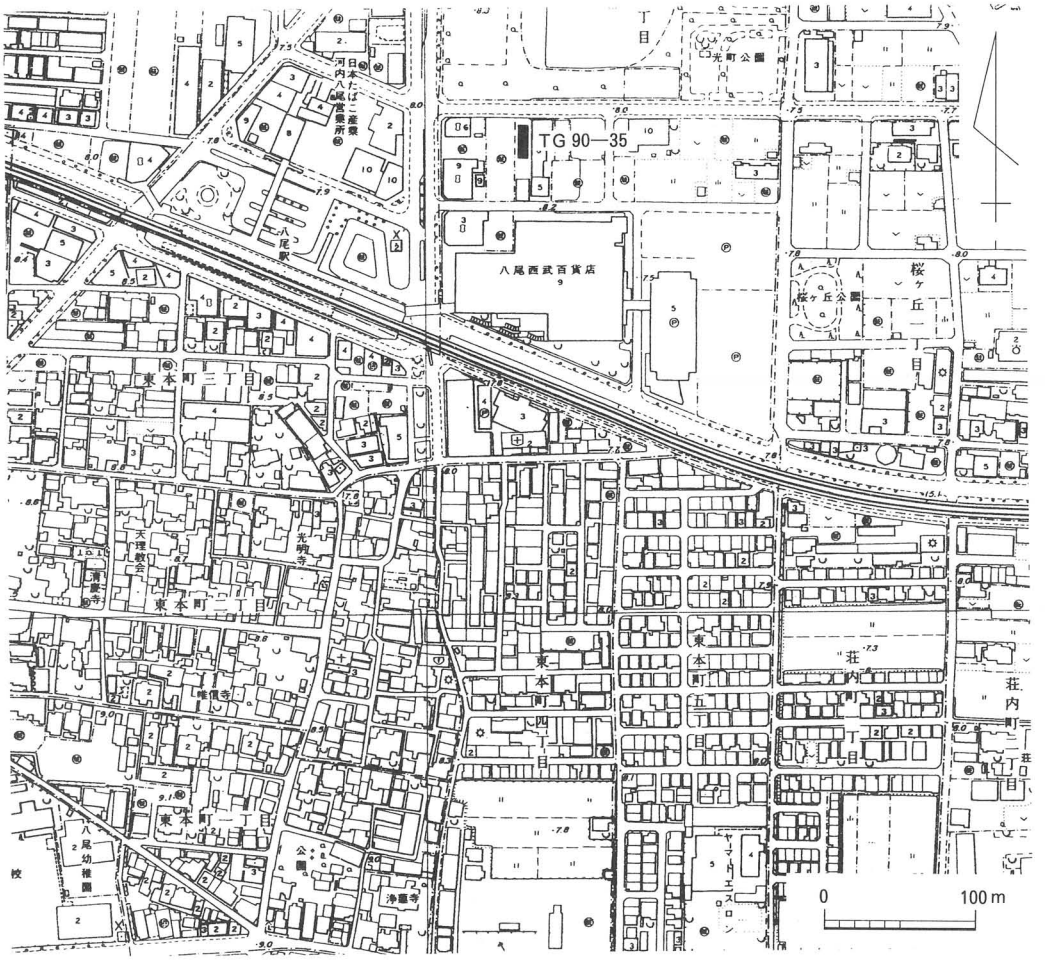
土器棺墓から成る墓域が確認されている。この集落は続く庄内式新相から布留式古相にはやや東に拡大しており、東西に細長い集落範囲が想定されている。そしてこの集落の北側と南側の縁辺には方形周溝墓による墓域が確認されている。

古墳時代中期から後期は東部で集落遺構が検出されている。また南西部では後期から飛鳥時代の水田が検出されている。

奈良時代では南西部で前述の墨書人面土器が出土しているが、明確な遺構は検出されていない。

平安時代では東部で大規模な整地層が確認されており、またそれに伴う集落遺構が検出されている。中央部から西部では水田・井戸が、また南西部でも井戸が検出されており、広範囲な生産域が想定される。

室町時代では南西部で、屋敷地を区画していたと考えられる石垣を備えた堀が検出され、西部に隣接する後の八尾寺内町との関連が注目されている。



第１図　調査地位置図（S＝１／5000）

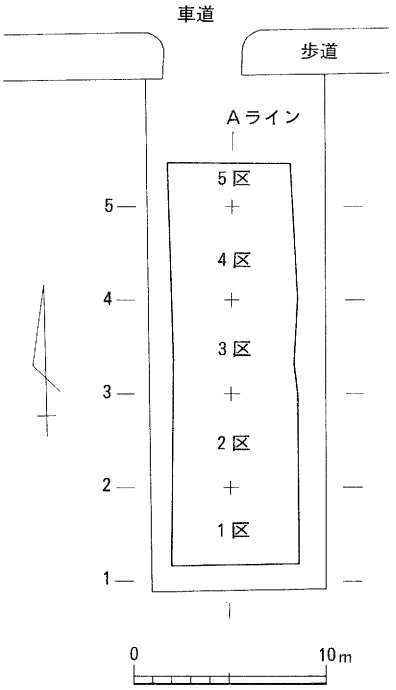
第３章　調査概要

第１節　調査方法

今回の調査は貸事務所建設に伴う調査で、調査区平面形は南北に長い長方形である。掘削排土処理の都合から調査区を南区・北区に分割し、南区から調査を行った。

調査では周辺の発掘調査成果を参考に、現地表下1.5ｍ～1.8ｍを機械掘削とし、以下を人力掘削により行った。

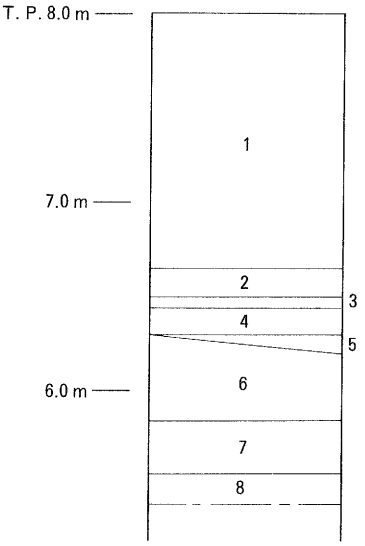
地区割については、調査区平面形に合わせて５ｍ方眼を任意に設定し、実測・遺物取り上げの基準とした。なおこの方眼の南北ラインは、磁北から東に約1.5度振っている。



第２図　調査区設定図（Ｓ＝１／400）

第２節　基本層序

第１層～第３層は近世の盛土・旧耕土・床土である。第４層は近世までの遺物の小片を少量含んでいる。第５層は調査区南半部でみられ、古墳時代後期頃までの遺物を少量含んでいる。この上面が第１次面で、標高約6.3ｍを測る。第６層上面が第２次面となり、標高約6.2ｍ～6.3ｍを測り、第５層の影響で南部が低くなっている。下層確認調査では第６層以下から遺物は出土していない。



第３図　基本層序（Ｓ＝１／40）

第３節　検出遺構と出土遺物

・第１次面

調査区南半部で土坑１基（ＳＫ101）・溝４条（ＳＤ101～104）を検出した。

ＳＫ101

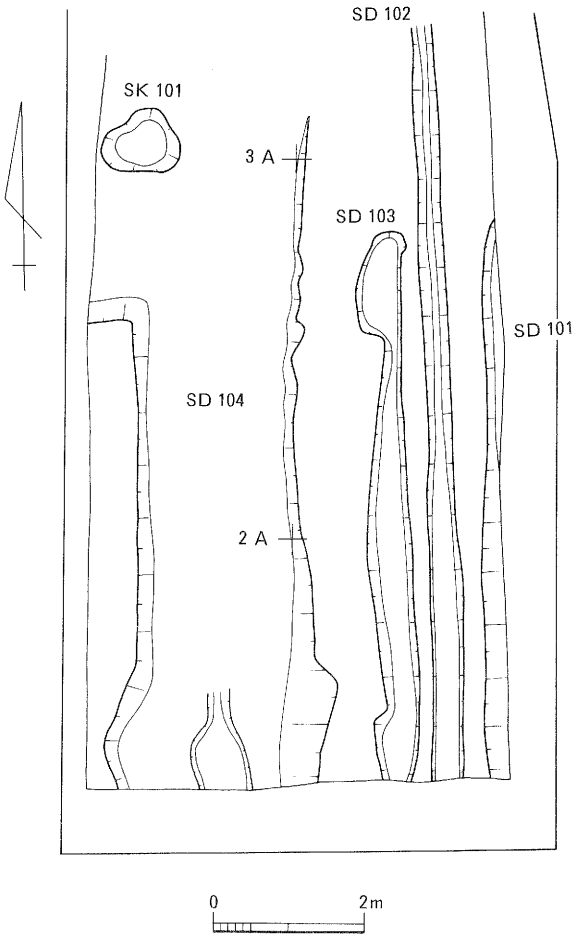
平面形は長辺約1.0ｍ・短辺約0.8ｍの不定型を呈し、深さ約24㎝を測る。断面皿状で、埋土は上層が暗灰青色細砂混じり粘土、下層が暗褐青色微砂混じり粘土である。遺物は全く出土していない。

ＳＤ101～103

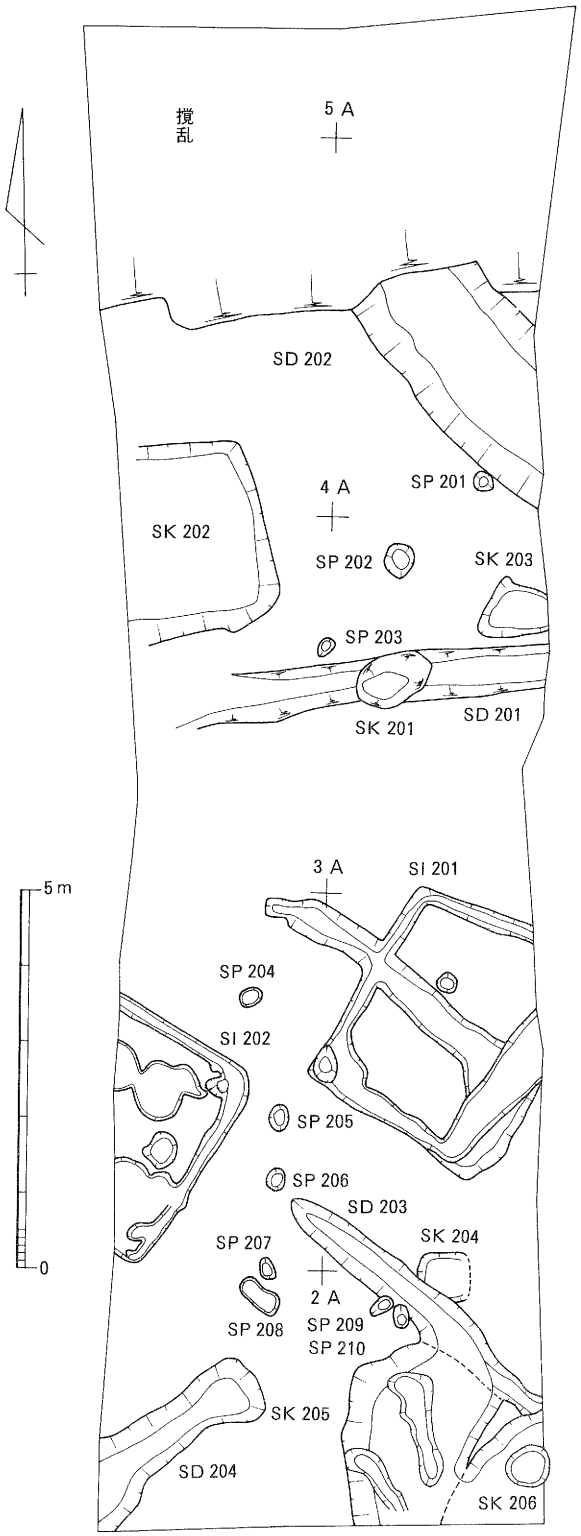
ほぼ南北方向に直線的にのびる素掘りの溝で、規模は幅30～60㎝・深さ10～20㎝を測る。断面形状は、ＳＤ101・103が皿状、ＳＤ102が逆台形を呈し、埋土はいずれも灰黄色粘質シルトである。間隔はＳＤ101・102間が25㎝～45㎝、102・103間が20㎝～30㎝を測る。出土遺物は近世までの遺物の細片を含んでおり、近世の農耕に関連する溝と考えられる。

ＳＤ104

ほぼ南北方向、ＳＤ101～103と平行してのびる溝で、長さ約9.0ｍにわたって検出したが、北部は削平されているようである。規模は幅2.0ｍ～2.8ｍ・深さ10㎝～30㎝を測り、底部のレベルは南部がやや低くなっている。断面皿状で、埋土は暗灰青色細砂～粗砂でマンガンを多く含んでいる。検出状況や埋土から河川の痕跡と考えられ、底部には数か所で砂の堆積する足跡状の窪みがあり、また南部の底部では幅約0.7ｍにわたる溝状の落ち込みがみられる。古墳時代前期～中世頃の遺物を含んでいる。



第４図　第１次面平面図（Ｓ＝１／100）



第５図　第２次面平面図（S＝１／100）

・第２次面

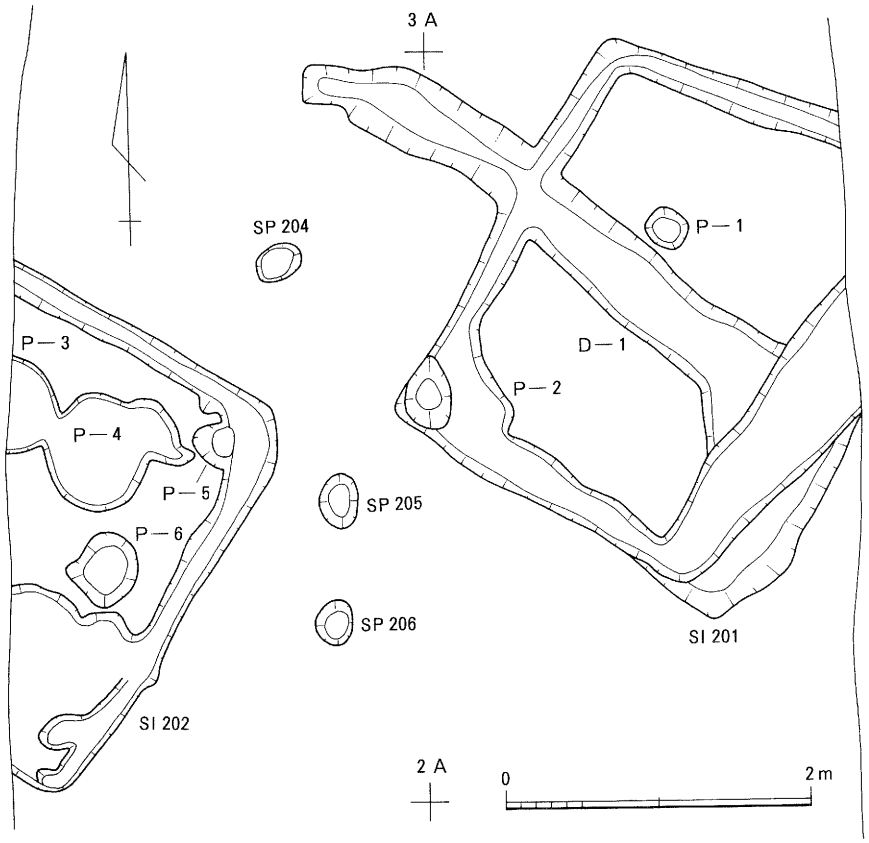
竪穴住居２棟（ＳＩ201・202）・土坑６基（ＳＫ201～206）・溝４条（ＳＤ201～204）・ピット10個（ＳＰ201～210）を検出した。

ＳＩ201

平面形は約3.2ｍ×2.7ｍの長方形を呈し、北東部は調査区外になっている。床面のレベルは標高約6.15ｍを測り、方向は北から東に約30度振っている。検出面がほぼ床面にあたり、壁は南部で最高約５㎝が遺存しているのみである。

壁溝は全周していると考えられ、幅20～65㎝で東辺が幅広になっている。深さは約10㎝を測り、断面皿状で、埋土は暗褐色微砂混じり粘土である。ピットは床面で１個（Ｐ－１）、壁溝内の南西角で１個（Ｐ－２）を検出した。いずれも浅いもので、主柱穴にはならないと考えられ、柱構造等は不明である。ピットの法量等は表１にまとめた。

また、壁溝東辺中央から伸び、壁溝西辺中央で合流した後北西外に至る溝（Ｄ－１）を有している。壁溝との切り合いが認められなかったため住居に伴う施設とした。Ｄ－１は全長3.7ｍ・幅約50㎝、深さは床面で12㎝、壁溝外で16㎝を測り、外側が深くなっている。断面ほぼ逆



第６図　ＳＩ201・202平面図（Ｓ＝１／50）

台形で、埋土は上層が灰褐色微砂混じり粘土、下層が暗灰黄色微砂混じり粘土である。

遺物は壁溝から古墳時代前期に比定される土器片が少量出土している。

ＳＩ202

ほぼ東半分のみの検出で全容は不明である。平面方形で、東辺は一辺約3.0ｍを測り、方向はＳＩ201とほぼ同一である。検出面がほぼ床面にあたり、壁はほとんど遺存していない。

壁溝は幅約20cm・深さ約６cmを測り、断面逆台形を呈し、埋土は淡灰褐色粘質土である。ピットは床面で４個（Ｐ－３～６）を検出したが、いずれも深さ５cm～10cmの浅い落ち込み状を呈し、主柱穴にはならないと考えられる。ピットの法量等は表１にまとめた。

遺物は古墳時代前期に比定される土器片が少量出土している。

	平面形	長辺×短辺×深さ（cm）	埋土
Ｐ－１	不整円形	２６×２４×１１	暗灰色粘質シルト
Ｐ－２	不整円形	５０×２９×１０	暗褐色微砂混じり粘土
Ｐ－３	不明	６６×－×８	淡灰黄色粘質シルト
Ｐ－４	楕円形	８０×５８×８	淡灰黄色粘質シルト
Ｐ－５	不明	３２×－×１０	淡灰褐色粘質土
Ｐ－６	不整円形	４４×３８×１０	淡灰黄色粘質シルト

表１　竪穴住居内ピット（Ｐ－１～６）法量表

ＳＤ201・ＳＫ201

ＳＫ201はＳＤ201を切っている。ＳＤ201は床土上面から掘り込まれるもので、ごく近代の農耕に伴う施設と考えられる。ＳＫ201は底部が湧水層に達しており、近代の井戸の下部である可能性がある。

ＳＫ202

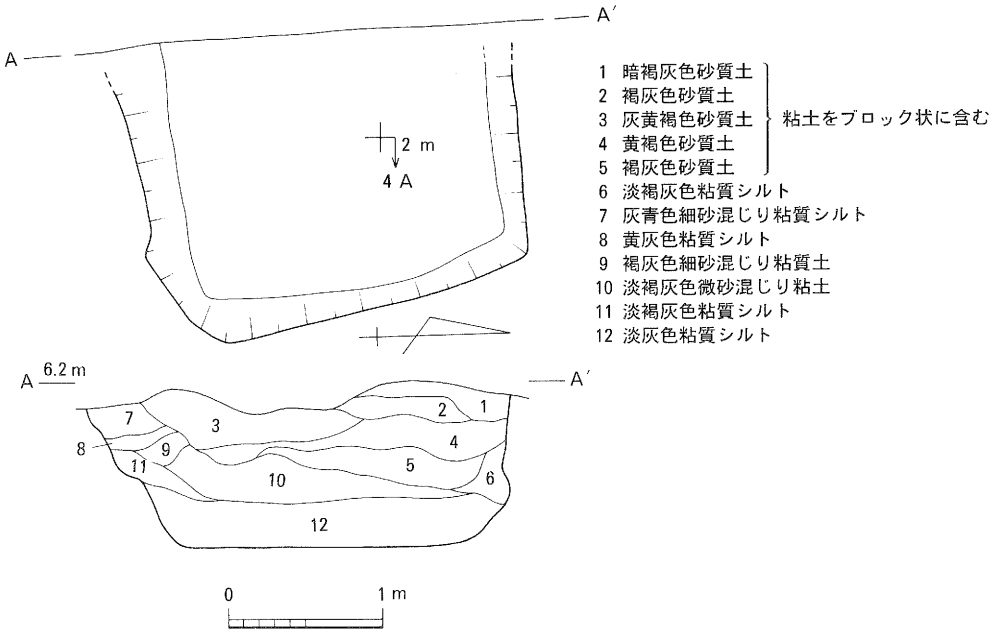
西側が調査区外のため全容は不明であるが、検出部分から平面形は一辺約2.5ｍの方形を呈すると考えられる。検出部の深さは約1.0ｍで底部は湧水層に達している。埋土は上層が褐灰色系の砂質土で粘土のブロックを含んでおり、下層は淡灰色粘質シルトである。遺物を全く含んでいないため時期は不明であるが、床土直下から掘り込まれており近世頃の可能性がある。遺構の性格については、埋土上層部が一気に埋められた状況を呈していることや、底部が湧水層に達していることなどから、廃絶された井戸である可能性がある。

ＳＫ203

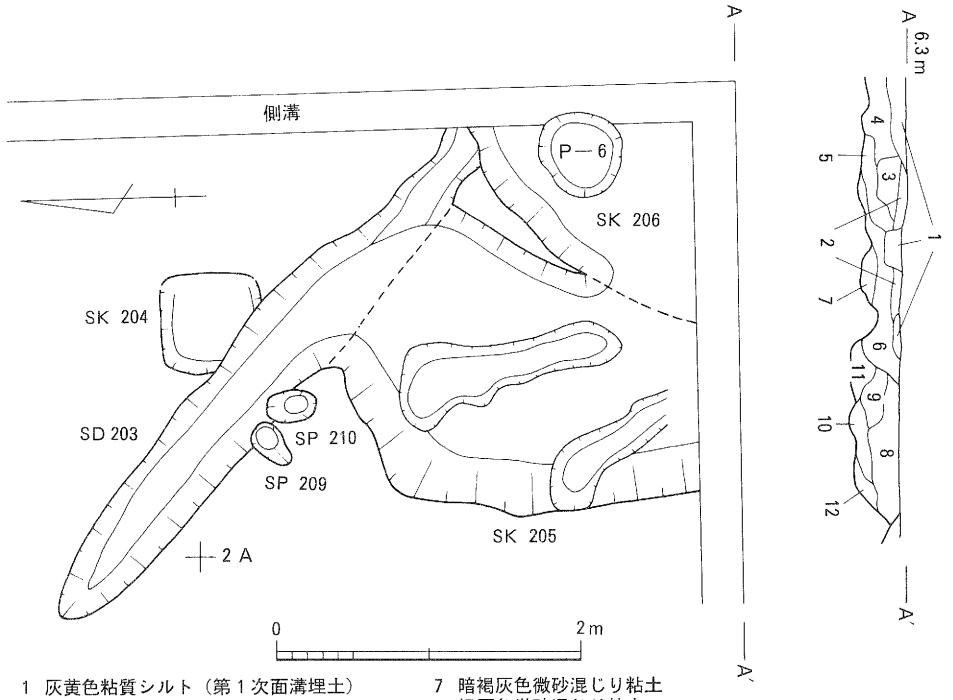
平面形は長辺87cm以上・短辺約82cmの不定形を成し、深さ８cmを測る。断面皿状で、埋土は灰青色粘土混じりシルトである。遺物は出土していない。

ＳＫ204

平面形は一辺約65cmの方形を呈すると考えられ、深さ約８cmを測り、埋土は淡褐色粘質シル



第７図　SK202平・断面図（S＝１／50）



第８図　SK205・206、SD203平・断面図（S＝１／50）

トである。南西部はＳＤ203に削平されている。出土遺物には器種不明の（１）がある。

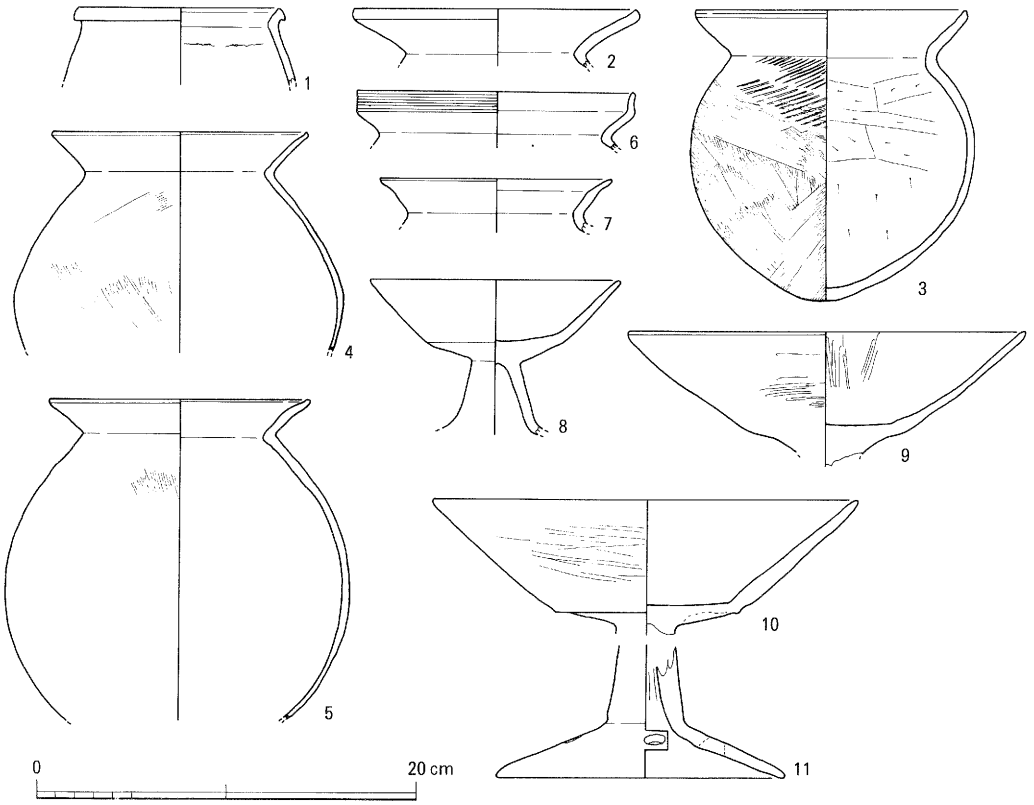
ＳＫ205

調査区南端で検出した平面不定形の土坑で、規模は南北2.7ｍ以上、東西2.0ｍ以上、深さ約20㎝を測る。東側はＳＫ206によって削平されており、また北側はＳＤ203と連続するが、切り合い関係は不明である。底部には凹凸があり、二か所で溝状の落ち込みがみられた。埋土は黄褐灰色系の粘質シルト～粘土である（第８図)。出土遺物から、時期は古墳時代前期（庄内式期）と考えられる。

ＳＫ206

調査区南東角で検出した土坑で、北端でＳＤ203を切っている。規模は南北1.8ｍ以上・東西1.7ｍ以上・深さ約30㎝を測る。底部には凹凸があり、また直径約55㎝・深さ約８㎝を測る円形の浅い土坑状の落ち込みがみられた。埋土は上から黄褐灰色系の粘質シルト～粘土であり（第８図)、第４層に土器・炭が多く含まれている。出土遺物（４～11）から、時期は古墳時代前期（庄内式期）と考えられる。

なお断面観察から当遺構は竪穴住居になる可能性があり、昭和57年度第11次調査のＳＩ２に



第９図　出土遺物（S＝１／４）

連続する可能性がある。

ＳＤ202

調査区北東角で検出した北西－南東方向の溝で、北部は後世の撹乱により削平され、南部は調査区外に続く。規模は検出長約3.6ｍ・幅約1.8ｍ・深さ約50㎝を測る。断面逆台形を呈し、底部はベースの湧水層に達している。埋土は上層が灰褐色系の砂混じり粘土～粘質土、下層が淡灰青色細砂混じり粘質シルトである。遺物は上層部から完形に近い甕等（12～15）が出土しており、時期は古墳時代前期（庄内式期新相）に比定される。

なお当溝は、東側の第11次調査のＳＤ２に連続するものと考えられ、長さ22ｍ以上の直線的に伸びる溝となる。

ＳＤ203

調査区南東角で検出した北西－南東方向の溝で、南部はＳＫ206に削平され、調査区外に続いている。検出長約4.2ｍ・幅25㎝～55㎝・深さ６㎝～16㎝を測り、底部のレベルは北西部が深くなっている。断面逆台形を呈し、埋土は明褐灰色微砂混じり粘土である。

ＳＤ204

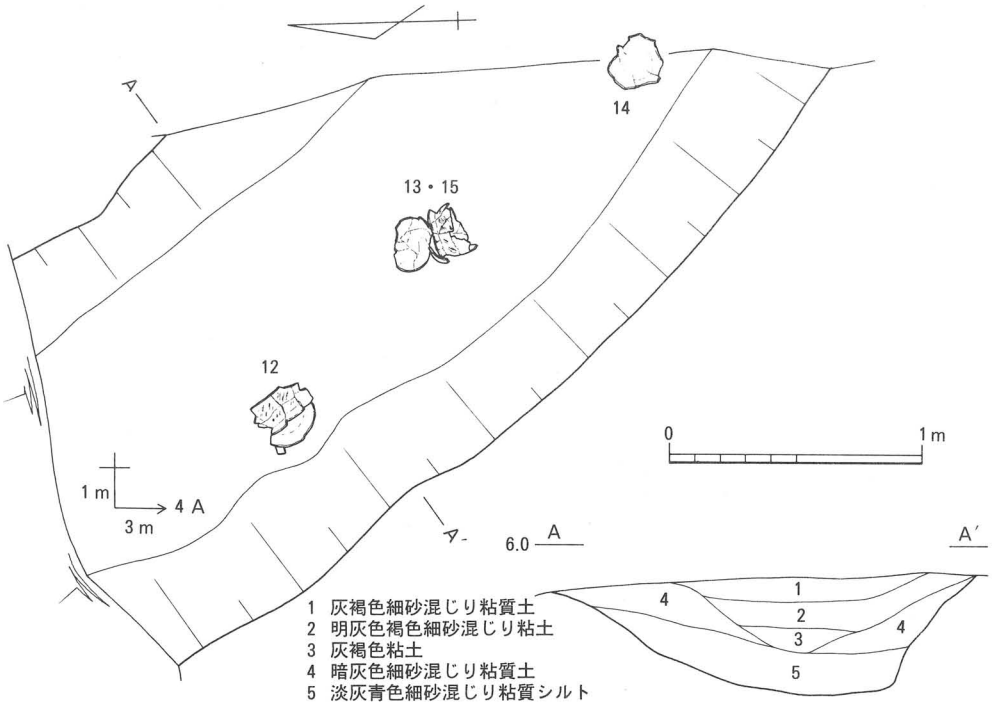
調査区南西角で検出した北東－南西方向の溝で、南部は調査区外に続いている。規模は検出長約3.0ｍ・幅0.6～1.0ｍ・深さ約20㎝を測る。断面逆台形を呈し、埋土は黄灰色粘土混じりシルトである。遺物は上層部から完形に近い甕（３）が出土しており、時期は古墳時代前期（庄内式期）と考えられる。

ＳＰ201～210

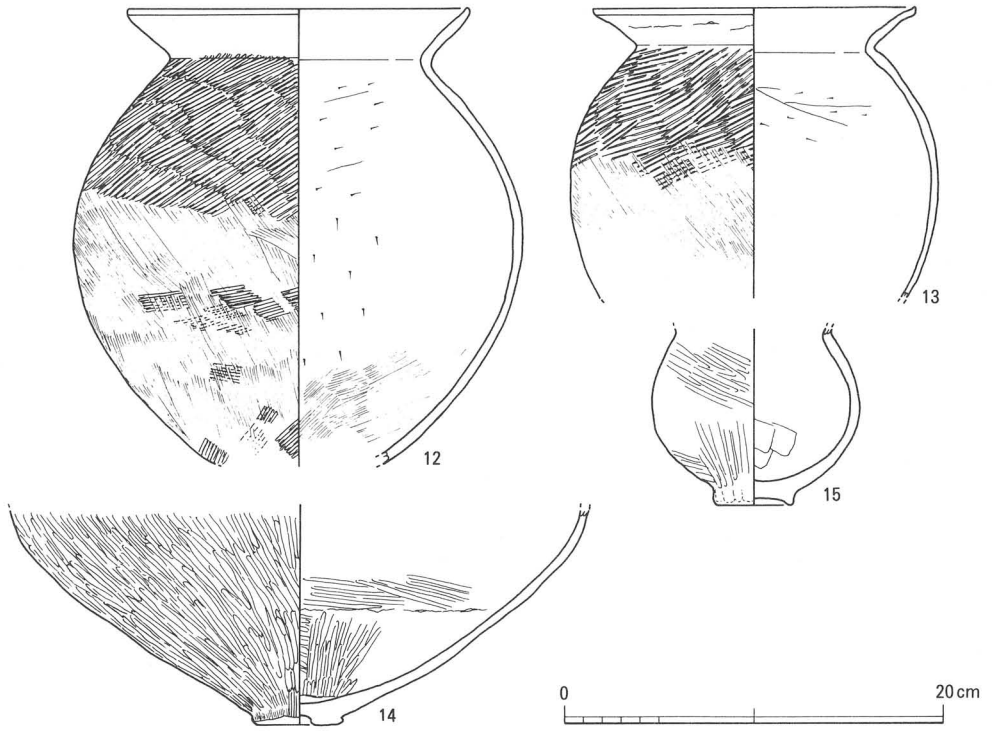
ＳＰ201～203は一列に並んでおり、柱間距離は約1.5ｍを測る。掘立柱建物等を構成する柱穴である可能性がある。他のピットには規則性は認められない。各ピットの法量等は表２にまとめた。

ＳＰ	平面形	長辺×短辺×深さ（㎝）		埋土（上から）
２０１	不整円形	３０×２７×１７	①②	①灰青色粘土混じりシルト
２０２	不整円形	４５×３９×３２	③	②灰黄色粘土
２０３	楕円形	２９×１９×１７	④⑤	③灰黄青色粘土混じりシルト
２０４	楕円形	３０×２３×６	⑥	④暗青灰色微砂混じり粘土
２０５	楕円形	３６×２５×９	⑦	⑤暗灰黄色粗砂混じり粘土
２０６	楕円形	３０×２４×１０	⑦	⑥褐灰色砂質土
２０７	楕円形	２９×１９×６	⑦	⑦灰褐色細砂混じり粘質土
２０８	長円形	５９×２４×１４	⑦⑧	⑧灰色粗砂
２０９	楕円形	３３×２０×１６	⑨	⑨灰青褐色粘質シルト
２１０	楕円形	３３×２２×１３	⑩	⑩淡褐色粘質シルト

表２　第２次面ピット（ＳＰ201～210）法量表



第10図　SD202平・断面図（S＝1／30）



第11図　SD202出土遺物（S＝1／4）

第４章　出土遺物観察表

遺物番号 図版番号	器種	出土地点	法量(cm) (復元値) 口径 器高	色調 外 内	胎土	焼成	技法・形態等の特徴	残存 備考
1	弥生 口縁部	ＳＫ204	(10.8)	暗茶色	やや粗	良好	ナデ。	¼ 反転
2	土師器 甕	ＳＤ104	(14.8)	黄褐色	密	良好	口縁部ナデ。肩部内面ヘラケズリ。	⅛ 反転
3 四	土師器 甕	ＳＫ204	14.2 15.4 最大径　14.9	明茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部外面タタキ、内面ナデ。底体部外面ハケ、内面ヘラケズリ。底部外面煤付着。	¾ 一部反転
4	土師器 甕	ＳＫ205 ＳＫ206	(13.6)	灰茶色	やや粗	良好	口縁部ナデ。底体部外面ハケ、内面ナデ。内外面煤付着。	¼ 反転
5	土師器 甕	ＳＫ206	(13.4) 最大径　18.3	茶褐色	密	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ、内面ナデ。煤付着。	¼ 反転
6	土師器 甕	ＳＫ205 ＳＫ206	(14.6)	暗褐色	密	良好	口縁部外面ハケ。頸部外面ナデ。	⅛ 反転
7	土師器 甕	ＳＫ205 ＳＫ206	(12.2)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部内面ヘラケズリ。	⅙ 反転
8 四	土師器 高杯	ＳＫ206	(13.1)	淡茶色	やや粗	良好	口縁部内面ヨコナデ。脚柱部内面ナデ。	杯部⅜ 一部反転
9 四	土師器 高杯	ＳＫ206	20.6	茶褐色 乳灰褐色	密	良好	ナデ後ヘラミガキ。	ほぼ完形
10 四	土師器 高杯	ＳＫ205 ＳＫ206	(22.5)	赤茶色	やや粗	良好	ナデ後外面ヘラミガキ。11と同一個体。	¾ 一部反転
11 四	土師器 高杯	ＳＫ205 ＳＫ206	脚底径　15.4	赤茶色	やや粗	良好	脚柱部外面ヨコナデ、内面しぼり目。脚部３方向に円孔。10と同一個体。	⅔ 一部反転
12 四	土師器 甕	ＳＤ202	18.2 最大径　(24.0)	黄茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。体部外面タタキ後下半ハケ、内面ヘラケズリ。底部内面ハケ。外面煤付着。	体部½欠損 一部反転
13 四	土師器 甕	ＳＤ202	17.5 最大径　(19.6)	黒褐色	密	良好	口縁部ヨコナデ。体部外面タタキ後下半ハケ、内面ヘラケズリ。	体部½欠損 一部反転
14 四	土師器 壺	ＳＤ202	底径　4.8	黒灰色	やや粗	良好	底体部ヘラミガキ。底部外面ハケ。	底部½ 一部反転
15	土師器 壺	ＳＤ202	底径　4.3	乳黄茶色	やや粗	良好	頸部ヨコナデ。底体部外面ヘラミガキ、内面上位ナデ、下位ハケ。底部下面ナデ。	底部のみ 一部反転

第５章　まとめ

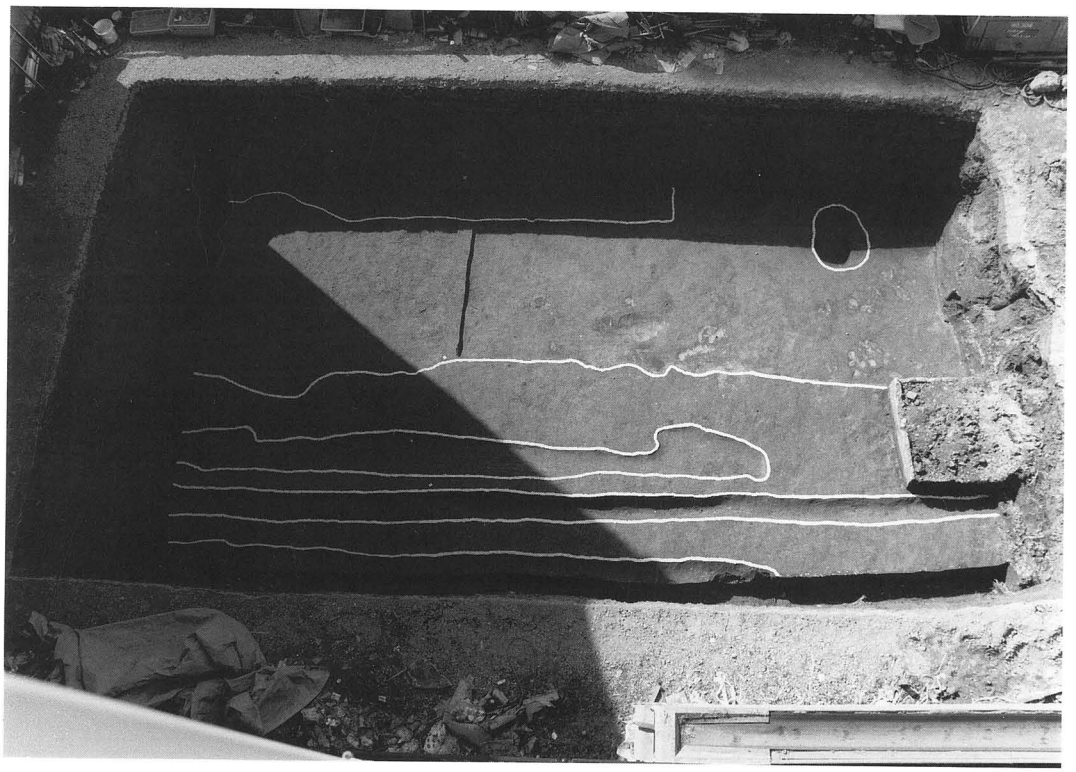
今回の調査では、竪穴住居・溝等の古墳時代前期の集落遺構を確認した。東側に隣接する第11次調査では竪穴住居６棟、南西に約40ｍの第８次調査では竪穴住居２棟・掘立柱建物10棟が確認されており、これらの成果からも予測されていたものである。第８次調査の南側にあたる第10次調査では南東－北西方向の河川が検出されており、この北側に居住域が広がっているようである。

なお今回検出された竪穴住居は、周辺の調査のものに比してやや小規模なものであるといえる。またＳＤ202については、北東部第11次調査で約７ｍの間隔をもって平行する同規模の溝が検出されており、これらは居住域を区画する溝である可能性が考えられる。

参考文献

当調査研究会「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告　昭和63年度　Ⅰ東郷遺跡」1989
（財）八尾市文化財調査研究会報告17

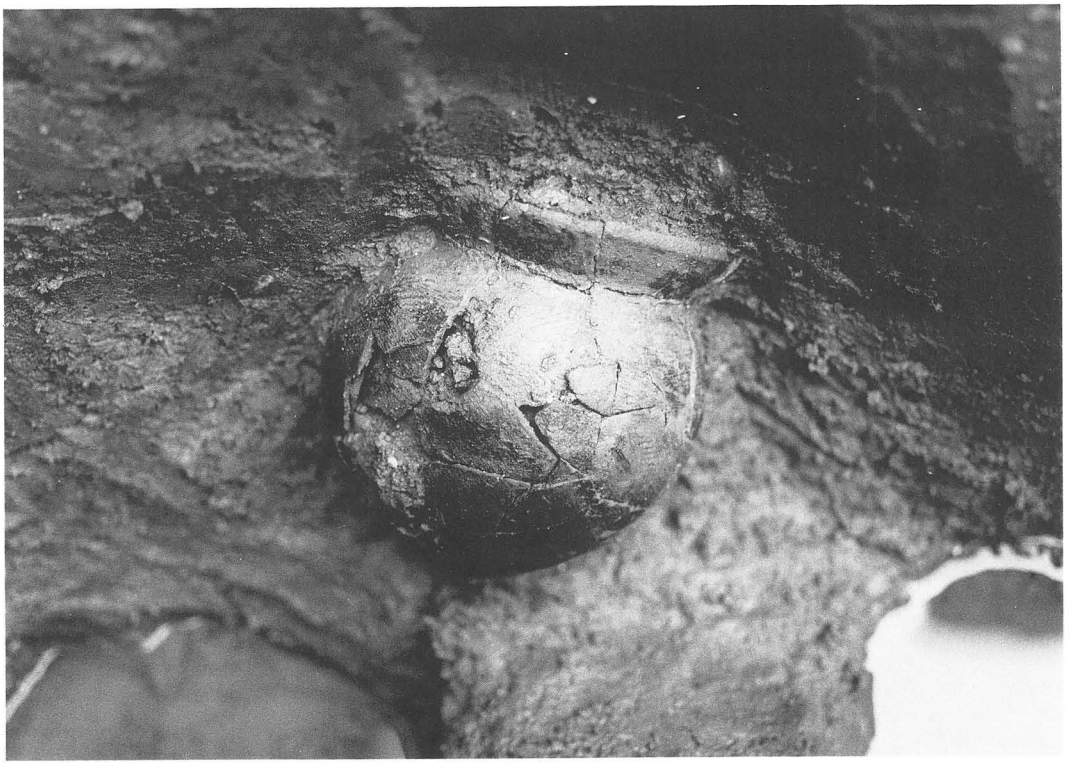
図　　版



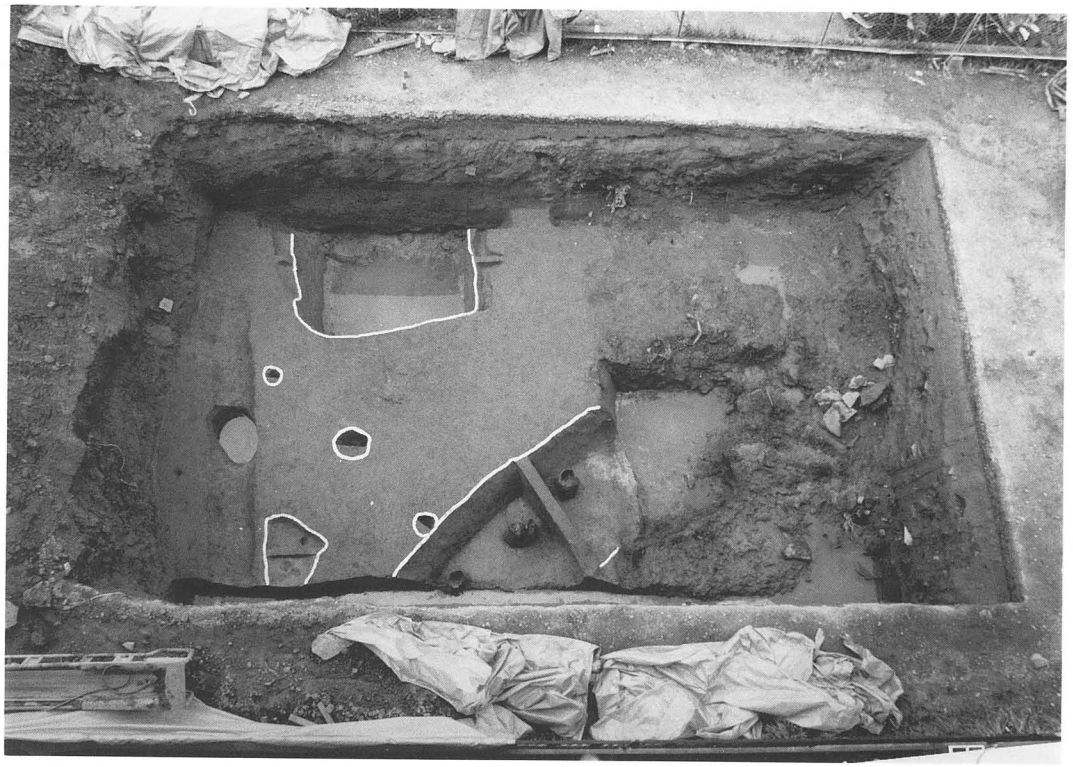
南区　第１次面全景（東から）

南区　第２次面全景（東から）

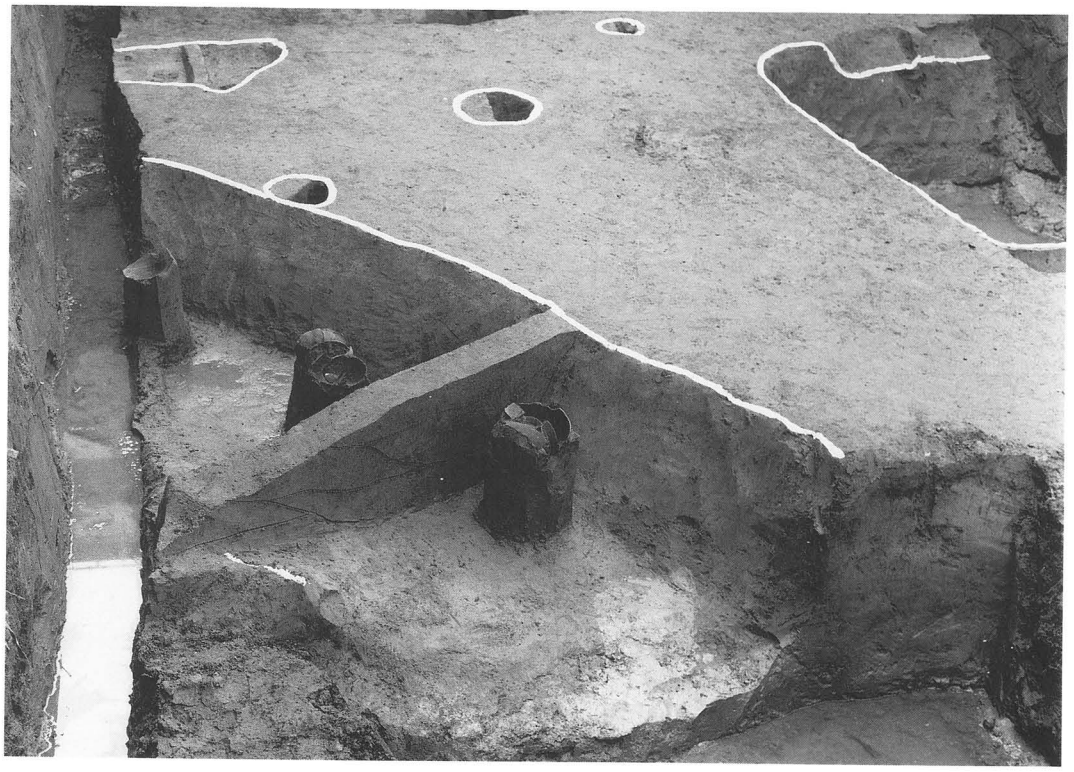
南区　第２次面全景（北から）



SD204西壁遺物（３）出土状況（東から）



北区　第２次面全景（東から）



北区　第２次面全景（北から）

3

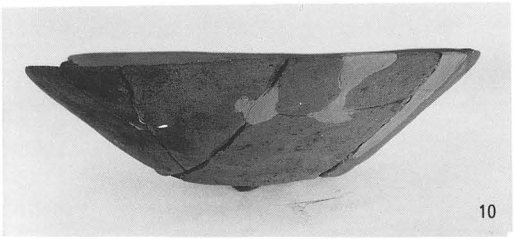
12

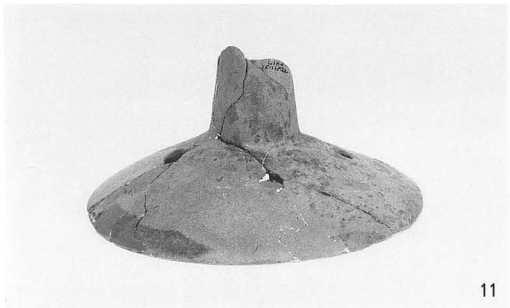
8

13

9

14


10


11

3 : ＳＤ204
8・9 : ＳＫ206
10・11 : ＳＫ205・206
12～14 : ＳＤ202

Ⅵ　八尾南遺跡第７次調査（ＹＳ 86－７）

例　　言

1．本書は八尾市木の本110で実施した仮称第２大正小学校建設事業に伴う発掘調査の報告である。

1．本書で報告する八尾南遺跡第７次調査（ＹＳ86－７）の発掘調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市長山脇悦司から委託を受けて実施したものである。

1．現地調査は昭和62年２月10日から同年７月８日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積約3043㎡を測る。なお調査においては麻田優・岡田聖一・小林智恵・田村文・前田洋介・山口ひろみ・武田正泰・小西博樹・岡田清一が参加した。

1．内業整理は、現地調査終了後実施し平成６年３月31日に完了した。

1．本書作成に関わる業務は、遺物実測－中西明美・西村和子、図面レイアウト、トレース－西村（公）・中西・西村（和）・森下玲子・能勢尚樹、遺物写真撮影－西村（公）が行った。

1．本書の執筆および編集は西村（公）が行った。

本　文　目　次

第１章　はじめに ……115

　第１節　地理・歴史的環境 ……115

　第２節　調査に至る経過 ……115

第２章　調査概要 ……117

　第１節　調査の方法と経過 ……117

　第２節　基本層序 ……119

　第３節　第１区～第３区検出遺構・出土遺物 ……123

　第４節　第４区検出遺構・出土遺物 ……153

第３章　出土遺物観察表 ……168

第４章　まとめ ……176

挿　図　目　次

第１図　調査地周辺図 ……116
第２図　調査区設定図 ……118
第３図　基本層序（第３区北壁面・第４区北壁面）……121・122
第４図　畦畔109　断面図……124
第５図　第１区第１面平面実測図……125・126
第６図　第２区第１面平面実測図……127・128
第７図　第３区第１面平面実測図……129・130
第８図　ＳＤ－101（１～20）　第４層（21～26）出土遺物実測図 ……131
第９図　畦畔201　断面図……132
第10図　第６層（27～34）　第７層（35～51）出土遺物実測図……134
第11図　第１区第２面平面実測図……137・138
第12図　第２区第２面平面実測図……139・140
第13図　第３区第２面平面実測図……141・142
第14図　畦畔308　断面図……143
第15図　第11層（52・53）出土遺物実測図 ……143
第16図　第１区第３面平面実測図……147・148
第17図　第２区第３面平面実測図……149・150
第18図　第３区第３面平面実測図……151・152
第19図　畦畔115　断面図……153
第20図　第４層（54～56）出土遺物実測図 ……154
第21図　第４区第１面平面実測図 ……155
第22図　畦畔227　断面図……156
第23図　第５層～第７層（57～62）　第８層（63・64）出土遺物実測図……156
第24図　第４区第２面平面実測図 ……158
第25図　畦畔358　断面図……159
第26図　第４区第３面平面実測図 ……161
第27図　畦畔415　断面図……162
第28図　ＳＤ－401（65）　ＳＤ－402（66～80）　第11層（82）出土遺物実測図 ……164
第29図　ＳＤ－402（81）出土遺物実測図 ……165・166

第30図　第４区第４面平面実測図 ……167

表　目　次

第１表　八尾南遺跡および長原遺跡発掘調査一覧表 ……117
第２表　第１区～第３区第１面水田一覧表 ……123
第３表　第１区～第３区第１面畦畔一覧表 ……123
第４表　第１区～第３区第２面水田一覧表 ……133
第５表　第１区～第３区第２面畦畔一覧表 ……133
第６表　第１区～第３区第３面水田一覧表 ……145
第７表　第１区～第３区第３面畦畔一覧表 ……146
第８表　第４区第１面水田一覧表 ……153
第９表　第４区第１面畦畔一覧表 ……153
第10表　第４区第２面水田一覧表 ……157
第11表　第４区第２面畦畔一覧表 ……157
第12表　第４区第３面水田一覧表 ……160
第13表　第４区第３面畦畔一覧表 ……160
第14表　第４区第４面水田一覧表 ……163
第15表　第４区第４面畦畔一覧表 ……163

図　版　目　次

図版一　調査地周辺（北東から）
　　調査地周辺（東から）
図版二　第３区北壁（南から）
　　第４区北壁（南から）
図版三　第２区調査状況（北から）
　　第１区第１面調査状況（東から）
図版四　第１区第１面全景（東から）
　　第１区ＳＤ－101（南から）

図版五　第２区第１面全景（北から）
第３区第１面全景（東から）
図版六　第３区第１面畦畔109（南から）
第３区ＳＤ－101（北から）
図版七　第５層内遺物出土状況（南から）
第３区第２面調査状況（東から）
図版八　第１区第２面全景（東から）
第２区第２面畦畔201（南から）
図版九　第１区ＳＤ－201（南から）
第２区第２面全景（北から）
図版一〇　第３区第２面全景（東から）
第１区第３面全景（東から）
図版一一　第１区第３面畦畔308（南西から）
第２区第３面全景（北から）
図版一二　第３区第３面全景（東から）
第４区第１面調査状況（東から）
図版一三　第４区第１面調査状況（南東から）
第４区第１面全景（東から）
図版一四　第４区第２面全景（東から）
第４区第３面全景（東から）
図版一五　第４区第３面ＳＤ－301（南東から）
第４区第４面全景（東から）
図版一六　第４区ＳＤ－402（南東から）
第４区ＳＤ－402内遺物出土状況（南西から）
図版一七　第４区ＳＤ－401畦畔401（南東から）
第４区第４面畦畔415（南から）
図版一八　第６層（27・28・30～32）　第７層（44）　第11層（52・53・56）　第８層（63・64）
ＳＤ－401（65）出土遺物
図版一九　ＳＤ－402（69・70・74・75・77・80・81）　第11層（82）出土遺物

第１章　はじめに

第１節　地理・歴史的環境

八尾南遺跡は南から伸びる羽曳野丘陵の先端（河内台地）と河内平野が融合する部分に位置しており、現在の行政区画では若林町・西木の本一帯にある。

西隣に位置する大阪市長原遺跡は地域の違いによって名称を異にしているだけで、当遺跡とは同一の遺跡と考えられる。当遺跡周辺には、東に木の本遺跡、西に長原遺跡（大阪市）・瓜破遺跡（大阪市）、北には城山遺跡（大阪市）・亀井遺跡等が位置しており、南には太田遺跡・大正橋遺跡、大和川を挟んで小山遺跡（藤井寺市）・津堂遺跡（八尾市・藤井寺市）がある。

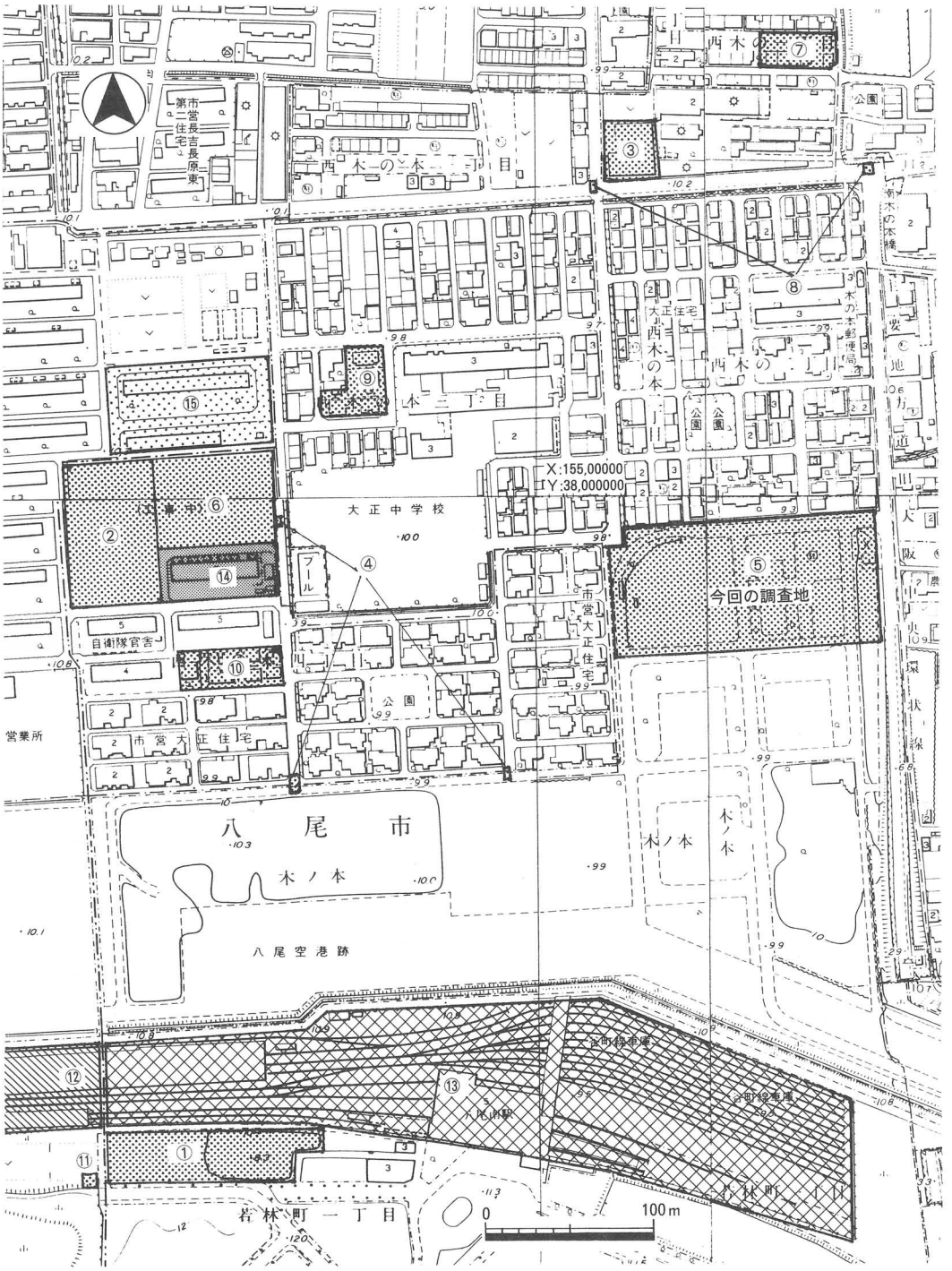
当遺跡は、昭和53～54年度に八尾南遺跡調査会が実施した発掘調査の結果から、長原遺跡とともに旧石器時代～鎌倉時代の複合遺跡として認識された。この調査以後、当遺跡範囲内では開発件数が増加しており、平成５年度までに、当調査研究会によって計19件の発掘調査が実施されている。また、当遺跡内では大阪府教育委員会や八尾市教育委員会でも数件の調査を行なっており、それらの結果、旧石器時代から江戸時代に至る遺構が検出されている。

参考文献

・八尾市役所「八尾市史」1958
・八尾南遺跡調査会　「八尾南遺跡」－大阪市高速電気軌道２号線建設に伴う発掘調査報告書－1981. 3
・財団法人　八尾市文化財調査研究会「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要」　昭和59年度　Ⅱ八尾南遺跡発掘調査概要報告　1985　（財）八尾市文化財調査研究会報告６
・財団法人　大阪市文化財協会「長原遺跡発掘調査報告書Ⅲ」 1983. 3

第２節　調査に至る経過

八尾南遺跡は大阪府八尾市の南部に位置しており、現在の行政区画では若林町・西木の本一帯の東西約800ｍ・南北約1500ｍの範囲にある。第１表と第１図に示したように地下鉄谷町線八尾南駅建設以後、当駅を中心に、ビル建設・下水道工事等の開発が多く、それに伴う発掘調査も多く行なわれている。このような情勢下、八尾市から木の本110において小学校新設の計画書が八尾市教育委員会文化財課に提出された。当文化財課では、計画地が八尾南遺跡の遺跡範囲内にあることから建設に先だって試掘調査を実施した。その結果、古墳時代の包含層を確認したことから、当調査研究会へ全面発掘調査が依頼されたものである。今回の調査地は、八尾南駅の北東側約150ｍに位置し、八尾南遺跡推定範囲内の北東部にあたる。調査は仮称第２大正小学校建設事業に伴うもので、当調査研究会が八尾南遺跡内で実施した第７次調査（ＹＳ86－７）である。



市営長吉長原東第二住宅
西木の本一丁目
西木の本
大正住宅
西木の本
西木の本
木の本郵便局
公園
南木の本橋
大正中学校
X:155,00000
Y:38,000000
今回の調査地
市営大正住宅
自衛隊官舎
営業所
八尾市
木ノ本
八尾空港跡
八尾南駅
岩林町一丁目
0
100m

第1図　調査地周辺図

地図番号	調　査　機　関	略　号	調査年度	住　　所	備　　考
①	㈶八尾市文化財調査研究会	ＹＳ83－02	昭和58年度	若林１丁目49	
②	㈶八尾市文化財調査研究会	ＹＳ84－03	昭和59年度	西木の本４丁目４	
③	㈶八尾市文化財調査研究会	ＹＳ84－04	昭和59年度	西木の本１丁目63	
④	㈶八尾市文化財調査研究会	ＹＳ86－06	昭和61年度	西木の本３丁目	
⑤	㈶八尾市文化財調査研究会	ＹＳ86－07	昭和61年度	木の本110	今回の調査
⑥	㈶八尾市文化財調査研究会	ＹＳ87－10	昭和62年度	西木の本４丁目４	
⑦	㈶八尾市文化財調査研究会	ＹＳ87－11	昭和62年度	西木の本１丁目48	
⑧	㈶八尾市文化財調査研究会	ＹＳ89－16	平成元年度	西木の本１丁目他	
⑨	㈶八尾市文化財調査研究会	ＹＳ92－18	平成４年度	西木の本３丁目	
⑩	㈶八尾市文化財調査研究会	ＹＳ93－19	平成５年度	西木の本４丁目４	
⑪	㈶八尾市文化財調査研究会		昭和63年度	長吉川辺３丁目	
⑫	長　原　遺　跡　調　査　会		昭和53～54年度	長吉川辺３丁目１	
⑬	八　尾　南　遺　跡　調　査　会		昭和53～54年度	木の本・若林町	
⑭	八尾市教育委員会文化財課		昭和56年度	西木の本４丁目11	
⑮	㈶大阪市文化財協会	ＮＧ82－26	昭和57年度	長吉長原東３－14	

第１表　八尾南遺跡および長原遺跡発掘調査一覧表

第２章　調査概要

第１節　調査の方法と経過

調査は校舎・体育館建設予定地であり、この予定地に４箇所（第１区～第４区）の調査区を設定した。各調査区の面積は、第１区　921㎡・第２区　630㎡・第３区　678㎡・第４区　814㎡である。調査においては、八尾市教育委員会の試掘調査の結果に基づいて、現地表下0.8ｍまでを機械掘削し、以下の各層については人力掘削を実施した。調査地での地区割は、国土座標の軸にあわせ、調査地の北西側に基準点（国土座標のＸ：－155.525000　Ｙ：－37.950000）を置き、この基準点から東へ140ｍ・南へ60ｍ、にわたって設定した。一区画の単位は10ｍ四方で、基準点から東西方向は算用数字（西から１～14）、南北方向はアルファベット（北からａ～ｆ）で示した。地区別の表示は、一区画の南東隅に交差する線を用い、１ａ～14ｆ区、と呼称した。

掘削に際しては、現地表下0.8ｍ前後に存在する盛土及び旧耕土を重機で排除し、以下は層理に従って人力掘削を実施した。その結果、現地表下1.12ｍ（標高9.1ｍ）に存在する第５層上面（第１面）で平安時代後期から鎌倉時代の遺構を検出した。またこの面より0.32ｍ下の第８層上面（第２面）で古墳時代後期の遺構を検出した。またこの面より0.24ｍ下の第10層［第４区はａ層］上面（第３面）で古墳時代中期～後期の遺構を検出した。また第４区ではこの面より0.14ｍ下の第10層と第11層の上面（第４面）で古墳時代前期の遺構を検出した。

第4区
第2区
第3区
第1区
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
a
b
c
d
e
f
X:－155,525000km
Y:－37,950000km
X:－155,500000km
Y:－38,000000km
0
50m

第2図　調査区設定図

第２節　基本層序

旧八尾空港建設時のコンクリート基礎により、堆積土が壊されている部分が多少存在していたが、それ以外は比較的安定した本来の堆積土の状況が確認できた。ここでは、北壁面を基本層序とした。

１）第１区～第３区（第３区北壁面）

第１層　盛土（現地表面標高 10.1～10.2ｍ）層厚0.6ｍ前後。

１´カクラン（旧八尾空港建設時のコンクリート基礎等）。

第２層　褐色～淡灰茶色細砂混粘質土。　層厚0.1～0.2ｍ。（旧耕作土）。

第３層　灰褐色砂粘質土。層厚0.3ｍ。

第４層　淡黄褐色細砂。層厚0.1～0.4ｍ。調査区全域に広がっている第５層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である。

第５層　灰色粘土。層厚0.1～0.3ｍ。
上面は第1面である。

第６層　淡黄灰色細砂混粘土。層厚0.1～0.2ｍ。

第７層　淡灰色シルト混細砂。層厚0.1ｍ。調査区全域に広がっている第８層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である。

第８層　濃灰色粘土。層厚0.1～0.3ｍ。
上面は第２面である。

第９層　淡灰黄色微砂シルト。層厚0.1ｍ。調査区全域に広がっている第10層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である。

第10層　暗灰色粘土。層厚0.1ｍ。上面は第３面である。

10´　シルト混粘土。

第11層　灰青色粘土。層厚0.2～0.3ｍ。

11´　シルト混粘土。

第12層　暗灰色シルト混粘土層厚0.2ｍ以上。

２）第４区（第４区北壁面）

第１層　盛土（現地表面標高10.1～10.3ｍ）層厚0.4～0.9ｍ。

１´　カクラン（旧八尾空港建設時のコンクリート基礎等）。

第２層　褐色～淡灰茶色細砂混粘質土。層厚0.1～0.2ｍ。（旧耕作土）。

第３層　灰褐色砂粘質土。層厚0.1～0.4ｍ。

第４層　淡黄褐色細砂。層厚0.2～0.3ｍ。調査区全域に広がっている第５層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である。

第５層　灰色粘土。層厚0.2～0.4ｍ。
上面は第1面である。

第６層　淡黄灰色細砂混粘土。層厚0.1～0.2ｍ。

第７層　淡灰色シルト混細砂。層厚0.1～0.2ｍ。調査区全域に広がっている第８層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である。

第８層　濃灰色粘土。層厚0.2～0.3ｍ。
上面は第２面である。

第９層　淡灰黄色微砂シルト。層厚0.1ｍ。調査区全域に広がっているａ層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である。

ａ　層　暗褐灰色粘土。層厚0.1～0.2ｍ。上面は第３面である。

ａ´層　暗灰黒色粘土（炭含む）。層厚0.1～0.3ｍ。

ｂ　層　灰青色シルト。層厚0.1～0.4ｍ。

ｂ´層　細砂。層厚0.1ｍ。

ｃ　層　淡灰色シルト。層厚0.1～0.4ｍ。

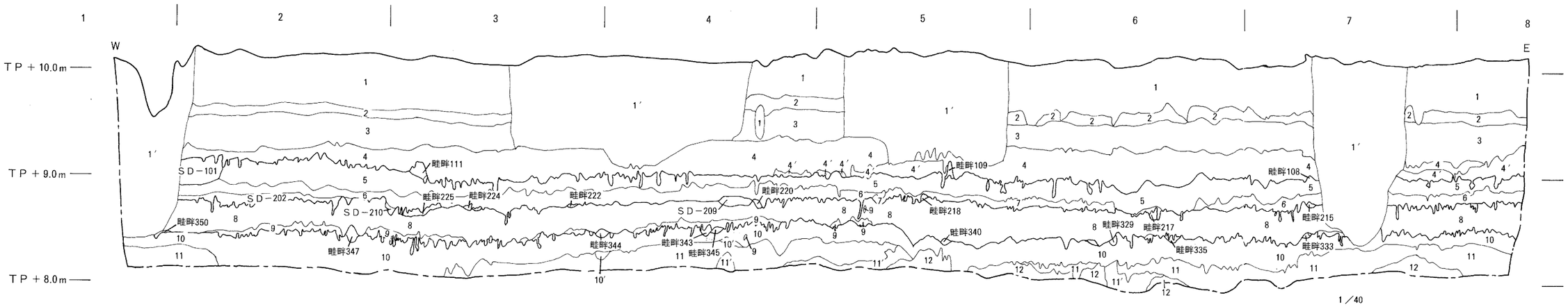
ｃ´層　細砂。層厚0.1ｍ。

ｂ～ｃ´層は調査区全域に広がっている第11層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である。

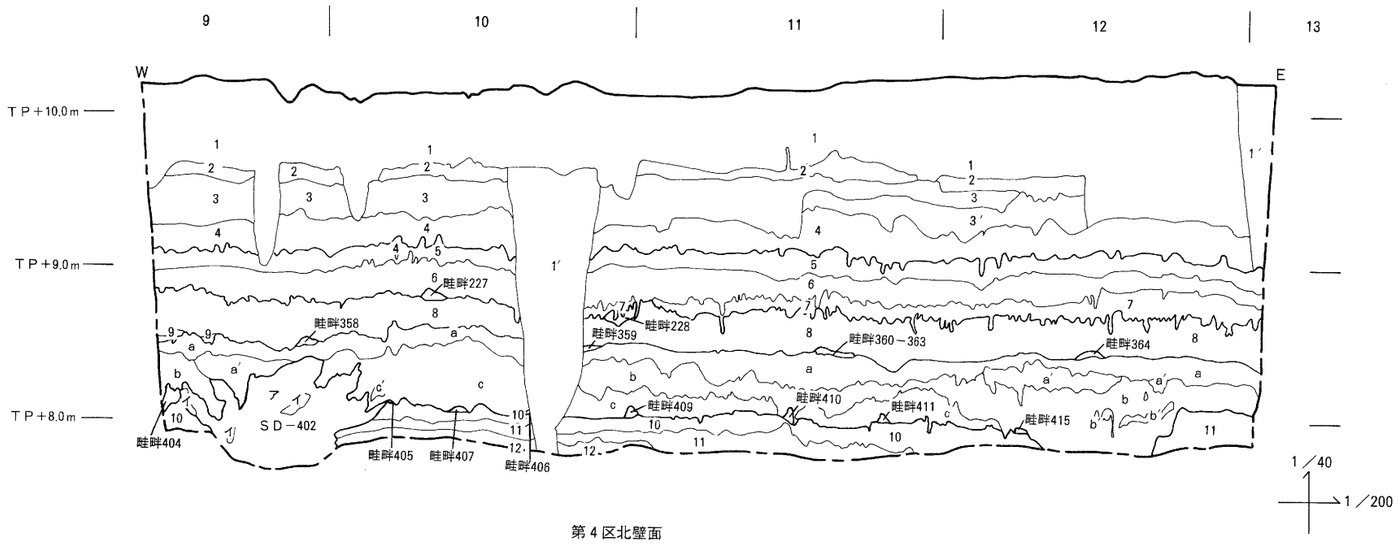
第10層　暗灰色粘土。層厚0.1～0.3ｍ。
上面は第４面である。

第11層　灰青色粘土。層厚0.1～0.3ｍ。

第12層　暗灰色シルト混粘土。層厚0.1ｍ以上。



第３区北壁面



第４区北壁面

第３図　基本層序

第３区北壁面
第１層　盛土（現地表面標高 10.1～10.2ｍ）層厚0.6ｍ前後
　１′　カクラン（旧八尾空港建設時のコンクリート基礎等）
第２層　褐色～淡灰茶色細砂混粘土　層厚0.1～0.2ｍ（旧耕作土）
第３層　灰褐色砂粘質土　層厚0.3ｍ
第４層　淡黄褐色細砂　層厚0.1～0.4ｍ　調査区全域に広がっている第５層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である
第５層　灰色粘土　層厚0.1～0.3ｍ
　　上面は第１面である
第６層　淡黄灰色細砂混粘土　層厚0.1～0.2ｍ
第７層　淡灰色シルト混細砂　層厚0.1ｍ
第８層　濃灰色粘土　層厚0.1～0.3ｍ
　　上面は第２調査面である
第９層　淡灰黄色微砂シルト　層厚0.1ｍ
第10層　暗灰色粘土　層厚0.1ｍ上面は第３面である
　10′　シルト混粘土
第11層　灰青色粘土　層厚0.2～0.3ｍ
　11′　シルト混粘土
第12層　暗灰色シルト混粘土層厚0.2ｍ以上

第４区北壁面
第１層　盛土（現地表面標高 10.1～10.3ｍ）層厚0.4～0.9ｍ前後
　１′　カクラン（旧八尾空港建設時のコンクリート基礎等）
第２層　褐色～淡灰茶色細砂混粘質土　層厚0.1～0.2ｍ（旧耕作土）
第３層　灰褐色砂粘質土　層厚0.1～0.4ｍ
第４層　淡黄褐色細砂　層厚0.2～0.3ｍ　調査区全域に広がっている第５層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である
第５層　灰色粘土　層厚0.2～0.4ｍ
　　上面は第１面である
第６層　淡黄灰色細砂混粘土　層厚0.1～0.2ｍ
第７層　淡灰色シルト混細砂　層厚0.1～0.2ｍ　調査区全域に広がっている第８層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である
第８層　濃灰色粘土　層厚0.2～0.3ｍ
　　上面は第２面である
第９層　淡灰黄色微砂シルト　層厚0.1ｍ　調査区全域に広がっているａ層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である
ａ　層　暗褐灰色粘土　層厚0.1～0.2ｍ　上面は第３面である
ａ′層　暗灰黒色粘土（炭含む）層厚0.1～0.3ｍ
ｂ　層　灰青色シルト　層厚0.1～0.4ｍ
ｂ′層　細砂　層厚0.1ｍ
ｃ　層　淡灰色シルト　層厚0.1～0.4ｍ
ｃ′層　細砂　層厚0.1ｍ
　　ｂ～ｃ′層は調査区全域に広がっている第11層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である
第10層　暗灰色粘土　層厚0.1～0.3ｍ
　　上面は第４面である
第11層　灰青色粘土　層厚0.1～0.3ｍ
第12層　暗灰色シルト混粘土　層厚0.1ｍ以上

SD―402内埋土　ア　淡灰色細砂
　　イ　灰色シルト

第３節　第１区～第３区検出遺構・出土遺物

現地表下約1.0ｍ（標高9.0～9.1ｍ）前後に存在している第５層上面で平安時代後期から鎌倉時代の水田14筆・溝１条（ＳＤ－101）を検出した（第１面）。また、この面より約0.3ｍ下層の第８層上面で古墳時代後期の水田20筆・溝10条（ＳＤ－201～ＳＤ－210）を検出した（第２面）。さらにこの面より約0.3ｍ下層の第10層上面で古墳時代中期から後期の水田47筆を検出した（第３面）。

１）第１面［第５層上面検出遺構］

水田（水田101～水田114）

水田は第５層上面で検出した。調査地は志紀郡条里に位置しており、条里制地割に合致している。水田耕作土である第５層は、洪水の砂層（第４層）でほぼ全面覆われている。耕作面には第４層を埋土とする足跡群、および類似する凹みが全面に分布していた。第５層は厚いところで0.3ｍ、薄いところで0.1ｍを測る。

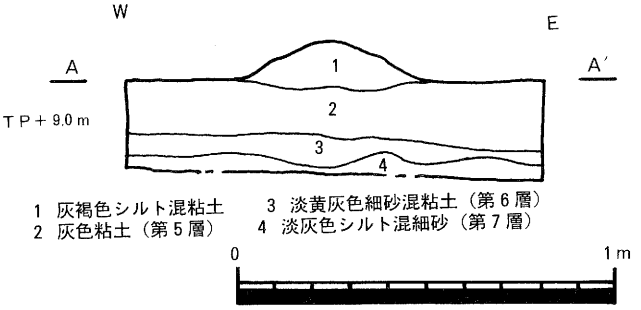
遺構番号	区	地　　区	平面形状	東西	南北	面積　㎡
水田101	1	3ｄ．ｅ	南北に長い　長方形	2.7	10.6	28.62＋α
水田102	1	3ｅ．ｆ	南北に長い　長方形	3.5	9.4	32.9＋α
水田103	1	3．4ｄ．ｅ	東西に長い　長方形	13.2	8	105.6＋α
水田104	1	3．4ｅ．ｆ	東西に長い　長方形	12.4	9.1	112.84＋α
水田105	1	5ｄ．ｅ	南北に長い　長方形	5.3	7.3	38.69＋α
水田106	1	4．5ｅ．ｆ	南北に長い　長方形	6.3	9.7	61.11＋α
水田107	1～2	5～8ｃ～ｅ	東西に長い　長方形	25.4	17.4	441.96＋α
水田108	1～2	5～8ｅ．ｆ	東西に長い　長方形	25.5	10	255＋α
水田109	2	7．8ｂ．ｃ	南北に長い　長方形	9.5	12.3	116.85＋α
水田110	2～3	5～7ｂ．ｃ	東西に長い　長方形	15.3	13.5	206.55＋α
水田111	3	3～5ｂ．ｃ	東西に長い　長方形	24.7	10.4	256.88＋α
水田112	3	3ｃ．ｄ	正方形	2.9	2.9	5.8＋α
水田113	3	2ｂ．ｃ	三角形	7.8	4.8	37.44＋α
水田114	3	1．2ｃ	三角形	2.9	6.6	19.14＋α

第２表　第１区～第３区第１面水田一覧表

遺構番号	区	地　　区	方　　向	総　長	最大基底幅	最小基底幅	最大上幅	最小上幅	高　　さ
畦畔101	1	3．4ｅ	東西	17.4	0.7	0.5	0.4	0.1	0.2
畦畔102	1	3ｅ．ｆ	南北	16.5	0.9	0.6	0.7	0.3	0.1
畦畔103	1	4．5ｅ	東西	7.7	1	0.5	0.6	0.2	0.1
畦畔104	1	4ｅ．ｆ	南北	9.5	0.7	0.3	0.4	0.1	0.1
畦畔105	1	4．5ｄ．ｅ	南北	7.4	0.7	0.4	0.6	0.3	0.1
畦畔106	1	5ｅ．ｆ	南北	13.8	1	0.7	0.7	0.4	0.1
畦畔107	2	7ｃ	東西	5.1	0.8	0.3	0.5	0.2	0.1
畦畔109	3	5ｂ．ｃ	南北	10.6	0.7	0.2	0.4	0.1	0.1
畦畔110	3	3．4ｃ	東西	13.1	0.7	0.6	0.3	0.2	0.1
畦畔111	3	2．3ｂ．ｃ	南北	4.8	2.3	0.9	1.1	0.2	0.2

第３表　第１区～第３区第１面畦畔一覧表

畦畔は南北・東西方向に伸び検出している。畦畔間の距離は東西方向が２～24ｍ間隔、南北方向が16ｍ間隔である。畦畔の断面は台形で基底幅0.2～2.3ｍ、上幅0.1～1.1ｍ、耕作面からの高さ0.1～0.2ｍあり、特に幅が広いもの高いものは存在しなかった。畦畔の堆積土は、灰褐色シルト混粘土である。



第４図　畦畔109　断面図

水田102がもっとも高く標高9.18ｍを測り、水田は北東に下がっている。最も低いものは水田111で標高8.92ｍを測る。水田比高は0.26ｍを測る。各水田は南北方向に長い。隣合う各水田の耕作土面の平均標高差は0.05ｍ前後のものがほとんどである。畦畔を挟む両側で極端に低くなるような顕著な段を呈するものはなかった。

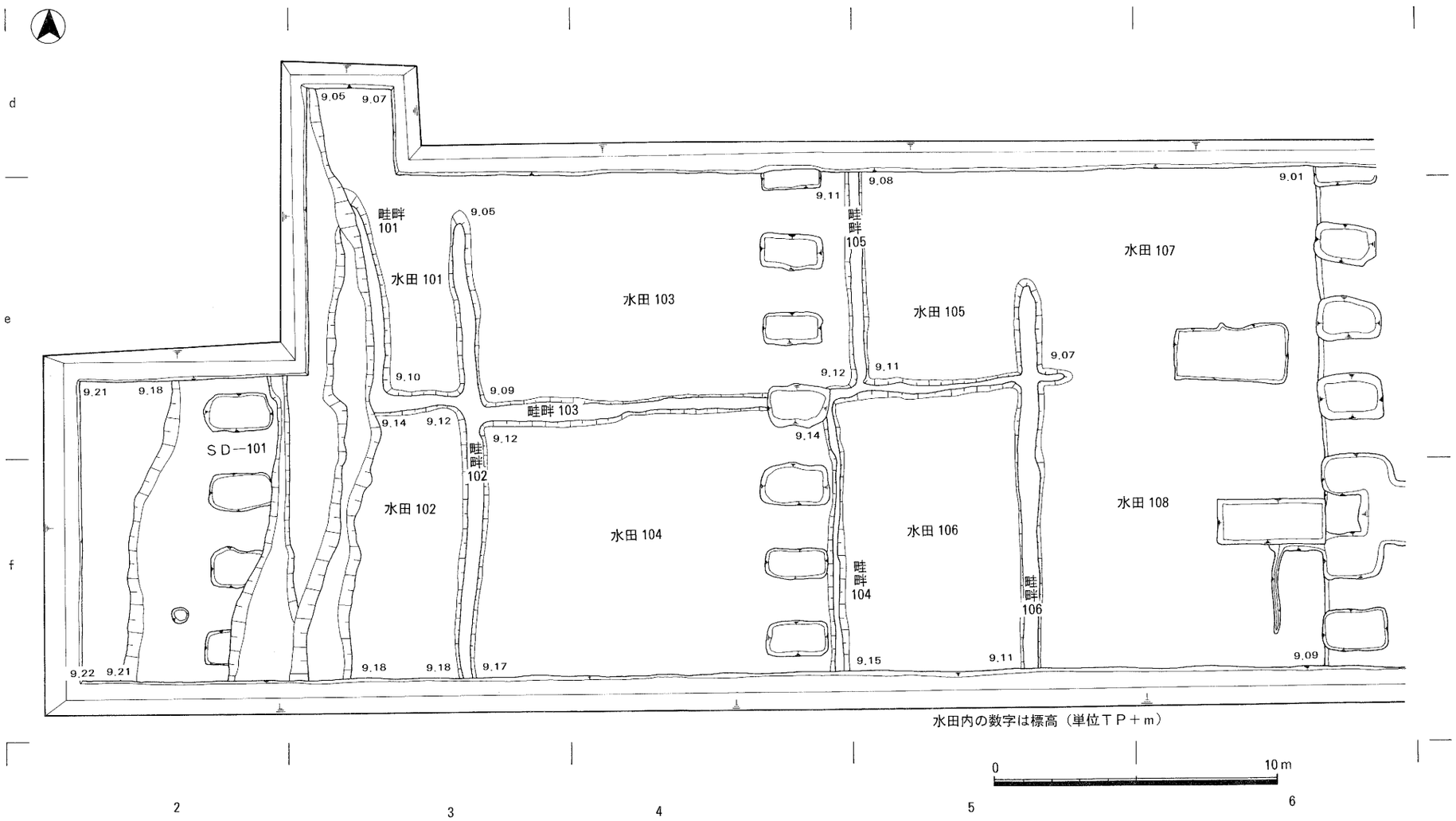
調査地の西側の水田101・水田102・水田113より西では溝（ＳＤ－101）を検出した。水田より溝が0.03ｍ高く、この溝は取水の機能を持ったものと考えられる。

なお、後世（特に八尾空港の格納庫を建設時）の掘削により水田および畦畔は一部で検出していないが、本来は水田が連続し存在していたと考えられる。[各水田・各畦畔の規模は第２表・第３表に示す。また各水田の標高は第５図～第７図に記入した。]

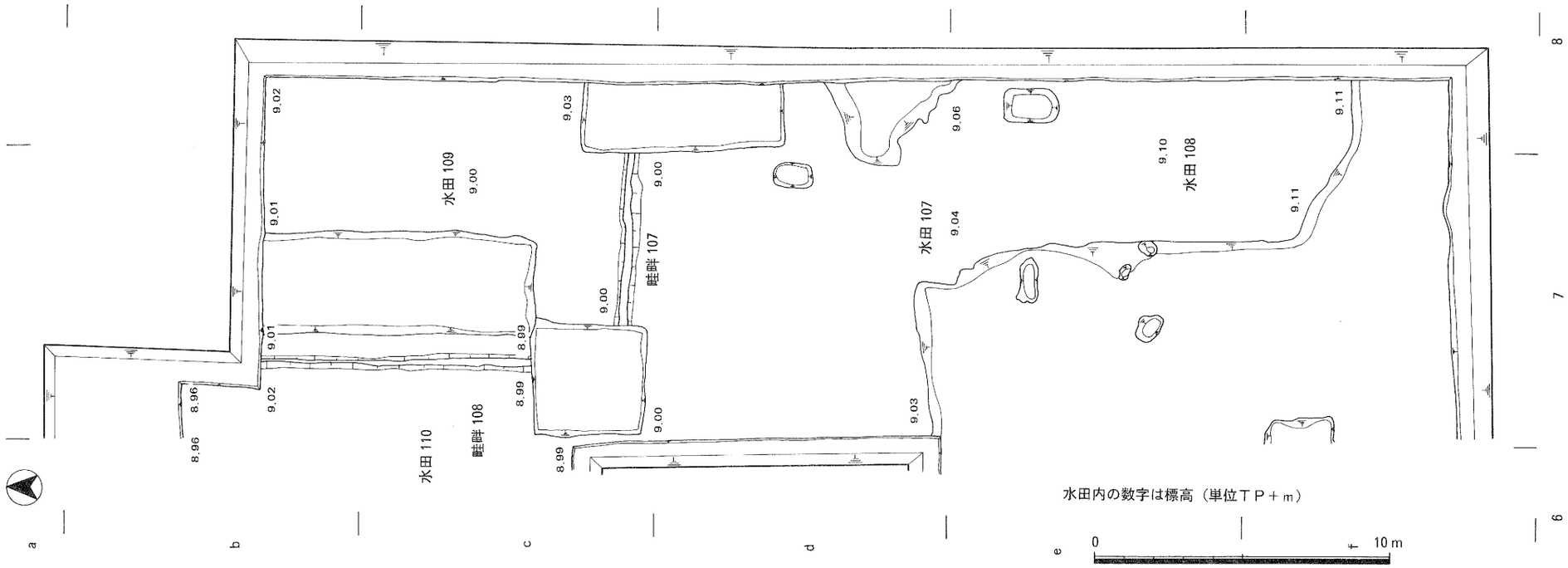
ＳＤ－101

１～３ａ～ｆで検出した。南北方向に伸びる。幅9.0ｍ・深さ0.4ｍを測る。埋土は上から灰褐色細砂混粘土．　灰褐色シルト混粘質土．　灰色微砂混粘土．　暗灰色細砂混粘土．　淡褐色細砂である。溝内からは黒色土器椀（１～４）、土師器杯（５）・皿（６・８～14）・椀（７）、瓦器椀（15～19）・皿（20）が出土した。

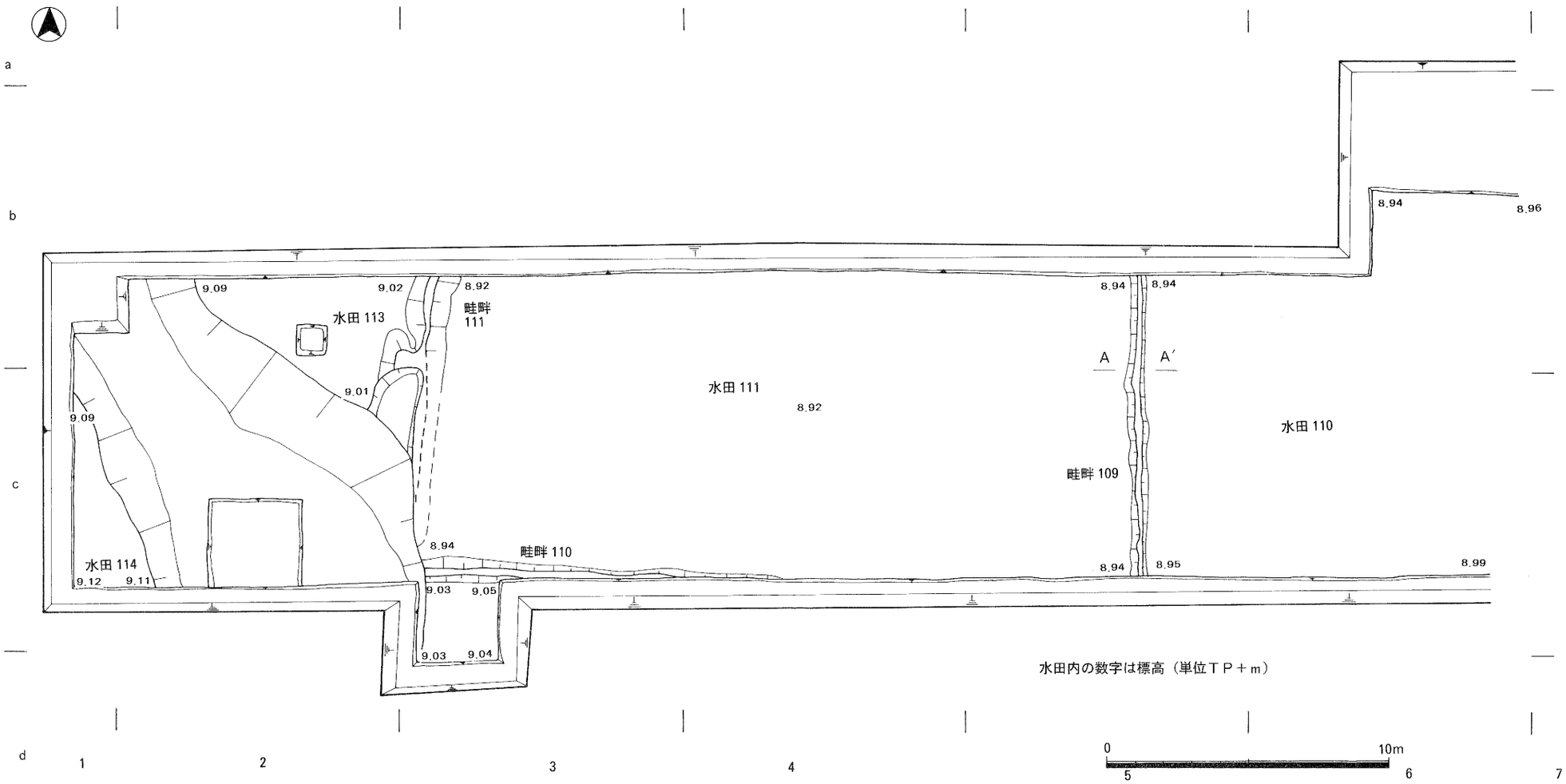
水田上面を覆う第４層からは、黒色土器椀（21）、土師器皿（22）・甕（23）・椀（24）、瓦器椀（25・26）が出土した。



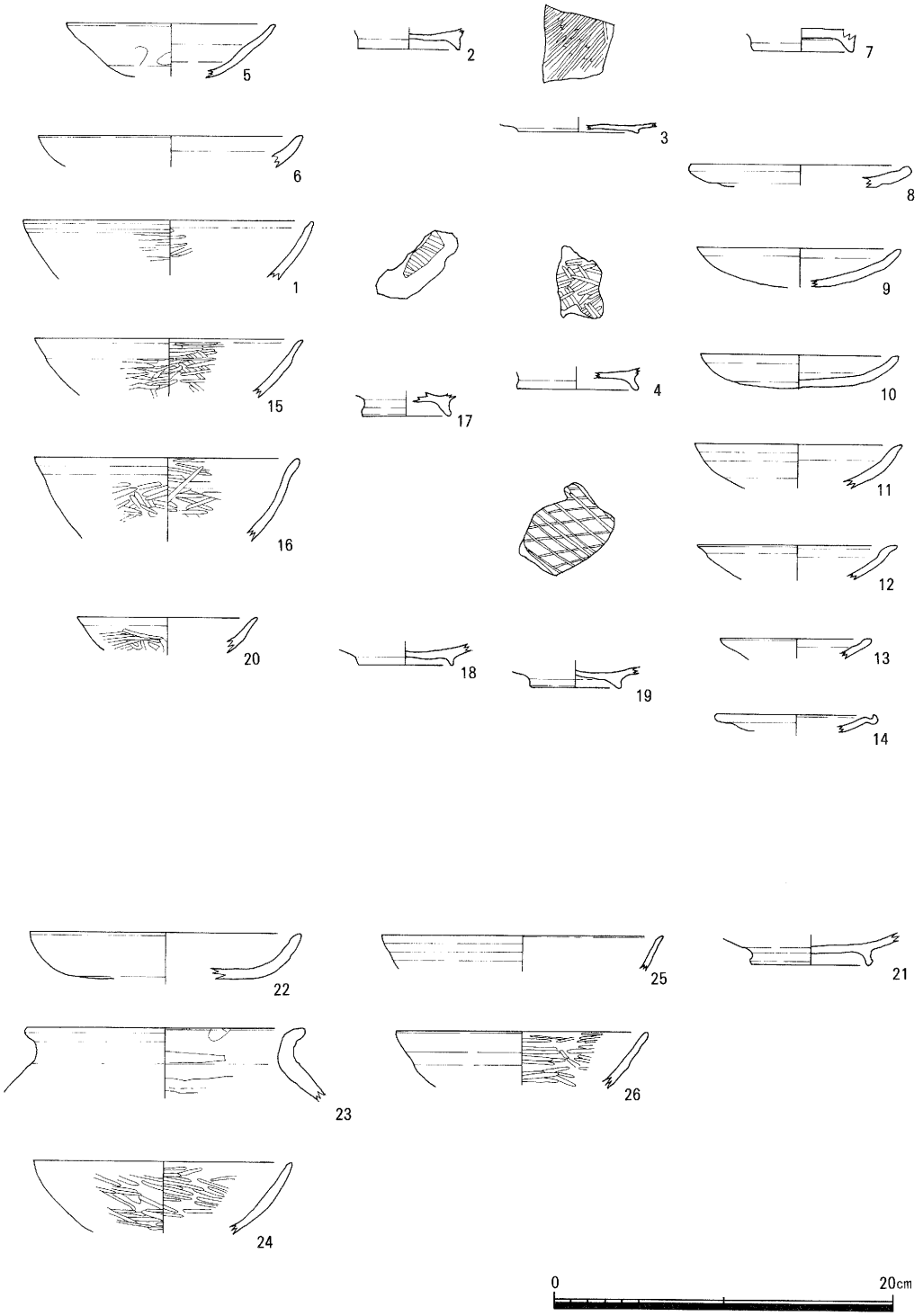
第５図　第１区第１面平面実測図



第６図　第２区第１面平面実測図



第７図　第３区第１面平面実測図



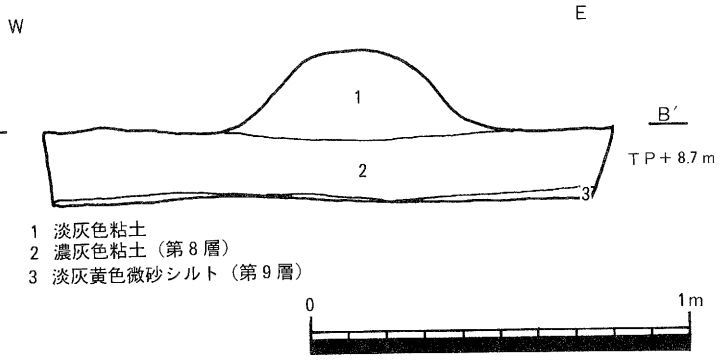
第８図　SD－101（１～20）　第４層（21～26）出土遺物実測図

2）第2面［第8層上面検出遺構］

水田（水田201～水田220）

第8層上面で検出した。水田耕作土である第8層は第7層に覆われている。耕作面には第7層を埋土とする足跡群、および類似する凹みが全面に分布していた。第8層は厚いところで0.4m、薄いところで0.1mを測る。

畦畔は南北・東西方向に伸び検出している。畦畔間の距離は東西方向が6.5～13m間隔、南北方向が9～11.5m間隔である。畦畔の断面は台形で上幅0.1～2.0m、下幅0.4～2.4m耕作面からの高さ0.1～0.2mあり、特に幅が広いもの高いものは存在しなかった。畦畔の堆積土は淡灰色粘土である。



第9図　畦畔201　断面図

水田209がもっとも高く標高8.86mを測る。水田は北西に下がっている。最も低いものは水田217で標高8.63mを測る。水田の比高は0.23mを測る。各水田は南北方向に長い。隣合う各水田の耕作土面の標高差は0.01～0.06mである。畦畔を挟む両側で極端に低くなるような顕著な段を呈するものはなかった。

水田内では畦畔に平行する形で溝（ＳＤ－201～209）を検出した。ほとんどが畦畔を切っており、取排水の為に一時的に掘られたものと考えられる。また調査区の西側ではやや幅の広い溝（ＳＤ－210）を検出した。水田より溝が0.1mと低く、この溝は排水の機能を持ったものと考えられる。［各水田・畦畔の数値は第4表・第5表に示す。また各水田の標高は第11図～第13図に記入した。］

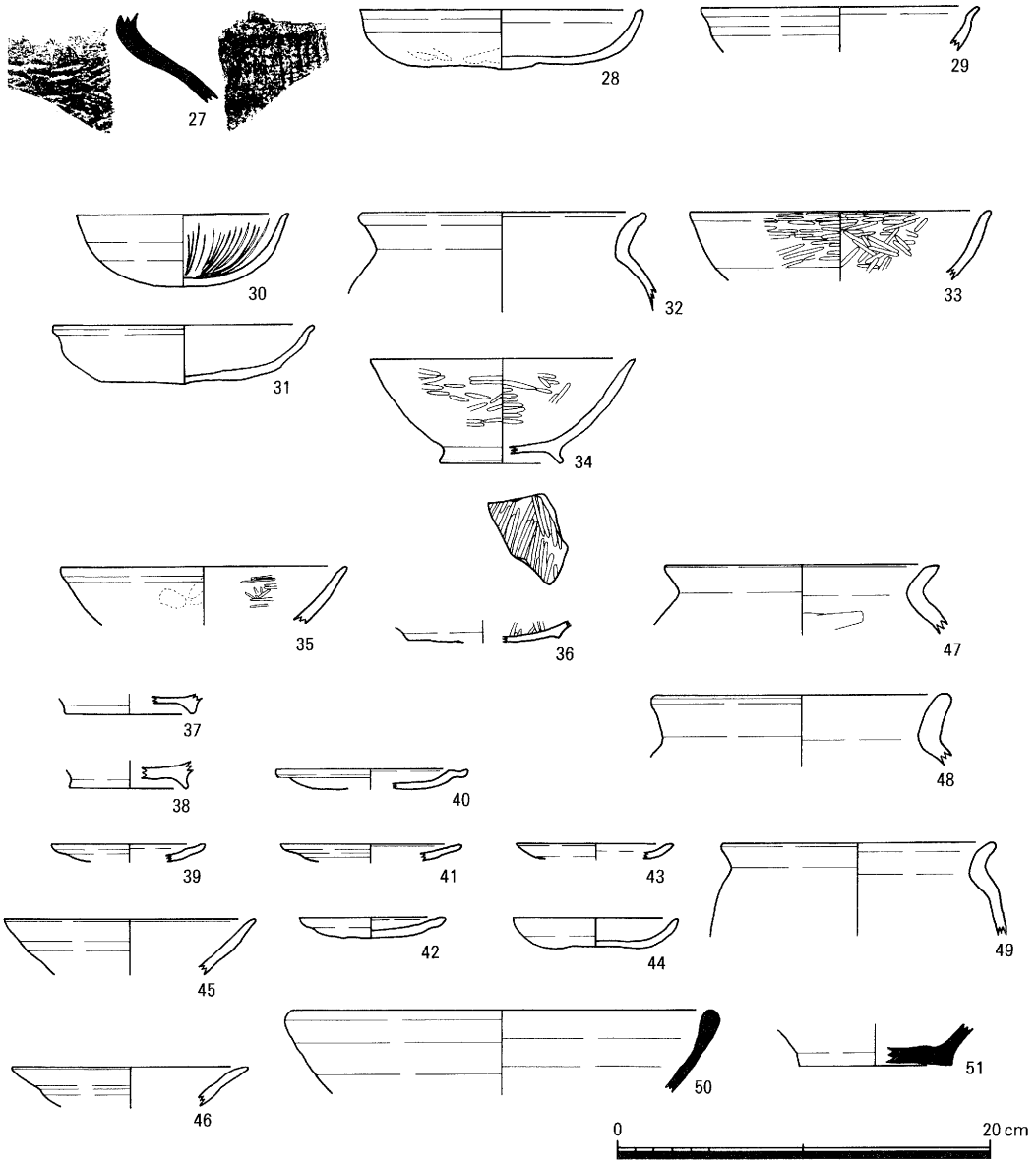
水田上面を覆う第6層からは、須恵器甕（27・31）、土師器皿（28）・杯（30）・甕（32）、黒色土器椀（29）、瓦器椀（33・34）が、第7層からは黒色土器椀（35～38）、土師器皿（39～44）・杯（45・46）・甕（47～49）、須恵器鉢（50）・壷（51）が出土した。

遺構番号	区	地　　区	平面形状	東西	南北	面積　㎡
水田201	1	2．3d～f	南北に長い　長方形	3.3	10.5	35.7＋α
水田202	1	3．4d～f	南北に長い　長方形	10.2	17.8	176＋α
水田203	1	4．5e．f	南北に長い　長方形	10.2	10.8	110.25＋α
水田204	1	4．5d．e	東西に長い　長方形	9.8	6	58.8＋α
水田205	1	5．6d．e	東西に長い　長方形	10	6.4	63＋α
水田206	1	5．6e．f	東西に長い　長方形	13.9	10.2	119.34＋α
水田207	1～2	6．7f	三角形	6	0.8	3＋α
水田208	1～2	6～8d．e	東西に長い　長方形	13.2	10	125＋α
水田209	2	8e．f	南北に長い　長方形	2	10	15＋α
水田210	1～2	6～8d．e	東西に長い　長方形	16.7	11.3	189.75＋α
水田211	2～3	5～8c．d	東西に長い　長方形	23	10.5	140＋α
水田212	2	7．8b．c	東西に長い　長方形	9.8	7.4	64.2＋α
水田213	2～3	6．7b．c	南北に長い　長方形	6.6	10	67＋α
水田214	3	5．6b．c	東西に長い　長方形	10.2	9.6	70＋α
水田215	3	5c	東西に長い　長方形	3.5	2.4	8.75＋α
水田216	3	4．5b．c	東西に長い　長方形	6.6	5.7	39＋α
水田217	3	3～5b．c	東西に長い　長方形	12.7	10.7	102＋α
水田218	3	3b．c	南北に長い　長方形	2.7	10.9	33＋α
水田219	3	2．3b．c	南北に長い　長方形	3.8	13.7	30＋α
水田220	3	1～3b．c	東西に長い　長方形	12.4	4.3	31.5＋α

第４表　第１区～第３区第２面水田一覧表

遺構番号	区	地　　区	方　　向	総　長	最大基底幅	最小基底幅	最大上幅	最小上幅	高　　さ
畦畔201	1	3d～f	南北	15.2	1	0.6	0.7	0.1	0.2
畦畔202	1	4d～f	南北	17.8	1.2	0.8	0.6	0.2	0.1
畦畔203	1	4.5e	東西	11.3	1.1	0.7	0.7	0.3	0.1
畦畔204	1	5e．f	南北	10.3	1.5	0.8	0.5	0.2	0.1
畦畔205	1	5d．e	南北	5.7	1	0.6	0.6	0.3	0.1
畦畔206	1	5．6e	東西	7	1.7	0.9	1.1	0.5	0.1
畦畔207	1	6d．e	南北	5.4	0.8	0.5	0.4	0.2	0.1
畦畔208	1	6e．f	南北	12.1	1	0.5	0.6	0.2	0.1
畦畔209	1～2	6．7f	東西	6.5	0.9	0.6	0.6	0.5	0.1
畦畔210	1～2	6～8e	東西	15.5	0.9	0.6	0.4	0.2	0.1
畦畔211	2	7．8e．f	南北	9.4	0.8	0.6	0.4	0.2	0.1
畦畔212	2	7．8d	東西	6	0.8	0.6	0.3	0.2	0.1
畦畔213	2	7d	東西	6.6	1	0.8	0.3	0.2	0.1
畦畔214	2	7．8c	東西	5.5	0.7	0.6	0.3	0.2	0.1
畦畔215	2	7b．c	南北	7.6	0.6	0.4	0.3	0.2	0.1
畦畔216	2～3	5～7c	東西	17.3	1.3	1	0.8	0.4	0.1
畦畔217	3	6b．c	南北	9.3	1.1	0.4	0.7	0.1	0.1
畦畔218	3	5b．c	南北	5.7	0.8	0.6	0.4	0.2	0.1
畦畔219	3	5c	南北	1.9	1.2	1.1	0.7	0.6	0.1
畦畔220	3	4b．c	南北	5.2	0.9	0.6	0.4	0.3	0.1
畦畔221	3	3c	南北	2.7	1	0.9	0.4	0.3	0.1
畦畔222	3	3b．c	南北	7.9	0.8	0.7	0.4	0.2	0.1
畦畔223	3	3c．d	南北	6.3	1.6	1.2	0.7	0.3	0.1
畦畔224	3	3b．c	南北	7.1	1.5	1.2	0.7	0.6	0.1
畦畔225	3	2．3b．c	南北	5	2.4	1.4	2	0.7	0.1

第５表　第１区～第３区第２面畦畔一覧表



第10図　第６層（27～34）　第７層（35～51）出土遺物実測図

ＳＤ－201

2.3ｂ～ｆで検出した。溝は、水田201・水田202と水田219・水田220の間を南北方向に伸びる。幅6.0～7.0ｍ・深さ0.2ｍを測る。埋土は上から灰色シルト・細砂で埋没しており、恒に水が南から北へ流れていたと推測される。溝内からは土師器の破片が少量出土した。この溝の東側は水田202より0.1ｍ低く、また水田219より0.04ｍ低く水田202と水田219から排水を行なう

機能を持っている。

ＳＤ－202

5.6ｆで検出した。東西方向に伸びる。幅0.5ｍ・深さ0.1ｍを測る。埋土は上から灰色シルトである。溝内からは土師器の破片が少量出土した。溝は西で畦畔204を切っており水田203から水田206へ水を流すために一時的に掘られたものと推定される。また東でＳＤ－203と合流している。

ＳＤ－203

６ｄ～ｆで検出した。南北方向に伸び、北で西方向に折れ曲がる。幅0.5ｍ・深さ0.1ｍを測る。埋土は灰色シルトである。溝内からは土師器の破片が少量出土した。溝は南でＳＤ－202と合流している。

ＳＤ－204

7.8ｄで検出した。東西方向に伸びる。幅0.4ｍ・深さ0.1ｍを測る。埋土は灰色シルトである。溝内からは土師器の破片が少量出土した。溝は畦畔212と畦畔213を切っており、水田210から水田211へ水を流すために一時的に掘られたものと推定される。

ＳＤ－205

7.8ｄで検出した。東西方向に伸びる。幅0.2～1.0ｍ・深さ0.1ｍを測る。埋土は灰色シルトである。溝内からは土師器の破片が少量出土した。

ＳＤ－206

５～７ｃで検出した。東西方向に伸びる。幅0.3ｍ・深さ0.1ｍを測る。埋土は灰色シルトである。溝内からは土師器の破片が少量出土した。西でＳＤ－207と合流している。この溝は水田211内の北側で掘られており、同水田内の水はけを良くするために一時的に掘られたものと推定される。

ＳＤ－207

５ｃで検出した。南北方向に伸びる。幅0.4ｍ・深さ0.1ｍを測る。埋土は灰色シルトである。溝内からは土師器の破片が少量出土した。北でＳＤ－206と合流している。

ＳＤ－208

４～６ｃで検出した。東西方向に伸びる。幅0.4ｍ・深さ0.1ｍを測る。埋土は灰色シルトである。溝内からは土師器の破片が少量出土した。

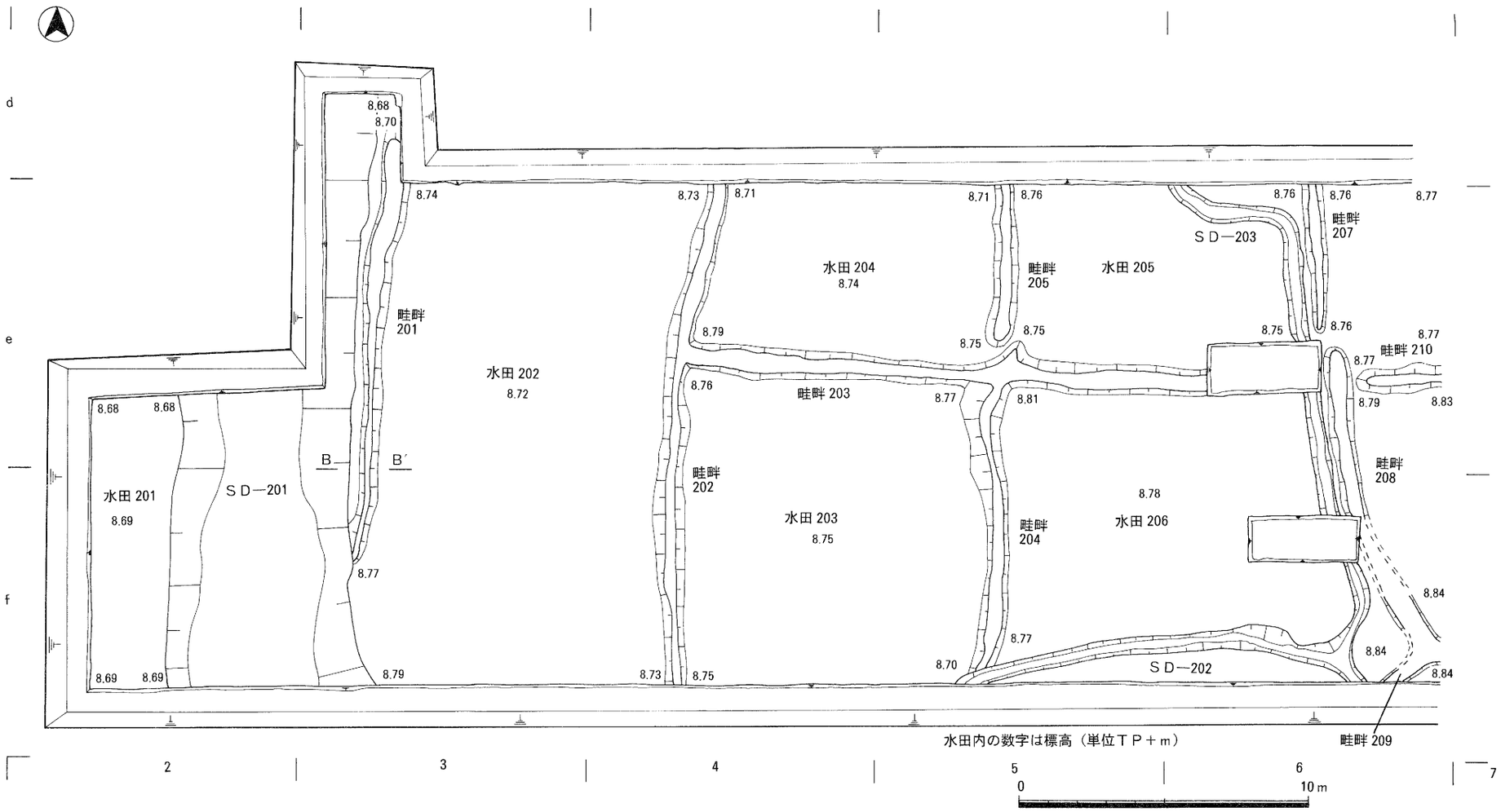
ＳＤ－209

4.5ｂ．ｃで検出した。溝の東側で南北方向伸びた後、西に直角に折れ曲がり、東西方向に伸び、西側で再び南北方向に伸びる。幅0.4～0.8ｍ・深さ0.1ｍを測る。埋土は灰色シルトである。溝内からは土師器の破片が少量出土した。この溝は水田217の北側と水田219の東側に掘ら

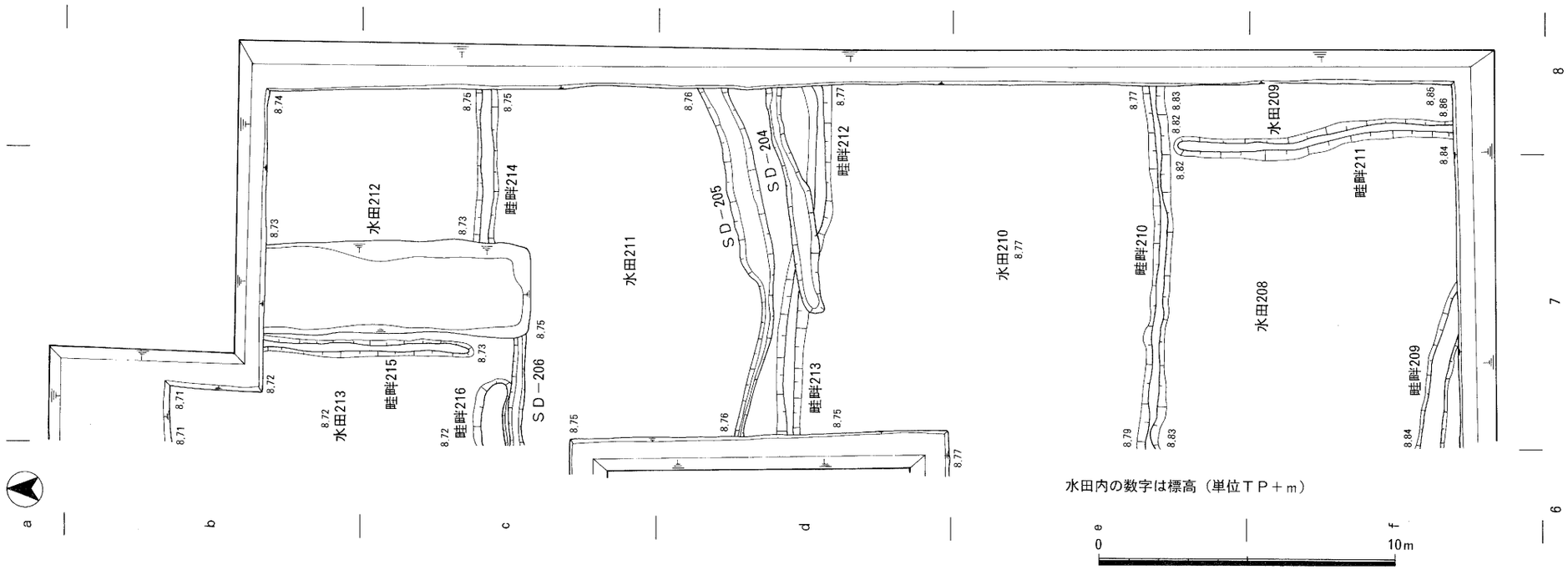
れており、同水田内の水はけを良くするために一時的に掘られたものと推定される。

ＳＤ－210

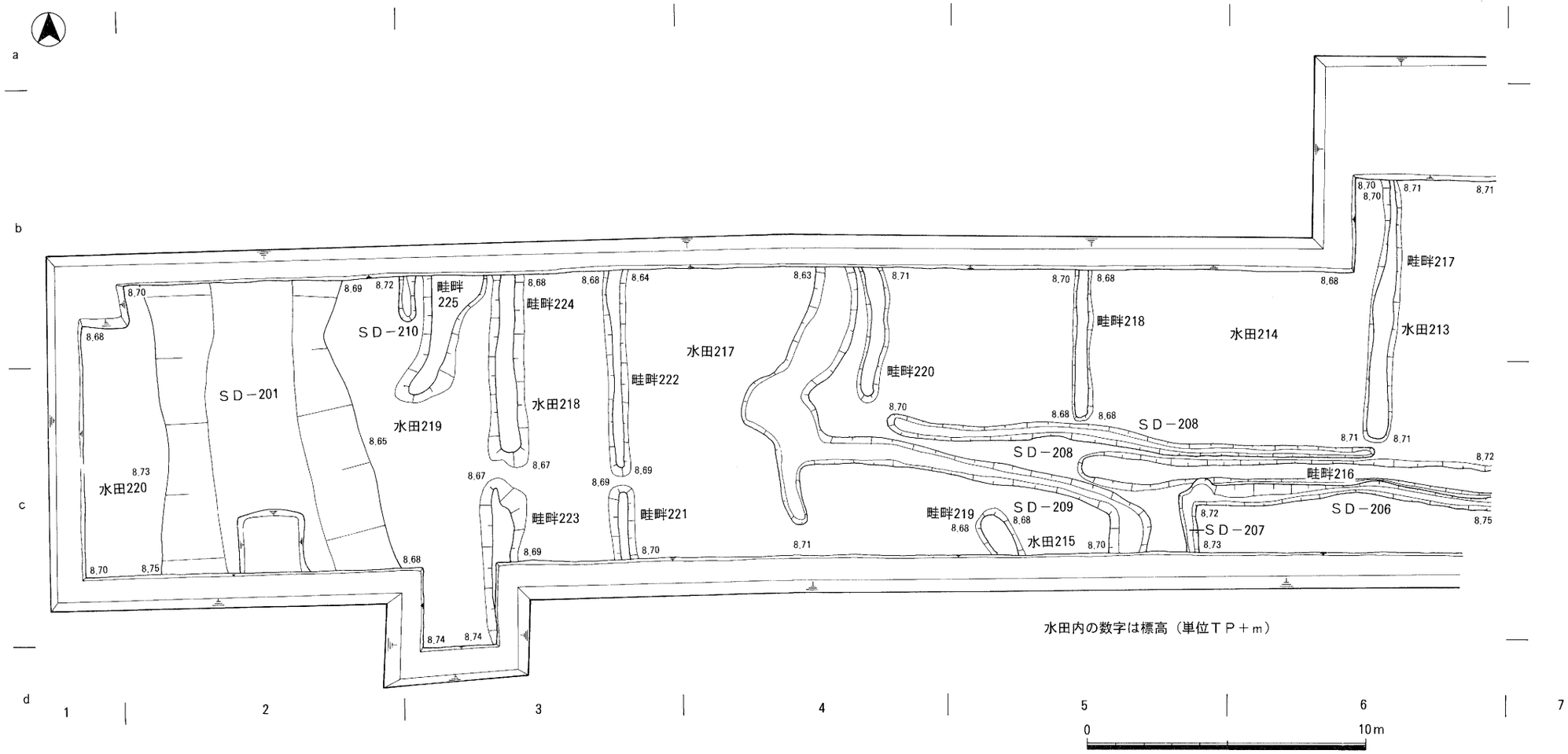
2.3ｂで検出した。東西方向に伸びる。幅0.4ｍ・深さ0.1ｍを測る。埋土は灰色シルトである。溝内からは土師器の破片が少量出土した。



第11図　第１区第２面平面実測図



第12図　第２区第２面平面実測図



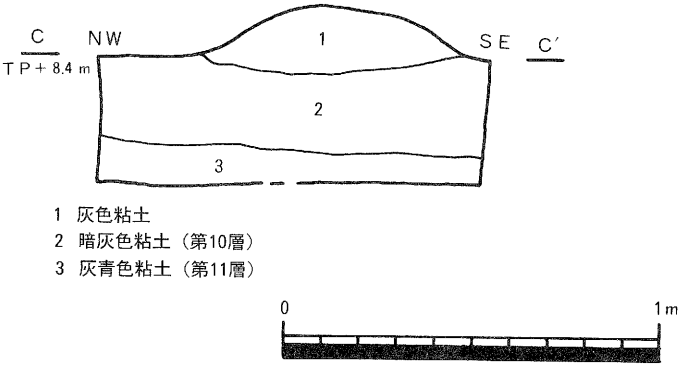
第13図　第３区第２面平面実測図

３）第３面［第10層上面検出遺構］

水田（水田301～水田347）

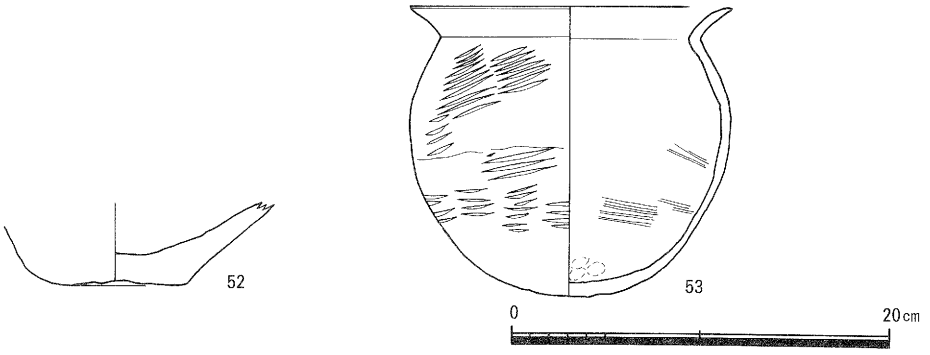
第10層上面で検出した。水田耕作土である第10層は第９層に覆われている。耕作面には第９層を埋土とする足跡群、および類似する凹みが全面に分布していた。第10層は厚いところで0.3ｍ、薄いところで0.2ｍを測る。

畦畔は南東から北西方向と南西から北東方向に伸び検出した。検出した畦畔は、南東から北西方向に伸びるものがほぼ直線であり、長いものが多い。この畦畔に直角に付く南西から北東方向に伸びるものは、直線であるが、それぞれは短い。畦畔間の距離は南西から北東方向が3.5～9.5ｍ間隔、南東から北西方向が3.5～13.5ｍ間隔である。畦畔の断面は台形で上幅0.1～1.0ｍ、基底幅0.2～1.2ｍ、耕作面からの高さ0.1～0.2ｍあり、特に幅が広いもの高いものは存在しなかった。畦畔の堆積土は灰色粘土である。



第14図　畦畔 308　断面図

各水田の方向は南東から北西方向に長い長方形を呈するものが多く、他に正方形のもの、台形のものがある。水田の標高は水田319がもっとも高く標高8.58ｍで、北西へ下がっている。最も低いものは水田306で標高8.33ｍを測る。水田の比高差は0.25ｍである。隣合う各水田の耕作土面の標高差は0.01～0.06ｍである。畦畔を挟む両側で極端に低くなるような顕著な段を呈するものはなかった。［各水田・畦畔の数値は第６表と第７表に示す。また各水田の標高は第16図～第18図に記入した。］



第15図　第11層（52・53）出土遺物実測図

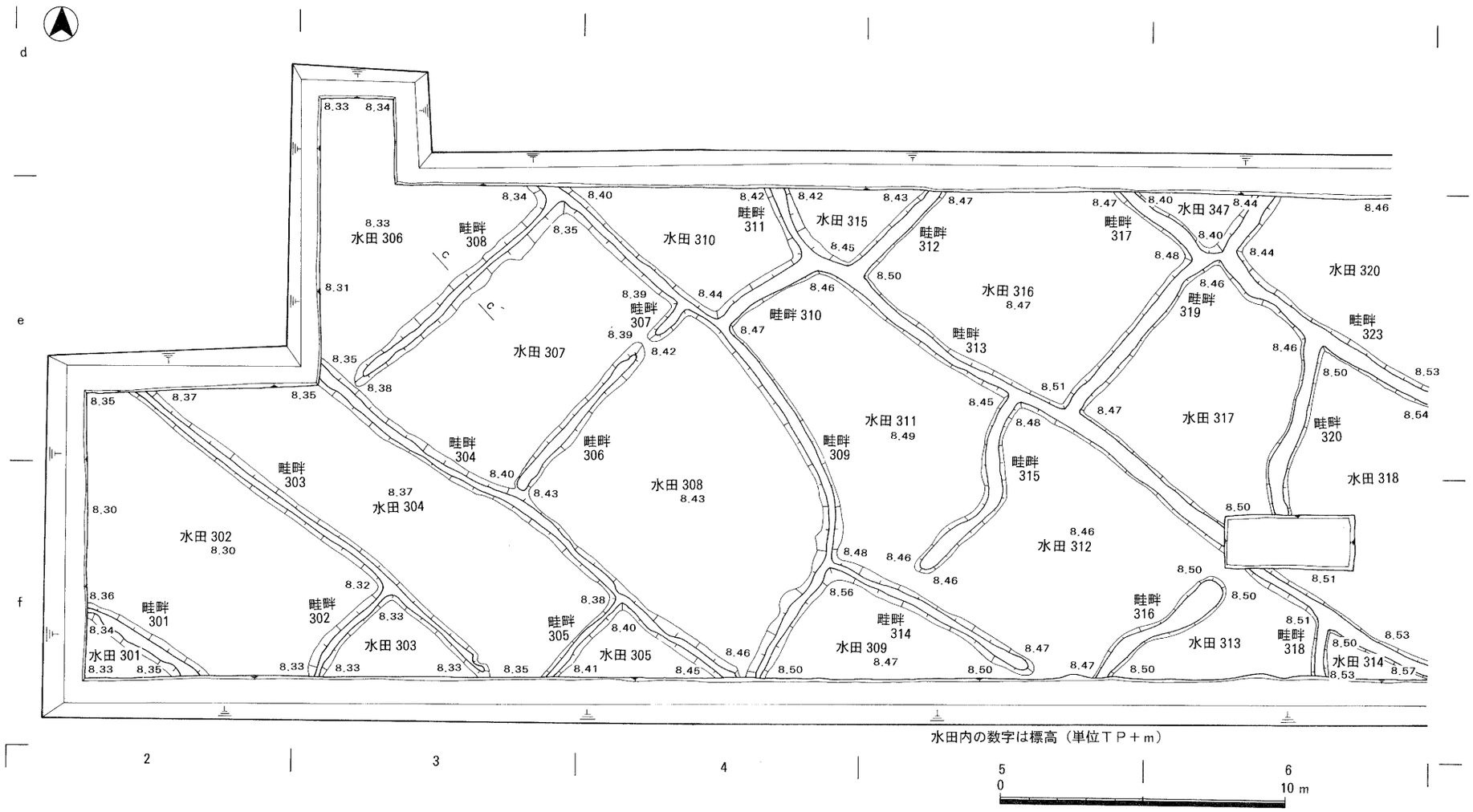
第11層内からは弥生時代後期の壷（52)、弥生時代後期から古墳時代前期の甕（53）が出土した。

遺構番号	区	地　　区	平面形状	東西	南北	面積　㎡
水田301	1	2f	三角形	3.4	2.2	3.69＋α
水田302	1	2．3e．f	南東－北西に長い　長方形	10.5	10.7	6.45＋α
水田303	1	3f	三角形	5.8	3	8.7＋α
水田304	1	2～4e．f	南東－北西に長い　長方形	6.8	10.7	62.295＋α
水田305	1	3．4f	三角形	6.3	2.7	8.37＋α
水田306	1	3d．e	南東－北西に長い　長方形	8.1	10.3	46.34＋α
水田307	1	3．4e．f	南西－北東に長い　長方形	11	9.6	50
水田308	1	3．4e．f	南東－北西に長い　長方形	10.4	12.6	72.55
水田309	1	4．5f	三角形	9.4	3.7	17.575＋α
水田310	1	3．4d．e	南東－北西に長い　長方形	8	4.5	21.94＋α
水田311	1	4．5e．f	南東－北西に長い　長方形	9.6	10.8	59
水田312	1	5．6e．f	南東－北西に長い　長方形	11.4	9.9	58.65
水田313	1	5．6f	台形	7.4	4.1	16.33＋α
水田314	1～2	6．7f	三角形	3.7	1.9	3.515＋α
水田315	1	4．5d．e	三角形	5.1	2.8	6.72＋α
水田316	1	5．6d．e	正方形	11.1	7.7	51.61＋α
水田317	1	5．6e．f	南東－北西に長い　台形	7.7	10.9	49.5
水田318	1～2	6．7e．f	南東－北西に長い　台形	8.9	11.1	54.375
水田319	2	7．8f	南東－北西に長い　長方形	11.4	6.5	38.7＋α
水田320	1～2	6．7d．e	南東－北西に長い　長方形	13.5	14	77.85＋α
水田321	2	7．8e．f	南西－北東に長い　長方形	10.6	9	38.25
水田322	2	7．8e．f	三角形	6	8.3	27＋α
水田323	2	7．8d．e	三角形	4.6	8.7	19.78＋α
水田324	2	7．8d	正方形	8.4	8.3	36
水田325	2～3	6．7c．d	南東－北西に長い　長方形	10.3	10.2	51.15
水田326	2	8d	南東－北西に長い　長方形	2	3	4.68＋α
水田327	2	7．8c．d	南西－北東に長い　長方形	4.9	7.1	21.72＋α
水田328	2	7．8b．c	三角形	2.7	7.3	11.25＋α
水田329	2	7．8b	三角形	9.2	3.5	16.1＋α
水田330	2～3	6～8b．c	南東－北西に長い　長方形	15.1	13.5	87.75＋α
水田331	2～3	6．7b	南東－北西に長い　長方形	6.3	5.4	26.1＋α
水田332	2	7b	三角形	2	2.7	2.72＋α
水田333	3	6b．c	正方形	7.3	7.2	30.25
水田334	3	5．6b．c	南東－北西に長い　長方形	8	5.5	26.9＋α
水田335	3	5．6c	三角形	8.7	3.4	14.025＋α
水田336	3	5．6b．c	正方形	8.1	7.8	36
水田337	3	4．5b．c	南東－北西に長い　長方形	11.4	4.9	27.5＋α
水田338	3	4．5c	三角形	8.1	4.5	18＋α
水田339	3	4．5b．c	南東－北西に長い　長方形	9.8	9.8	45
水田340	3	4b	三角形	3.5	2	3.5＋α
水田341	3	3．4b．c	南東－北西に長い　長方形	10.8	7.7	45.75＋α
水田342	3	2～4b．c	南東－北西に長い　長方形	12.5	5.8	41.17＋α
水田343	3	2．3b～d	南東－北西に長い　長方形	14.6	10.6	77.2＋α
水田344	3	1．2b．c	南東－北西に長い　長方形	10.5	6.7	44＋α
水田345	3	1．2b．c	三角形	7.3	7.8	33＋α
水田346	3	1b	三角形	0.6	2.7	0.65＋α
水田347	1	5．6d．e	三角形	4.5	2.1	4.5＋α

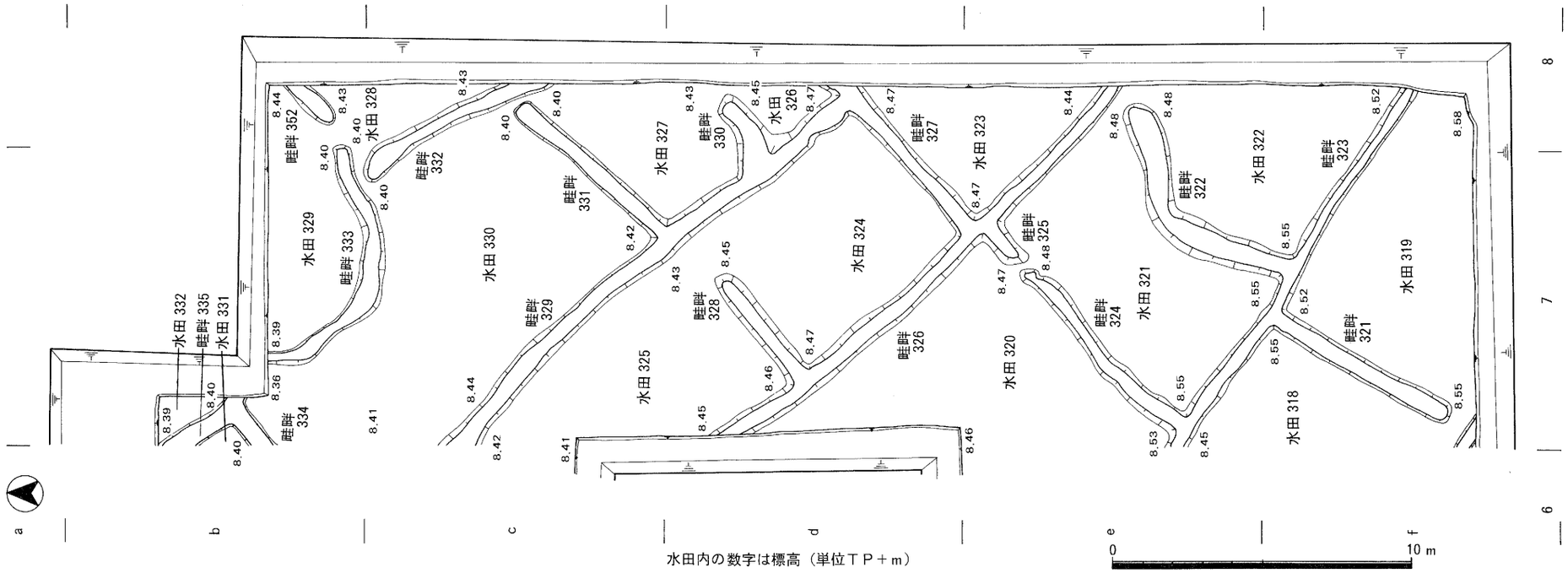
第６表　第１区～第３区第３面水田一覧表

遺構番号	区	地　　区	方　　向	総　長	最大基底幅	最小基底幅	最大上幅	最小上幅	高　　さ
畦畔301	1	2f	南東－北西	4.9	1.2	0.6	0.6	0.3	0.1
畦畔302	1	3f	南西－北東	4.3	0.9	0.4	0.3	0.1	0.1
畦畔303	1	2．3e．f	南東－北西	16.5	0.7	0.2	0.3	0.1	0.1
畦畔304	1	3．4e．f	南東－北西	18.6	0.8	0.5	0.5	0.2	0.1
畦畔305	1	3．4f	南西－北東	4.1	0.6	0.4	0.2	0.1	0.1
畦畔306	1	3．4e．f	南西－北東	7.2	0.8	0.6	0.4	0.3	0.15
畦畔307	1	4e	南西－北東	1.8	0.6	0.5	0.4	0.3	0.1
畦畔308	1	3e	南西－北東	9.8	1	0.6	0.3	0.2	0.2
畦畔309	1	3．4d～f	南東－北西	22.3	1.1	0.5	0.6	0.1	0.1
畦畔310	1	4e	南西－北東	4	0.9	0.7	0.5	0.4	0.1
畦畔311	1	4d．e	南東－北西	2.9	0.9	0.7	0.5	0.2	0.1
畦畔312	1	4．5d．e	南西－北東	4.6	0.8	0.6	0.4	0.3	0.1
畦畔313	1～2	4～7e．f	南東－北西	26.9	0.9	0.5	0.6	0.2	0.1
畦畔314	1	4．5f	南東－北西	8	0.8	0.6	0.4	0.1	0.1
畦畔315	1	5e．f	南西－北東	7.4	0.8	0.6	0.5	0.4	0.1
畦畔316	1	5．6f	南西－北東	5.8	1	0.5	0.8	0.2	0.1
畦畔317	1	5．6d．e	南東－北西	3.8	0.8	0.5	0.4	0.2	0.1
畦畔318	1	6f	南北	2.4	0.6	0.5	0.4	0.3	0.1
畦畔319	1	5．6e	南西－北東	10.8	0.9	0.7	0.5	0.4	0.1
畦畔320	1	6e．f	南西－北東	9.1	0.8	0.6	0.5	0.3	0.1
畦畔321	2	7f	南西－北東	6.8	0.9	0.5	0.7	0.4	0.1
畦畔322	2	7．8e．f	南西－北東	8.6	1.2	0.8	0.9	0.5	0.1
畦畔323	1～2	6～8e．f	南東－北西	23.6	0.9	0.4	0.5	0.2	0.1
畦畔324	2	7e	南西－北東	7.8	0.8	0.5	0.5	0.2	0.1
畦畔325	2	7e	南西－北東	1.8	0.8	0.7	0.5	0.4	0.1
畦畔326	2	7．8d．e	南東－北西	17.9	1	0.5	0.5	0.2	0.1
畦畔327	2	7．8d．e	南西－北東	7	0.9	0.7	0.5	0.3	0.1
畦畔328	2	7d	南西－北東	4.6	0.9	0.7	0.5	0.3	0.1
畦畔329	2～3	6～8b～d	南東－北西	26.5	1	0.5	0.6	0.3	0.1
畦畔330	2	7．8d	南西－北東	2.8	1.2	0.8	1	0.6	0.1
畦畔331	2	7．8c	南西－北東	6.7	0.8	0.6	0.5	0.3	0.2
畦畔332	2	7．8b．c	南東－北西	7.1	1	0.6	0.6	0.2	0.1
畦畔333	2	7．8b．c	南東－北西	9.6	0.9	0.5	0.6	0.2	0.1
畦畔334	2～3	6．7b	南西－北東	5.8	0.8	0.5	0.6	0.3	0.1
畦畔335	2～3	6．7b	南東－北西	3.8	0.9	0.4	0.6	0.3	0.1
畦畔336	3	6c	南西－北東	5.8	0.8	0.6	0.5	0.3	0.1
畦畔337	3	5．6b．c	南東－北西	12.4	0.8	0.5	0.6	0.3	0.1
畦畔338	3	5．6c	南西－北東	4.1	0.8	0.6	0.6	0.5	0.1
畦畔339	3	6b．c	南西－北東	5.4	0.8	0.5	0.5	0.3	0.1
畦畔340	3	5b	南東－北西	2.1	1.2	0.8	0.9	0.5	0.1
畦畔341	3	4．5b．c	南西－北東	5.7	0.7	0.6	0.4	0.3	0.1
畦畔342	3	5c	南東－北西	6.3	1	0.7	0.7	0.5	0.1
畦畔343	3	4．5b．c	南東－北西	9.3	1	0.6	0.7	0.4	0.1
畦畔344	3	3．4b．c	南東－北西	12.7	0.8	0.5	0.5	0.3	0.1
畦畔345	3	4b	南西－北東	2.9	0.6	0.5	0.4	0.3	0.1
畦畔346	3	3．4b．c	南西－北東	7.3	0.8	0.5	0.5	0.3	0.1
畦畔347	3	2．3b．c	南東－北西	15.5	0.8	0.6	0.6	0.2	0.1
畦畔348	3	2．3b．c	南西－北東	8.4	0.8	0.6	0.6	0.4	0.1
畦畔349	3	1．2b．c	南東－北西	7.8	1	0.5	0.6	0.2	0.15
畦畔350	3	1b	南北	1.3	0.8	0.7	0.5	0.4	0.1
畦畔351	3	1b．c	南西－北東	0.9	0.6	0.5	0.4	0.3	0.1
畦畔352	2	8b	南西－北東	2.2	0.7	0.5	0.5	0.3	0.1

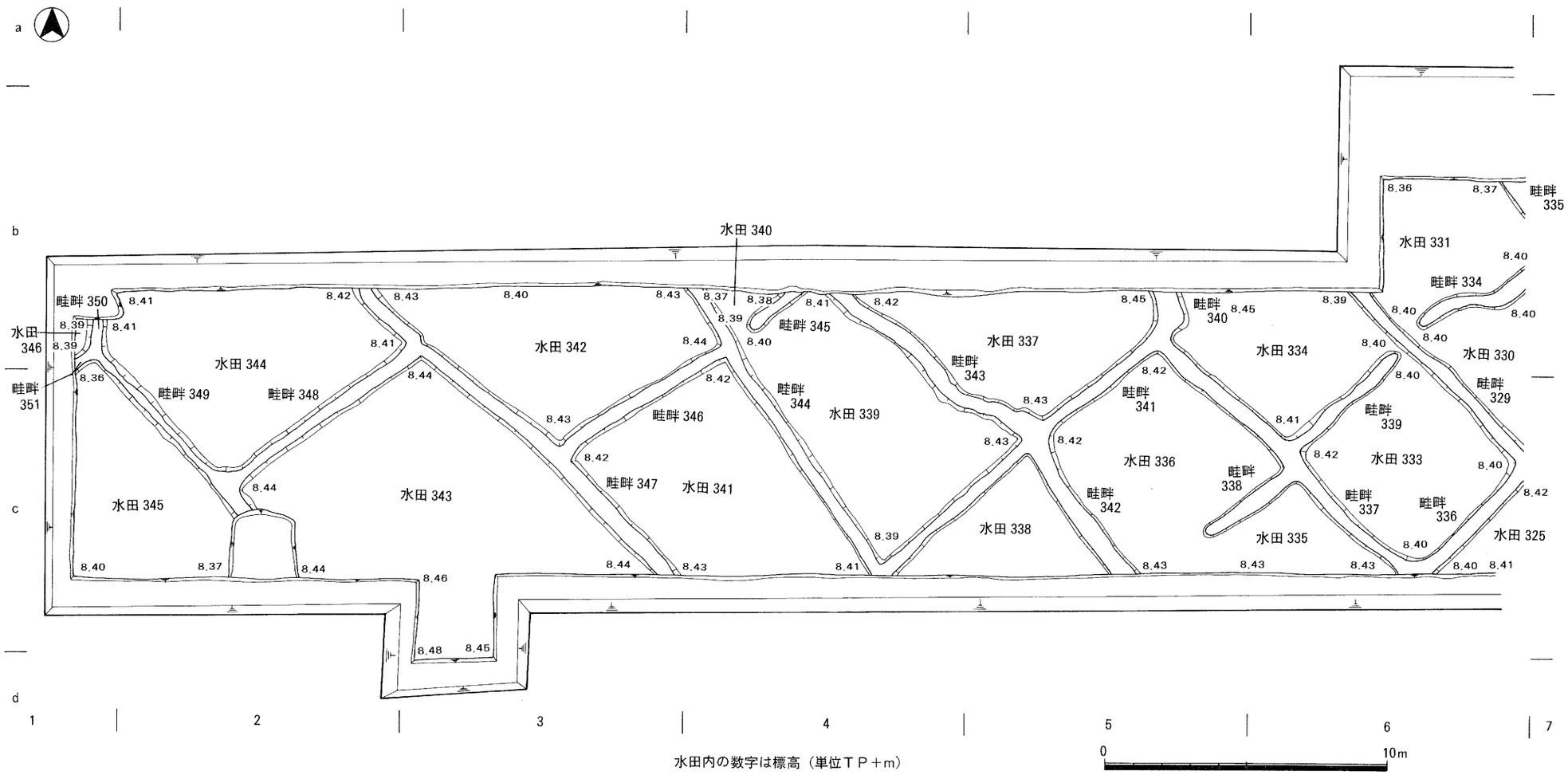
第7表　第1区～第3区第3面畦畔一覧表



第16図　第１区第３面平面実測図



第17図　第２区第３面平面実測図



第18図　第３区第３面平面実測図

第４節　第４区検出遺構・出土遺物

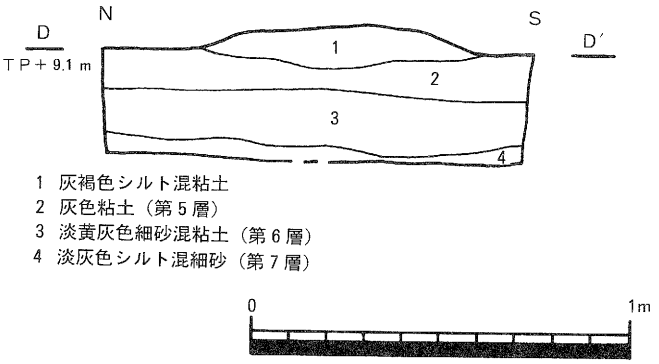
現地表下約1.0ｍ（標高9.0～9.1ｍ）前後に存在している第５層上面で平安時代後期から鎌倉時代初頭の水田５筆を検出した（第１面）。この面より約0.3ｍ下層の第８層上面で古墳時代後期の水田６筆を検出した（第２面）。この面より約0.2ｍ下層のａ層上面で古墳時代中期から後期の水田13筆・溝１条（ＳＤ－301）を検出した（第３面）。さらにこの面より約0.4ｍ下層の第10層上面で古墳時代前期の水田16筆・溝２条（ＳＤ－401・ＳＤ－402）を検出した（第４面）。

１）第１面［第５層上面検出遺構］

水田（水田115～水田119）

第５層上面で検出した。水田耕作土である第５層は第４層に覆われている。耕作面には第４層を埋土とする足跡群、および類似する凹みが全面に分布していた。第５層は厚いところで0.2ｍ、薄いところで0.1ｍを測る。

畦畔は南北・東西方向に伸び検出している。畦畔間の距離は東西方向が13ｍ間隔、南北方向が９ｍ間隔である。畦畔の断面は台形で上幅0.2～0.5ｍ、基底幅0.3～1.0ｍ、耕作面からの高さ0.1～0.2ｍあり、特に幅が広いもの高いも



第19図　畦畔 115　断面図

遺構番号	区	地　　区	平面形状	東西	南北	面積　㎡
水田115	4	９～12a．b	東西に長い　長方形	34.7	4	138.8＋α
水田116	4	９b	南北に長い　長方形	4	8.3	33.2＋α
水田117	4	９c	南北に長い　長方形	3.9	8.4	32.76＋α
水田118	4	９～11b．c	南北に長い　長方形	13.3	16.2	215.46＋α
水田119	4	11．12b．c	東西に長い　長方形	16.5	14.4	237.6＋α

第８表　第４区第１面水田一覧表

遺構番号	区	地　　区	方　　向	総　長	最大基底幅	最小基底幅	最大上幅	最小上幅	高　　さ
畦畔112	4	９．10b	東西	6.8	0.8	0.6	0.4	0.2	0.1
畦畔113	4	９b．c	東西	2.1	0.5	0.3	0.3	0.2	0.2
畦畔114	4	９b．c	南北	11.9	0.7	0.3	0.4	0.2	0.1
畦畔115	4	11b．c	南北	14.9	1	0.5	0.5	0.2	0.1

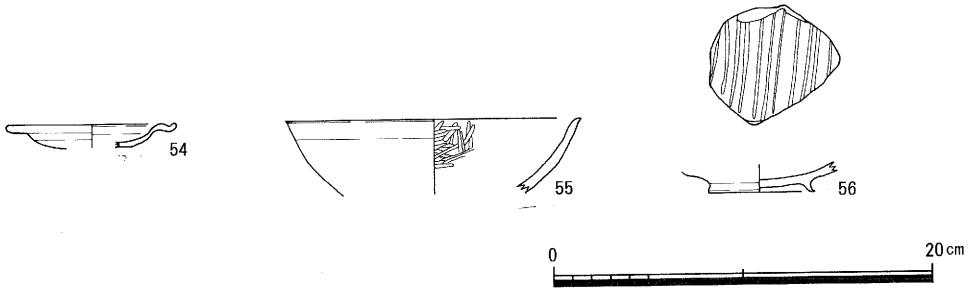
第９表　第４区第１面畦畔一覧表

のは存在しなかった。畦畔の堆積土は、灰褐色シルト混粘土である。

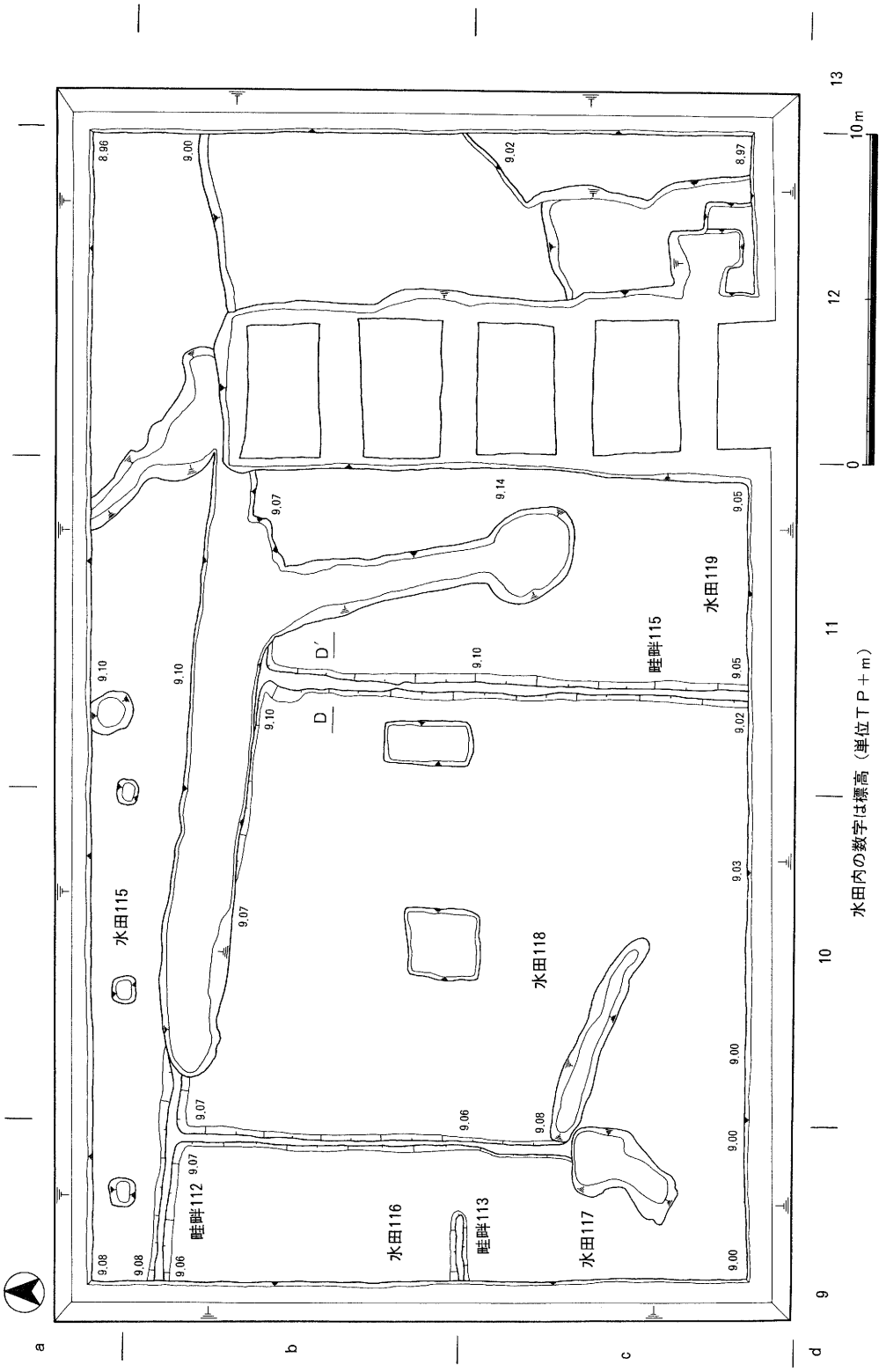
水田115がもっとも高く標高9.10mを測る。南、西、東に下がっている。最も低いものは同じ水田の水田115で標高8.96mを測る。水田の比高は0.14mを測る。各水田は東西方向に長い。隣合う各水田の耕作土面の標高差は0.05m前後である。畦畔を挟む両側で極端に低くなるような顕著な段を呈するものはなかった。

なお、後世（特に八尾空港の格納庫を建設時）の掘削により水田は一部で検出されなかったが、本来は水田が連続してあったと考えられる。［各水田・畦畔の数値は第8表・第9表に示す。また各水田の標高は第21図に記入した。］

水田上面を覆う第4層からは土師器皿（54）、瓦器椀（55・56）が出土した。



第20図　第4層（54～56）出土遺物実測図



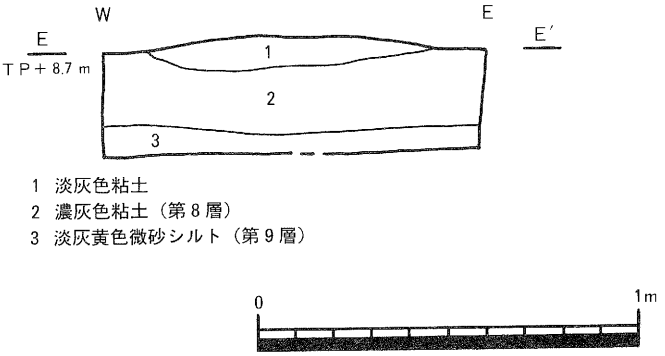
第21図　第４区第１面平面実測図

2）第2面［第8層上面検出遺構］

水田（水田221～水田226）

第8層上面で検出した。水田耕作土である第8層は第7層に覆われている。耕作面には第7層を埋土とする足跡群、および類似する凹みが全面に分布していた。第8層は厚いところで0.3m、薄いところで0.2mを測る。

畦畔は南北・東西方向に伸び検出している。畦畔間の距離は東西方向が5～17m間隔、南北方向が14m以上の間隔である。畦畔の断面は台形で上幅0.2～0.6m、基底幅0.4～1.1m耕作面からの高さ0.1mあり、特に幅が広いもの高いものは存在しなかった。畦畔の堆積土は淡灰色粘土である。

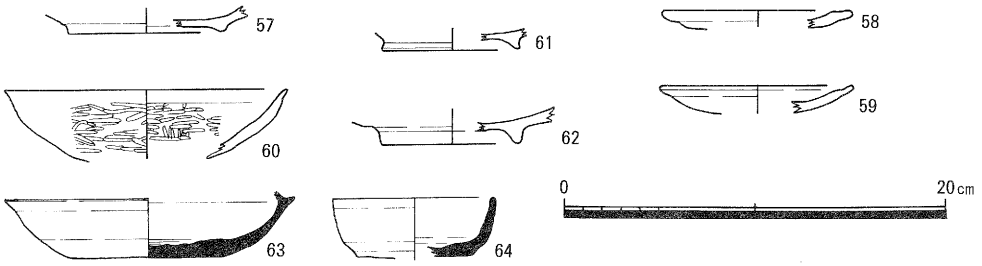


第22図　畦畔227　断面図

水田221がもっとも高く標高8.75mを測る。北、東に下がっている。最も低いものは水田224で標高8.68mを測り、比高は0.07mを測る。各水田は南北方向に長い。隣合う各水田の耕作土面の標高差は0.3m前後である。畦畔を挟む両側で極端に低くなるような顕著な段を呈するものはなかった。

なお、後世（特に八尾空港の格納庫を建設時）の掘削により水田は一部で検出されなかったが、本来は水田が連続してあったと考えられる。［各水田・畦畔の数値は第10表・第11表に示す。また各水田の標高は第24図に記入した。］

水田上面を覆う第5層～第7層からは土師器椀（57）・皿（58・59）、瓦器椀（60～62）が出土した。また水田耕作土である第8層からは須恵器杯（63・64）が出土した。



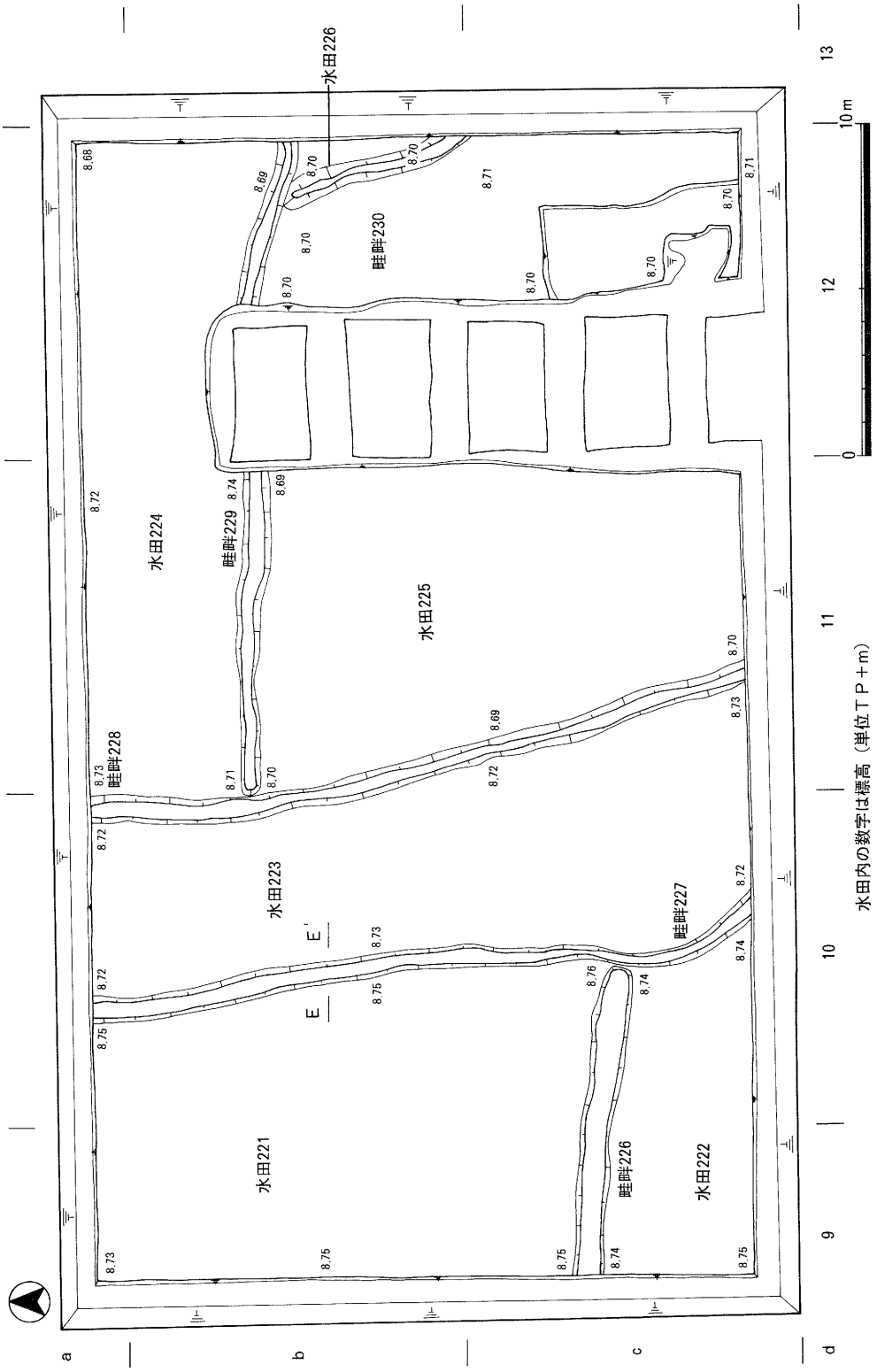
第23図　第5層～第7層（57～62）　第8層（63・64）出土遺物実測図

遺構番号	区	地　　区	平面形状	東西	南北	面積　㎡
水田221	4	9．10a～c	南北に長い　長方形	9.8	15.2	130.5＋α
水田222	4	9．10c	東西に長い　長方形	10.9	4.7	42.75＋α
水田223	4	10．11a～c	南北に長い　長方形	7.4	19.9	94＋α
水田224	4	10～12a．b	東西に長い　長方形	20.2	6.1	100＋α
水田225	4	11b．c	東西に長い　長方形	20.1	14.1	259.5＋α
水田226	4	12b	三角形	1.4	3.8	2.85＋α

第10表　第４区第２面水田一覧表

遺構番号	区	地　　区	方　　向	総　長	最大基底幅	最小基底幅	最大上幅	最小上幅	高　　さ
畦畔226	4	9．10c	東西	9.6	1.1	0.8	0.6	0.4	0.1
畦畔227	4	10a～c	南北	20.1	0.8	0.4	0.4	0.3	0.1
畦畔228	4	10．11a～c	南北	20.1	0.9	0.5	0.4	0.2	0.1
畦畔229	4	11b	東西	20.1	0.9	0.4	0.4	0.2	0.1
畦畔230	4	12b．c	南東－北西	5.4	0.8	0.6	0.4	0.3	0.1

第11表　第４区第２面畦畔一覧表



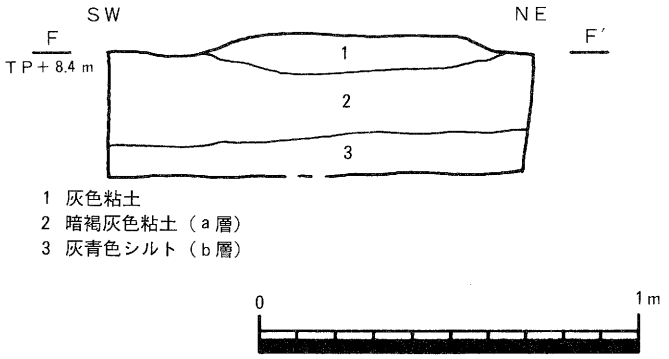
第24図　第４区第２面平面実測図

３）第３面［ａ層上面検出遺構］

水田（水田348～水田360）

ａ層上面で検出した。水田耕作土であるａ層は第９層に覆われている。耕作面には第９層を埋土とする足跡群、および類似する凹みが全面に分布していた。ａ層は厚いところで0.3ｍ、薄いところで0.1ｍを測る。

畦畔は南東から北西方向と南西から北東方向に伸び検出している。畦畔間の距離は南東から北西方向が６～10ｍ間隔、南西から北東方向が2.5～９ｍ間隔である。畦畔の断面は台形で上幅0.2～1.0ｍ、基底幅0.4～1.2ｍ、耕作面からの高さ0.1ｍあり、特に幅が広いもの高いものは存在しなかった。畦畔の堆積土は灰色粘土である。



第25図　畦畔 358　断面図

水田351がもっとも高く標高8.46ｍを測り、北、東に下がっている。最も低いものは水田360で標高8.30ｍを測り、比高は0.16ｍを測る。各水田は南北方向に長い。隣合う各水田の耕作土面の標高差は0.5ｍ前後である。畦畔を挟む両側で極端に低くなるような顕著な段を呈するものはなかった。

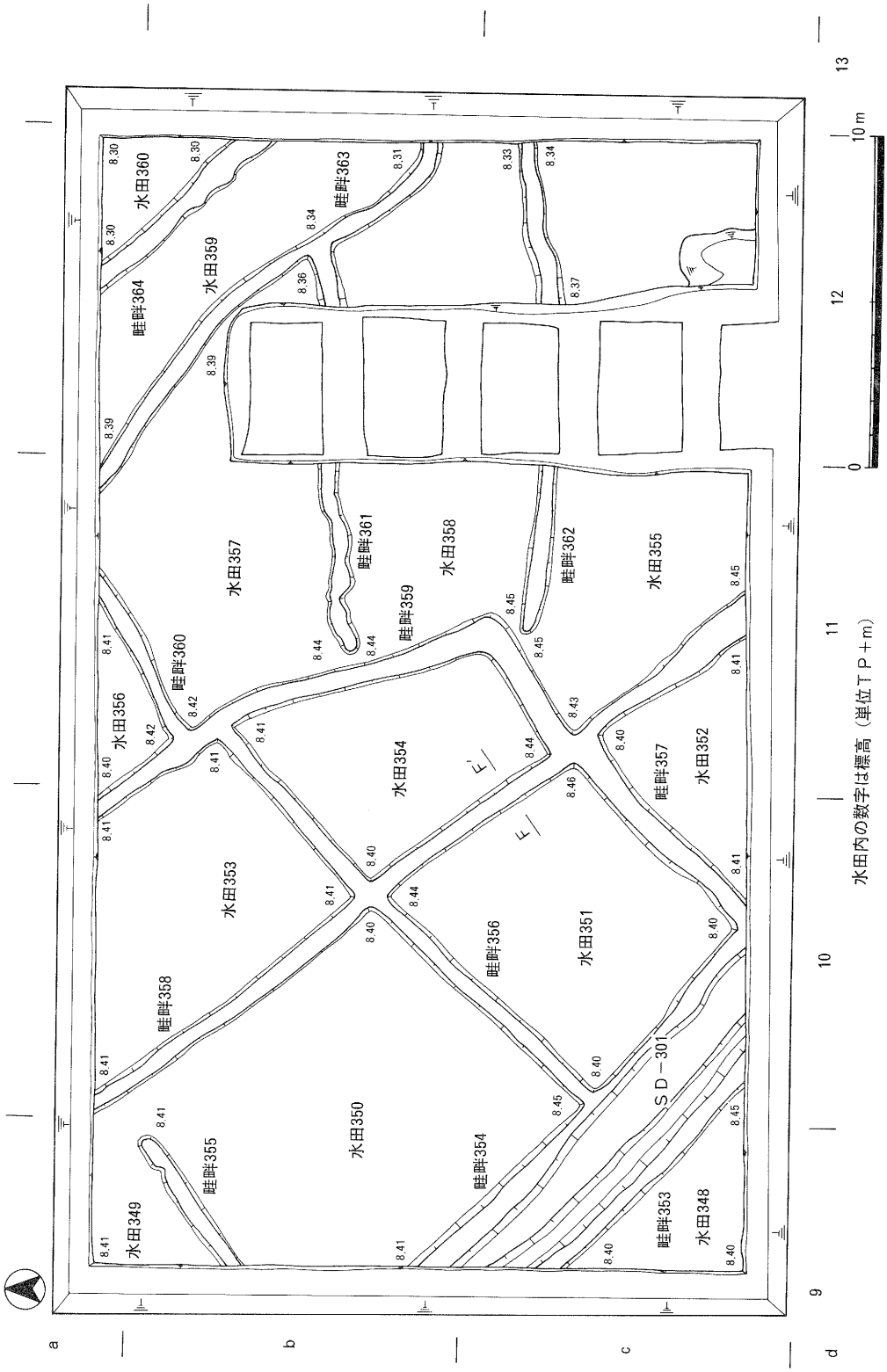
なお、後世（特に八尾空港の格納庫を建設時）の掘削により水田は一部で検出されなかったが、本来は水田が連続してあったと考えられる。［各水田・畦畔の数値は第12表・第13表に示す。また各水田の標高は第26図に記入した。］

遺構番号	区	地　　区	平面形状	東西	南北	面積　㎡
水田348	4	9．10c	三角形	6.3	5.5	16.6＋α
水田349	4	9．10a．b	三角形	5.1	4.1	10.2＋α
水田350	4	9．10b．c	南東－北西に長い　長方形	11	13.4	90
水田351	4	10．11b．c	南西－北東に長い　長方形	9.8	10.1	48
水田352	4	10．11c	三角形	8.3	4.5	18.9＋α
水田353	4	10．11a．b	南東－北西に長い　長方形	10.8	7.8	47.85＋α
水田354	4	10．11b．c	南東－北西に長い　長方形	6.9	9.2	35
水田355	4	11．12c	東西に長い　長方形	7.9	6.6	99.2＋α
水田356	4	10．11a．b	三角形	6.6	2.4	8.04＋α
水田357	4	11．12a．b	東西に長い　長方形	14.3	7.4	69＋α
水田358	4	11．12b．c	東西に長い　長方形	16.2	6	86.9＋α
水田359	4	11．12a．b	南東－北西に長い　長方形	10.6	9.5	29.135＋α
水田360	4	12a．b	三角形	4.3	4.3	9.6＋α

第12表　第４区第３面水田一覧表

遺構番号	区	地　　区	方　　向	総　長	最大基底幅	最小基底幅	最大上幅	最小上幅	高　　さ
畦畔353	4	9．10c	南東－北西	9.1	0.8	0.7	0.5	0.3	0.1
畦畔354	4	9．10b．c	南東－北西	14.4	1.2	0.4	0.9	0.2	0.1
畦畔355	4	9 b	南西－北東	5	0.7	0.4	0.5	0.2	0.1
畦畔356	4	10b．c	南西－北東	16.1	0.7	0.5	0.4	0.2	0.1
畦畔357	4	10．11c	南西－北東	7.7	0.9	0.7	0.8	0.5	0.1
畦畔358	4	10．11b．c	南東－北西	24.8	1.2	0.5	1	0.2	0.1
畦畔359	4	11b．c	南東－北西	17.4	1	0.5	0.7	0.2	0.1
畦畔360	4	11a．b	南西－北東	6	0.7	0.5	0.4	0.2	0.1
畦畔361	4	11．12b	東西	12.4	0.8	0.4	0.5	0.2	0.1
畦畔362	4	11．12c	東西	15.2	0.7	0.5	0.6	0.3	0.1
畦畔363	4	11．12a．b	南東－北西	14.6	0.7	0.5	0.5	0.2	0.1
畦畔364	4	12a．b	南東－北西	6.9	1.1	0.6	0.5	0.3	0.1

第13表　第４区第３面畦畔一覧表

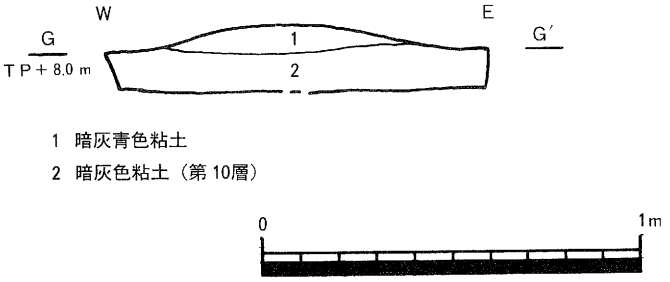


第26図　第４区第３面平面実測図

4）第４面［第10層上面検出遺構］

水田（水田401～水田416）

第10層上面で検出した。水田耕作土である第10層は第ｂ層およびｃ層に覆われている。耕作面にはｃ層を埋土とする足跡群、および類似する凹みが全面に分布していた。第10層は厚いところで0.2ｍ、薄いところで0.1ｍを測る。



第27図　畦畔 415　断面図

畦畔は南東から北西方向と南西から北東方向に伸び検出している。畦畔間の距離は南東から北西方向が４～６ｍ間隔、南西から北東方向が２～４ｍ間隔である。畦畔の断面は台形で上幅0.1～0.8ｍ、基底幅0.3～1.8ｍ、耕作面からの高さ0.1～0.2ｍあり、特に幅が広いもの高いものは存在しなかった。畦畔の堆積土は暗灰青色粘土である。

水田401がもっとも高く標高8.32ｍを測る。北、東に下がっている。最も低いものは水田413で標高7.90ｍを測る。比高は0.42ｍである。隣合う各水田の耕作土面の標高差は0.05ｍ前後である。畦畔401より東側では極端に低くなる（比高差0.2ｍ）ような顕著な段を呈していた。

なお、後世（特に八尾空港の格納庫を建設時基礎工事）の掘削により水田は一部で検出されなかったが、本来は水田が連続してあったと考えられる。［各水田・畦畔の数値は第14表・第15表に示す。また各水田の標高は第30図に記入した。］

ＳＤ－401

９．10ｃで検出した。南東－北西方向に伸びる。幅1.5ｍ・深さ0.1ｍを測る。埋土は灰褐色シルト混粘土である。溝内からは須恵器杯（65）が出土した。

ＳＤ－402

９～11ａ～ｃで検出した。南東－北西方向に伸びる。幅4.0ｍ・深さ0.7ｍを測る。埋土は上から淡灰色細砂．灰色シルトである。溝内からは土師器壷（66・67）・鉢（68）・高杯（69～71）・甕（72・73）、製塩土器（74）、須恵器蓋（75）・杯（76～79）、土師器かまど（80）、木製品の堰（81）が出土した。

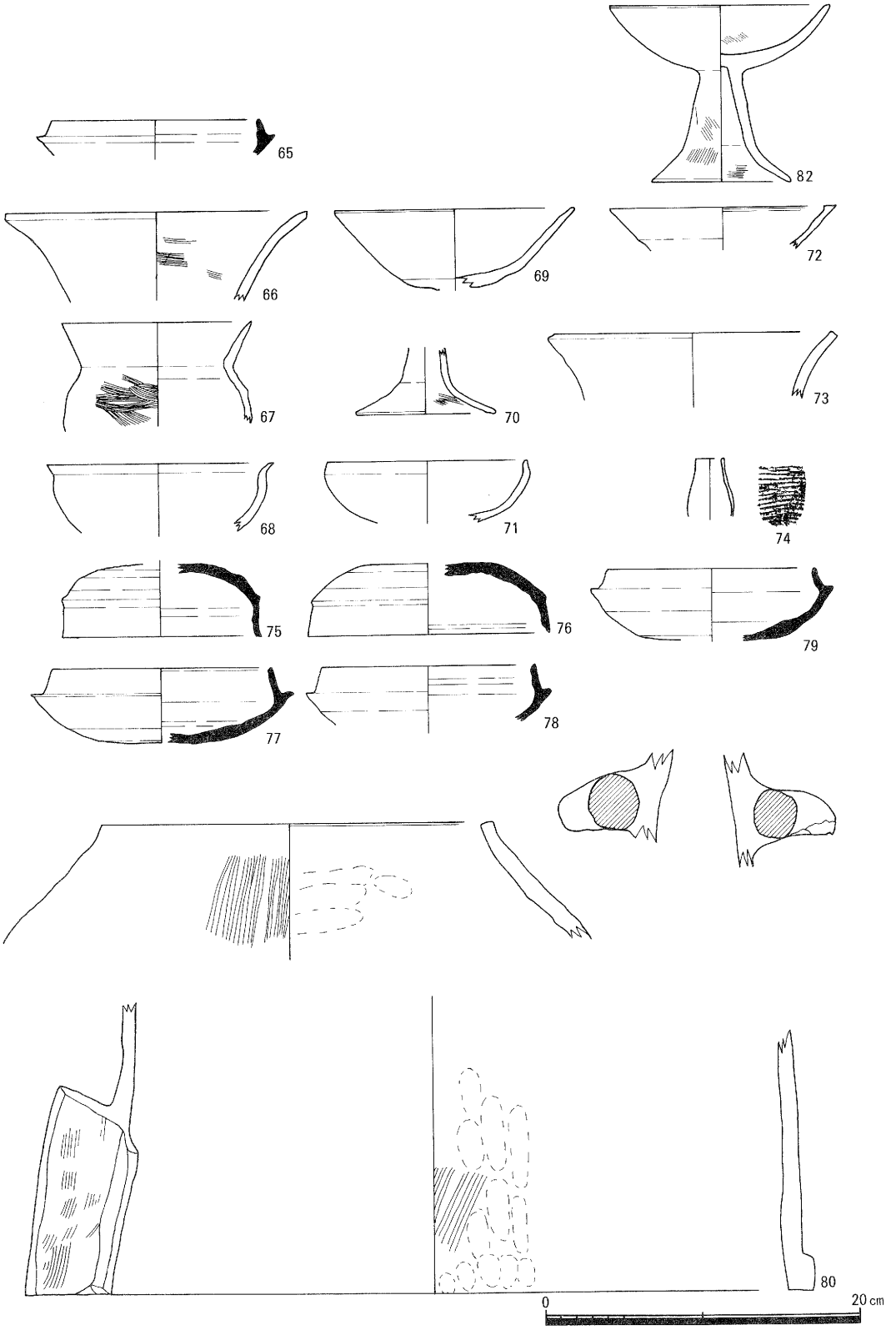
水田耕作土の下層の第11層からは古墳時代前期の土師器高杯（82）が出土した。

遺構番号	区	地　　区	平面形状	東西	南北	面積　㎡
水田401	4	9．10c	三角形	6.8	6.3	20.25＋α
水田402	4	9．10b．c	南東－北西に長い　長方形	10.4	13.6	45＋α
水田403	4	10．11b．c	南東－北西に長い　長方形	12.8	10.8	52＋α
水田404	4	9．10a．b	南東－北西に長い　長方形	7.3	10.5	28.5＋α
水田405	4	10a．b	三角形	1.6	1.6	1.04＋α
水田406	4	10．11a．b	東西に長い　長方形	8.9	5.4	38.25＋α
水田407	4	10．11b	三角形	7.6	4.9	14
水田408	4	11b．c	台形	3.8	5.9	13.5
水田409	4	11b．c	南北に長い　長方形	4.5	8.2	33.6＋α
水田410	4	11c	三角形	1.8	2.6	2.25＋α
水田411	4	11a．b	南北に長い　長方形	3.1	6.8	18.76＋α
水田412	4	11．12a．b	南北に長い　長方形	4	6.3	25.2＋α
水田413	4	12a.b	東西に長い　長方形	6.9	3.9	21＋α
水田414	4	12b	東西に長い　長方形	5.9	7.4	37.8＋α
水田415	4	12b．c	東西に長い　長方形	5.1	6.3	26.4＋α
水田416	4	12c	南北に長い　長方形	3.9	6.4	21.09＋α

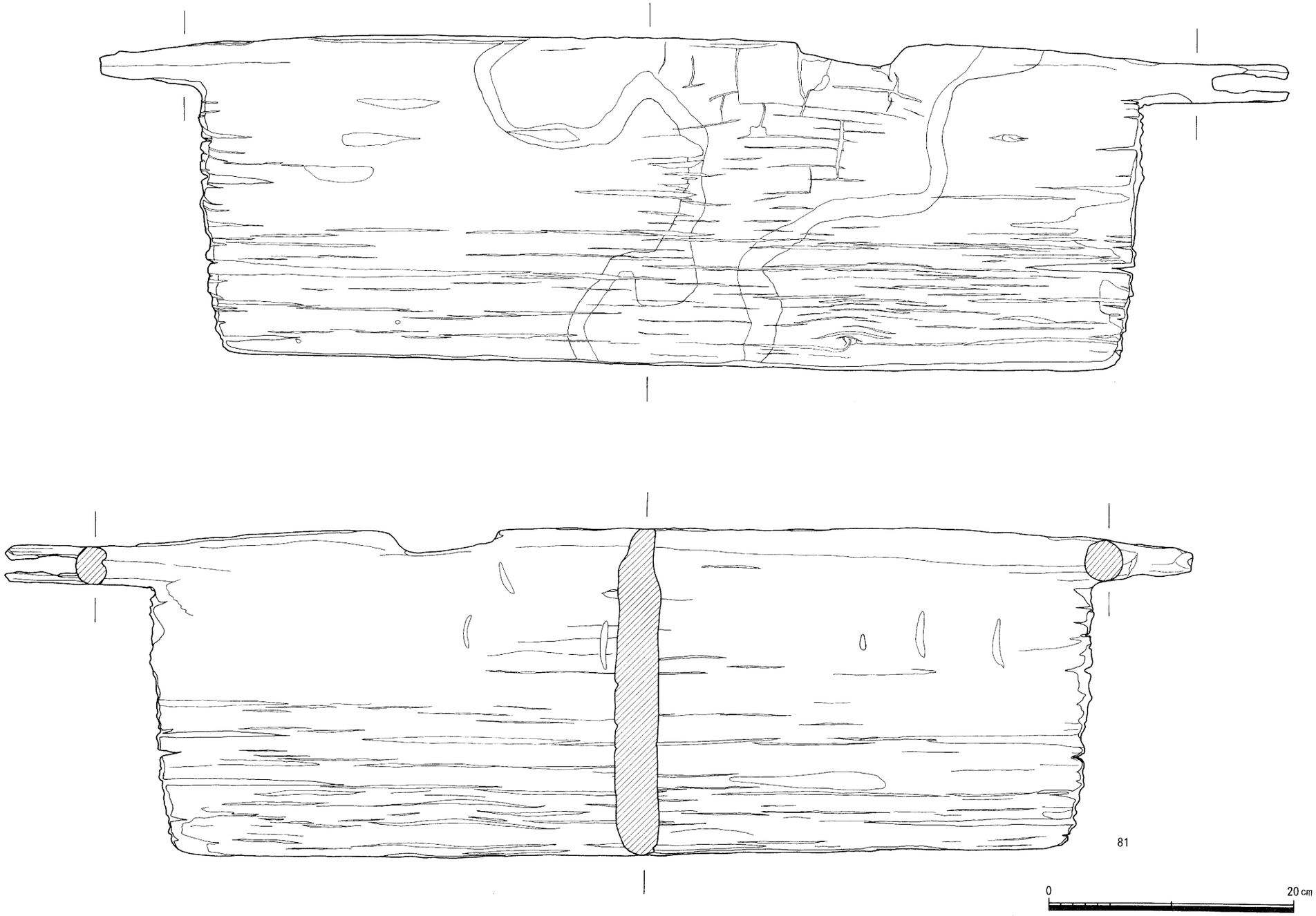
第14表　第４区第４面水田一覧表

遺構番号	区	地　　区	方　　向	総　長	最大基底幅	最小基底幅	最大上幅	最小上幅	高　　さ
畦畔401	4	9．10b．c	南東－北西	18	1.1	0.7	0.8	0.1	0.2
畦畔402	4	10b	南西－北東	2	0.7	0.5	0.2	0.1	0.1
畦畔403	4	10．11c	南東－北西	11			0.6	0.2	0.1
畦畔404	4	9a．b	南東－北西	3			0.4	0.3	0.2
畦畔405	4	10．11a～c	南東－北西	25	0.7	0.5	0.8	0.1	0.15
畦畔406	4	10a．b	南西－北東	2	0.8	0.6	0.5	0.2	0.1
畦畔407	4	10a	南東－北西	1	0.4	0.3	0.2	0.1	0.1
畦畔408	4	10．11b	南東－北西	13	0.6	0.4	0.3	0.1	0.15
畦畔409	4	10．11a	南北	0.7	0.6	0.5	0.2	0.1	0.1
畦畔410	4	11a．b	南北	5.5	0.5	0.3	0.2	0.1	0.1
畦畔411	4	11a．b	南北	6.5	0.7	0.4	0.2	0.1	0.1
畦畔412	4	11b	南西－北東	4.5	0.5	0.3	0.2	0.1	0.1
畦畔413	4	11b．c	南西－北東	6.5	0.7	0.3	0.2	0.1	0.1
畦畔414	4	11c	東西	2	0.6	0.4	0.2	0.1	0.1
畦畔415	4	12a．b	南北	4	0.7	0.6	0.3	0.2	0.1
畦畔416	4	12b	南西－北東	4.3	0.5	0.4	0.3	0.2	0.1
畦畔417	4	12b	南西－北東	5.2	0.6	0.3	0.4	0.2	0.1
畦畔418	4	12c	南東－北西	7	1.8以上	1.3以上	0.4以上	0.1以上	0.1
畦畔419	4	12c	南西－北東	4.8	0.7	0.3	0.4	0.1	0.1
畦畔420	4	9．10b	南東－北西	10.4			0.6	0.2	0.1

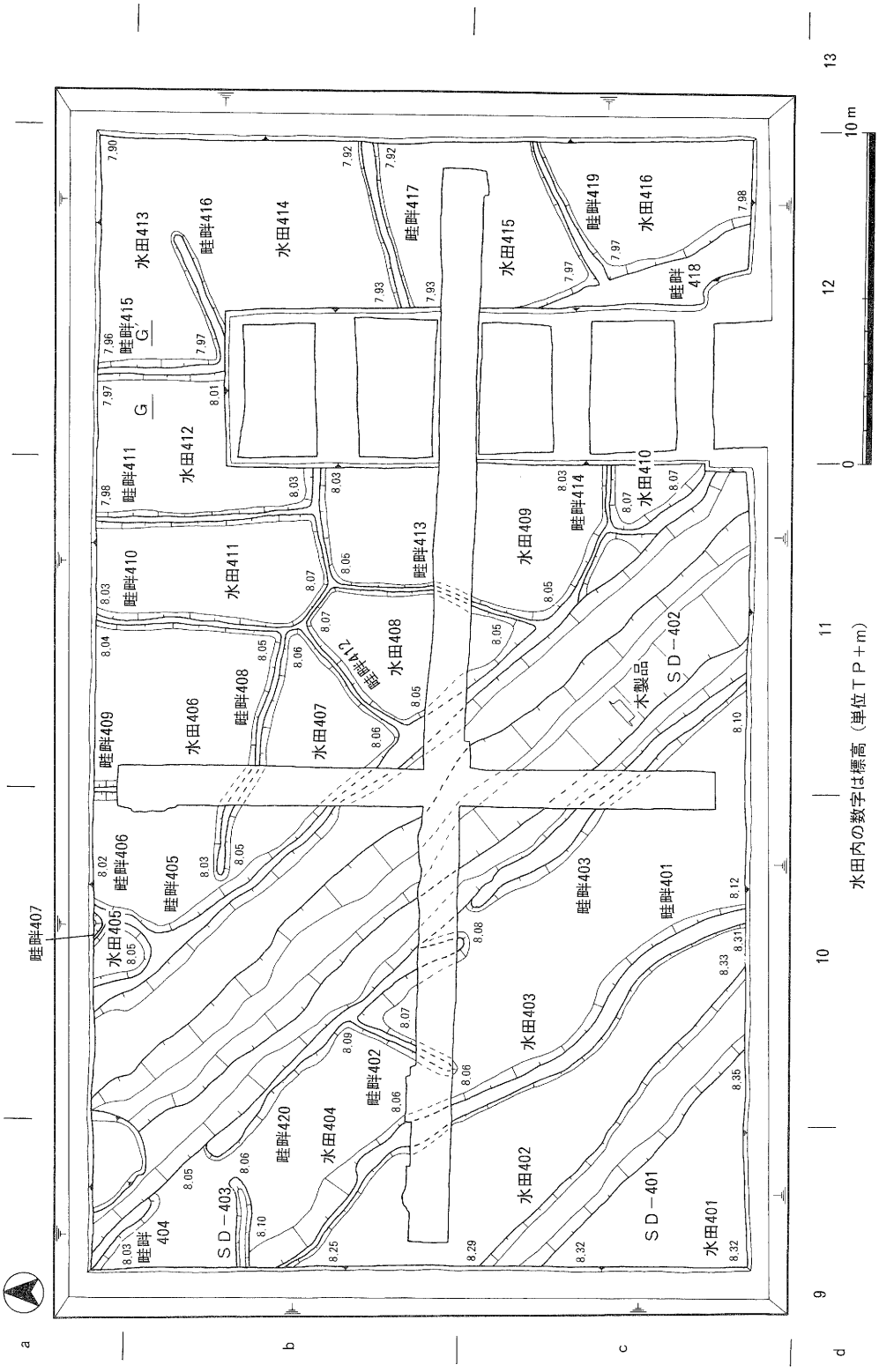
第15表　第４区第４面畦畔一覧表



第28図　SD－401（65）　SD－402（66～80）　第11層（82）出土遺物実測図



第29図　SD－402（81）出土遺物実測図



第30図　第４区第４面平面実測図

第３章　出土遺物観察表

ＳＤ－101

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼成	出土地区
1	黒色土器 椀	17	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	黒色	粗	良好	2c
2	黒色土器 椀	底径　6.0	体部内面ナデ。高台部ヨコナデ。	外面橙色 内面黒色	粗	良好	1b
3	黒色土器 椀	底径　7.0	体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。高台部ヨコナデ。	外面にぶい赤褐色 内面褐灰色	粗	良好	2c
4	黒色土器 椀	底径　7.0	体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。高台部ヨコナデ。	外面にぶい橙色 内面黒色	粗	良好	2．3e．f
5	土師器 杯	12.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面指頭圧成形後ナデ。	橙色	粗	良好	2．3e．f
6	土師器 皿	15.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	外面にぶい黄橙色 内面褐灰色	粗	良好	1b
7	土師器 椀	底径　5.8	体部内外面ナデ。高台部ヨコナデ。	赤黒色	粗	良好	2．3e．f
8	土師器 皿		口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	外面橙色 内面黒色	粗	良好	2c
9	土師器 皿	12	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	にぶい黄橙色	粗	良好	2c
10	土師器 皿		口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰黄色	粗	良好	2c
11	土師器 皿	12.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰黄色	粗	良好	2c

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼 成	出土地区
12	土師器 皿	11.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	外面にぶい橙色 内面浅黄橙色	粗	良好	2．3e．f
13	土師器 皿	9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	にぶい黄橙色	粗	良好	2c
14	土師器 皿	9.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰白色	粗	良好	2c
15	瓦器 椀	15.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	黒色	粗	良好	2b
16	瓦器 椀	15.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	暗灰色	粗	良好	2b
17	瓦器 椀	底径　5.2	体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。高台部ヨコナデ。	暗灰色	粗	良好	2b
18	瓦器 椀	底径　5.6	体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。高台部ヨコナデ。	外面暗灰色 内面黒色	粗	良好	2b
19	瓦器 椀	底径　5.2	体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。高台部ヨコナデ。	外面明赤灰色 内面赤黒色	粗	良好	2b
20	瓦器 皿	10.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	外面黒色 内面黄灰色	粗	良好	2b

第４層

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼 成	出土地区
21	黒色土器 椀	底径　7.0	体部内外面ナデ。高台部ヨコナデ。	外面にぶい橙色 内面黒色	粗	良好	2b

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼成	出土地区
22	土師器 皿	16	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰白色	粗	良好	5e
23	土師器 甕	16.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	外面にぶい赤褐色 内面明褐灰色	粗	良好	7c
24	土師器 椀	15.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	にぶい黄橙色	粗	良好	1b
25	瓦器 椀	16.6	口縁部内外面ヨコナデ。	灰白色	粗	良好	5e
26	瓦器 椀	14.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	暗オリーブ灰色	粗	良好	2b

第6層

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼成	出土地区
27 －八	須恵器 甕		体部内面同心円文タタキ、外面格子文タタキ。	外面灰色 内面灰白色	密	良好	2c
28 －八	土師器 皿	15 3.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面指頭圧成形後ナデ。	淡橙色	粗	良好	8e
29	黒色土器 椀	15	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	外面にぶい褐色 内面黒色	粗	良好	6c
30 －八	土師器 杯	11.2 3.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	淡橙色	粗	良好	5f
31 －八	土師器 皿	14.0 3.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	橙色	精良	良好	4f
32 －八	土師器 甕	15	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	にぶい黄橙色	精良	良好	4f

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼成	出土地区
33	瓦器 椀	16.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	暗灰色	粗	良好	3 e
34	瓦器 椀	14	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。高台部ヨコナデ。	黒色	粗	良好	3 e

第７層

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼成	出土地区
35	黒色土器 椀	15.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面指頭圧成形後ナデ。	黒色	粗	良好	7 e
36	黒色土器 椀	底径　8.0	体部内面ヘラミガキ、外面ヨコナデ。高台部ヨコナデ。	外面にぶい橙色 内面黒色	粗	良好	7 e
37	黒色土器 椀	底径　7.0	体部内外面ナデ。高台部ヨコナデ。	外面にぶい褐色 内面黒色	粗	良好	5 e
38	黒色土器 椀	底径　6.4	体部内外面ナデ。高台部ヨコナデ。	外面にぶい褐色 内面黒褐色	粗	良好	7 e
39	土師器 皿	8.2	口縁部内外面ヨコナデ。	灰白色	粗	良好	2 f
40	土師器 皿	10.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	外面にぶい黄橙色 内面橙色	粗	良好	7 e
41	土師器 皿	9.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	淡橙色	粗	良好	2 f
42	土師器 皿	7.8 1.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰白色	粗	良好	7 e
43	土師器 皿	8.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	褐灰色	粗	良好	6 f

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼成	出土地区
44 一八	土師器 皿	8.8 1.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	にぶい褐色	粗	良好	7d
45	土師器 杯	13.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面指頭圧成形後ナデ。	橙色	粗	良好	7d
46	土師器 杯	12.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	橙色	精良	良好	4f
47	土師器 甕	14.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面ナデ。	にぶい橙色	粗	良好	7e
48	土師器 甕	15.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	にぶい黄橙色	精良	良好	4f
49	土師器 甕	14.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰黄色	精良	良好	4f
50	須恵器 鉢	22.6	口縁部内外面回転ナデ。	灰白色	精良	良好	4f
51	須恵器 壷	底径　8.2	底部内外面回転ナデ。	灰白色	精良	良好	4f

第11層

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼成	出土地区
52 一八	弥生土器 壷		底部内外面ナデ。	外面にぶい黄橙色 内面褐灰色	粗	良好	7f
53 一八	弥生土器 甕	16.8 15.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハケ、底部に指頭圧成形あり、外面タタキ目　3本／cm、中位に粘土接合痕あり。	茶灰色細砂	4mm程度の砂礫少量含む 1mm程度の砂粒多量含む	良好	6c

第４層

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼 成	出土地区
54	土師器 皿	8.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	褐灰色	1㎜程度の砂粒含む（石英）	良好	11b
55	瓦器 椀	15.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	外面灰白色 内面黒色	粗	良好	10c
56 －八	瓦器 椀	底径　5.4	体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。高台部ヨコナデ。	外面暗灰色 内面黒色	粗	良好	11b

第５層～第７層

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼 成	出土地区
57	土師器 椀	底径　8.2	体部内外面ナデ。高台部ヨコナデ。	にぶい褐色	粗	良好	12b
58	土師器 皿	9.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	にぶい橙色	粗	良好	13c
59	土師器 皿	10.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰白色	粗	良好	12b
60	瓦器 椀	14.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	黒色	粗	良好	12c
61	瓦器 椀	底径　7.2	体部内外面ナデ。高台部ヨコナデ。	にぶい黄橙色	粗	良好	12c
62	瓦器 椀	底径　7.2	体部内外面ナデ。高台部ヨコナデ。	黒色	粗	良好	12c

第８層

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼 成	出土地区
63 －八	須恵器 杯		口縁部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ。	明青灰色	粗	良好	10c
64 －八	須恵器 杯	8.6	口縁部内外面，体部内外面回転ナデ。	青灰色	粗	良好	10c

SD－401

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼成	出土地区
65 －八	須恵器 杯	13.2	口縁部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ。	灰色	密	良好	

SD－402

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼成	出土地区
66	土師器 壷	19.2	口縁部内面ハケ。外面ヨコナデ。	外面黒褐色 内面にぶい赤褐色	粗	良好	
67	土師器 壷	12	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ハケ。	橙色	精良	良好	
68	土師器 鉢	14.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	にぶい黄橙色	粗	良好	
69 －九	土師器 高杯	15.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	にぶい橙色	粗	良好	
70 －九	土師器 高杯	底径　8.8	裾端部ヨコナデ。脚部内面ハケ、外面ナデ。	橙色	粗	良好	
71	土師器 高杯	12.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ハケ。	にぶい黄橙色	粗	良好	
72	土師器 甕	14.4	口縁部内外面ヨコナデ。	にぶい黄橙色	粗	良好	
73	土師器 甕	17.8	口縁部内外面ヨコナデ。	にぶい褐色	粗	良好	
74 －九	製塩土器	1.8	内面ナデ、外面タタキ目。	にぶい赤褐色	粗	良好	
75 －九	須恵器 杯蓋	12.6	口縁部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ。	暗青灰色	密	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼成	出土地区
76	須恵器 杯	15.4	口縁部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ。	青灰色	密	良好	
77 一九	須恵器 杯身	13.8	口縁部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ。	青灰色	密	良好	
78	須恵器 杯	13.6	口縁部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ。	青灰色	密	良好	
79	須恵器 杯	13.2	口縁部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ。	青灰色	密	良好	
80 一九	土師器 かまど		内面指頭圧成形後ハケ、外面ナデ。焚口側部、把手部、釜穴口縁部残存	にぶい黄橙色	粗	良好	10c
81 一九	木製品 堰	最大長　67.5 幅　26.6 厚さ　3.6	A面　中央に焦げ跡あり。B面　成形時の工具痕あり。				12c

第11層

遺物番号 図版番号	器　種	法量(cm)　口径 器高	調　　整	色　調	胎　土	焼成	出土地区
82 一九	土師器 高杯	14 11.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハケ、外面ナデ。裾端部内外面ヨコナデ。脚部内外面ハケ。	にぶい橙色	粗	良好	12b

第4章　まとめ

今回の調査では、古墳時代前期（第4面）・古墳時代中期から後期（第3面）・古墳時代後期（第2面）・平安時代後期から鎌倉時代（第1面）の遺構を検出した。

古墳時代前期

第4区では、第10層を耕作土としている水田が存在していることが判明した。何れの水田も小区画で、長方形または台形である。畦畔の交差は十字にならず、互い違いである。

調査区の南東部で南東－北東方向の溝(SD－401)を検出した。この溝を境に右岸と左岸とも低くなる地形で、この溝から水田401と水田402は取水していたと思われる。また中央部では南東－北西方向の溝(SD－401）を検出した。水田405～410はこの溝から取水していたと思われる。溝が機能を果たさなくなるのは、溝内の堆積土の上層内から須恵器（陶邑編年Ⅰ－5形式）が出土していることから、古墳時代中期末頃と推定されるので、この時期まで水田も耕作されていたと推定される。

同時期の水田は、八尾南遺跡調査会が調査をおこなったD－4地区でも検出されている。[注1] 約250m北に今回の調査地が存在しているので同一の水田であるとは言い難いが、少なくとも、畦畔の伸びている方向がほぼ一致していることから、当時の自然地形に制約されて同一方向に畦畔を築いていたと推定される。

古墳時代中期から後期

第1区～第3区では、第10層を耕作土としている水田が存在していることが判明した。何れの水田も小区画で、長方形または台形である。畦畔の交差は十字にならず、互い違いである。この調査区では、水田への取排水にかかわる溝は検出していない。

第4区では、a層を耕作土としている水田が存在していることが判明した。第1区～第3区と同様何れの水田も小区画で、長方形または台形である。畦畔の交差は十字にならず、互い違いである。また、第4区では水田に取水したと推定される溝1条（SD－301）検出した。水田348～水田352はこの溝から取水していたと思われる。

この時期の水田は、当調査研究会第3次調査[注2]でも検出している。また西隣の長原遺跡[注3]でも6世紀の水田を検出している。今回の調査地で検出した水田を含め、いずれの水田も畦畔の交差は十字にならず、互い違いであることから、古墳時代前期から古墳時代後期までの水田はこのような形状であったと推定される。

古墳時代後期から奈良時代

第1区から第4区の全調査区では、第8層を耕作土としている水田が存在していることが判

明した。水田は、東西方向と南北方向の畦畔で仕切られた長方形のものが多い。

第１区と第３区の西端では溝１条（SD－201）を検出した。この溝は水田202と水田219から排水する機能と、水田201と水田220へ取水する機能を持つものである。

この時期の水田は、西隣の長原遺跡の第６層上面で検出している。[注3] 畦畔は十字になるものが多く、今回の水田も同様である。

平安時代後期から鎌倉時代初頭

第１区から第４区の全調査区で第５層を耕作土としている水田が存在していることが判明した。水田は、東西方向と南北方向の畦畔で仕切られた長方形のものである。

第１区と第３区の西端では条里に伴ったものと考えられる溝１条（SD－101）を検出した。溝は南北方向に直線的に伸びて検出している。この溝は水田202と水田219から排水する機能と、水田201と水田220へ取水する機能を持つものである。

検出した水田は、条里地割に伴って区画されている。条里地割に伴っている水田は、東の木の本遺跡[注4]でも検出されている。

今回の調査では、水田遺構（生産域）が４面存在していることが明らかになった。今回の調査地に近隣している場所での調査は行われていないため集落（主に居住域）は不明であるが、今後、近接した周辺の調査で、今回検出した各時期の居住域が検出されるとおもわれる。

注1　八尾南遺跡調査会「八尾南遺跡」－大阪市高速電気軌道２号線建設に伴う発掘調査報告 書－1981．3

注2　㈶八尾市文化財調査研究会「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要」　昭和59年度

Ⅱ八尾南遺跡発掘調査概要報告　1985　㈶八尾市文化財調査研究会報告6

注3　㈶大阪市文化財協会「長原遺跡発掘調査報告書Ⅲ」1983．3

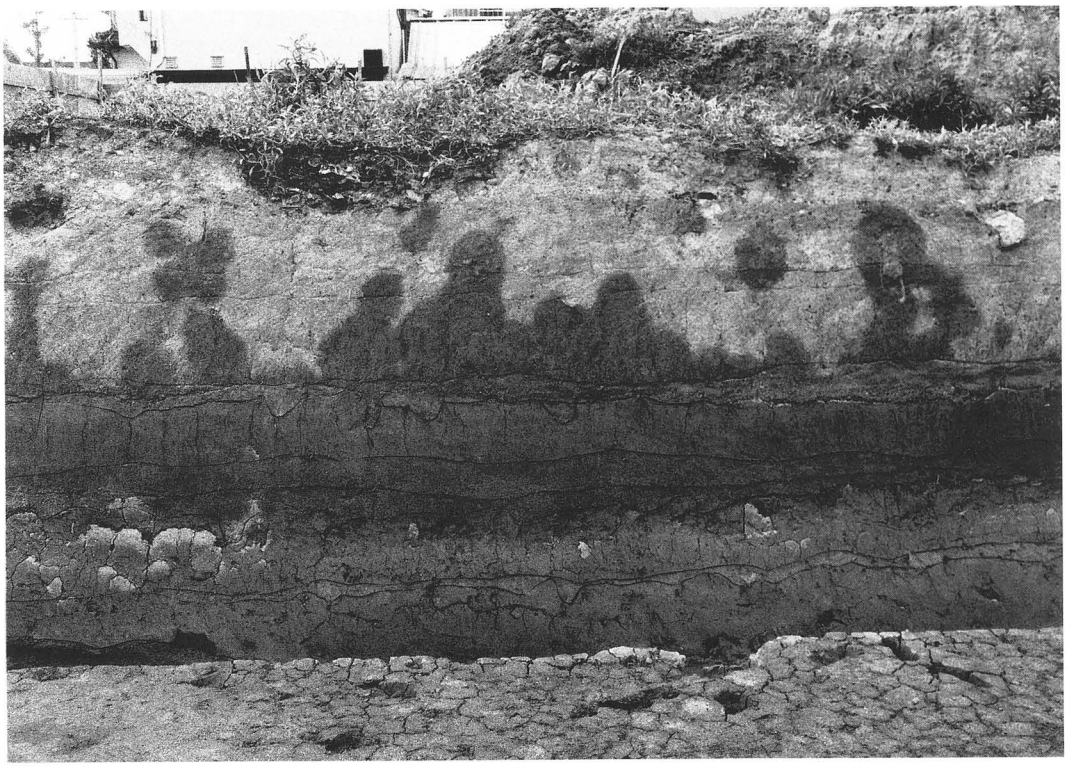
注4　㈶八尾市文化財調査研究会「木の本遺跡」－八尾空港整備事業に伴う発掘調査－1984

㈶八尾市文化財調査研究会報告4

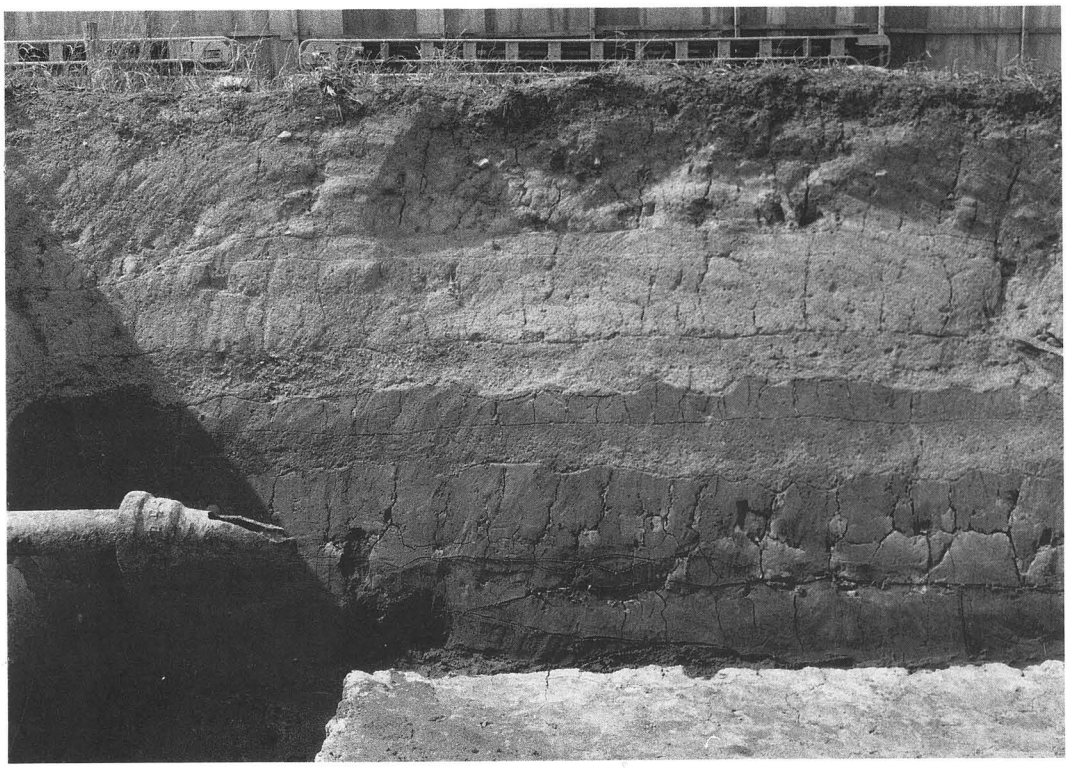
図　　版

調査地周辺（北東から）

調査地周辺（東から）



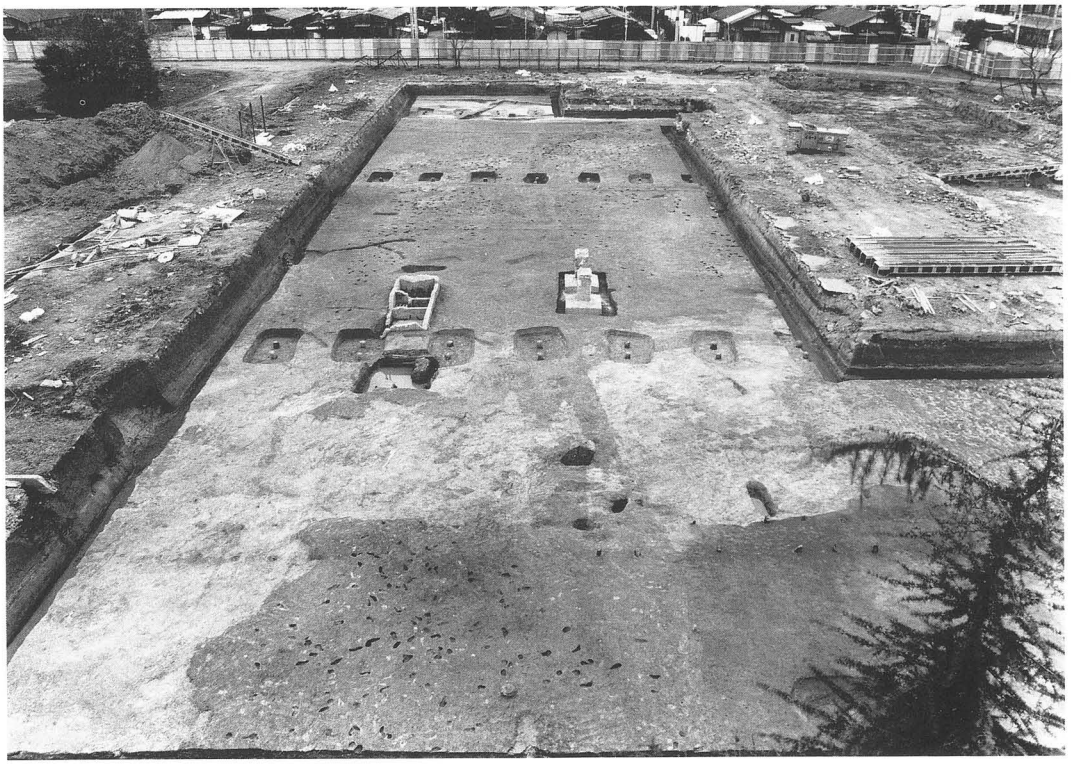
第 3 区北壁（南から）



第 4 区北壁（南から）

第 2 区調査状況（北から）

第 1 区第1面調査状況（東から）



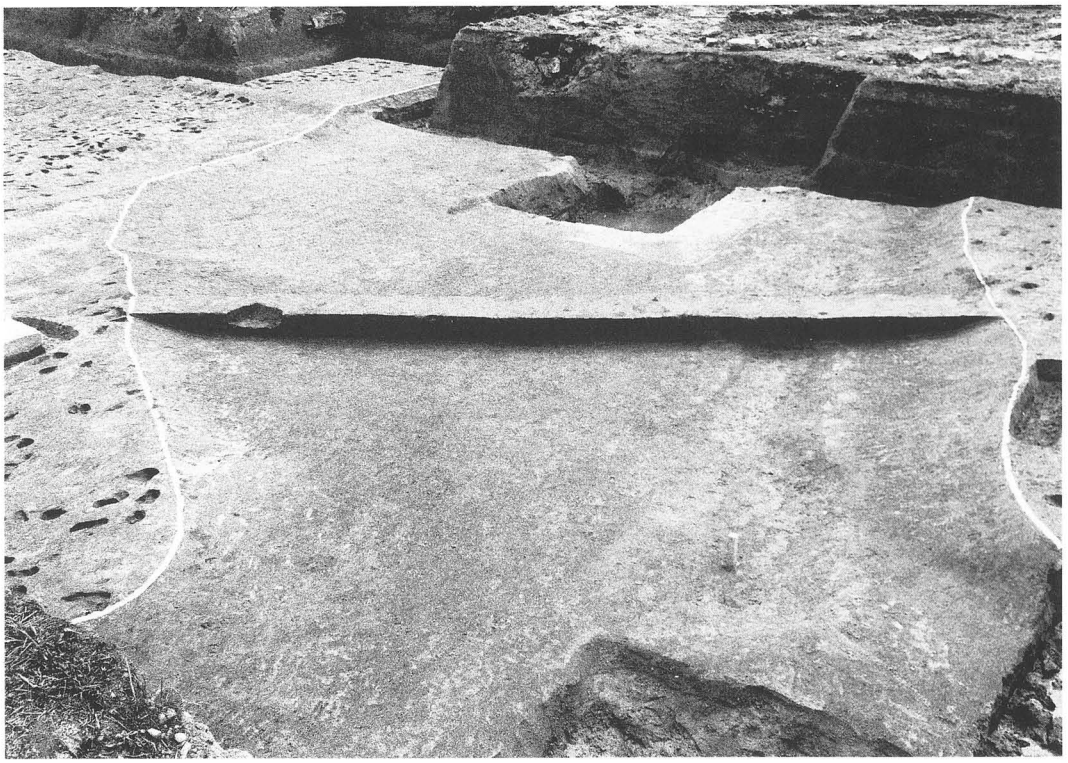
第１区第１面全景（東から）

第１区SD－101（南から）

第２区第１面全景（北から）

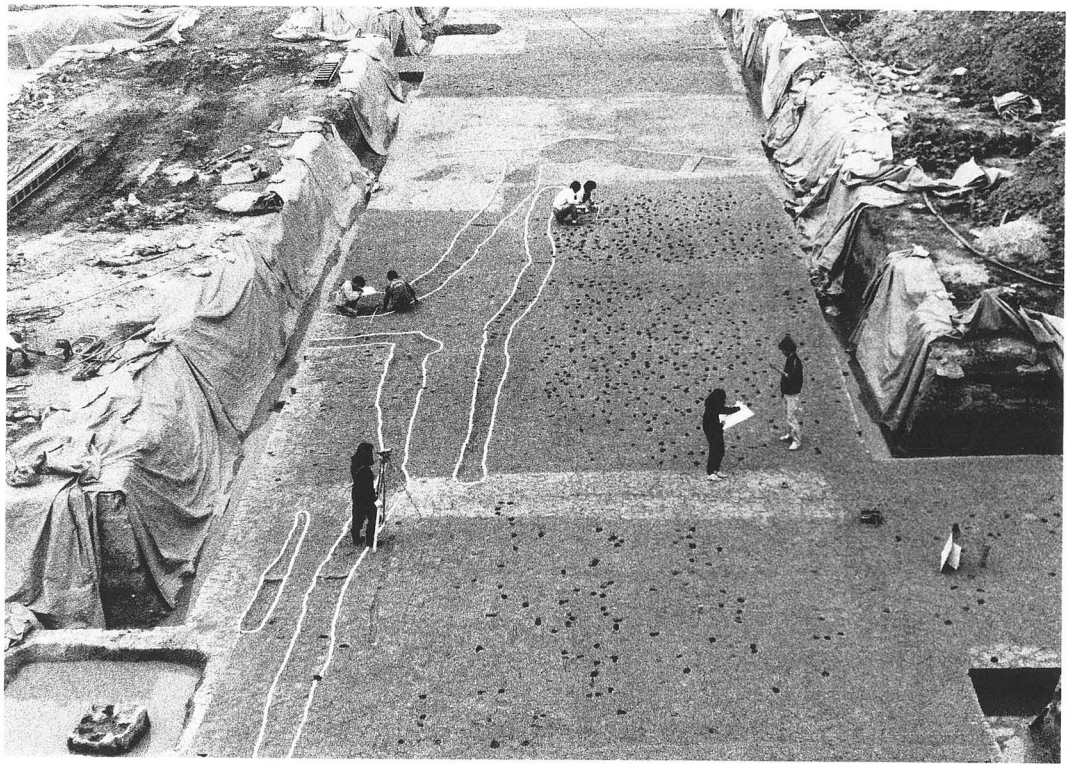
第３区第１面全景（東から）

第３区第１面畦畔109（南から）

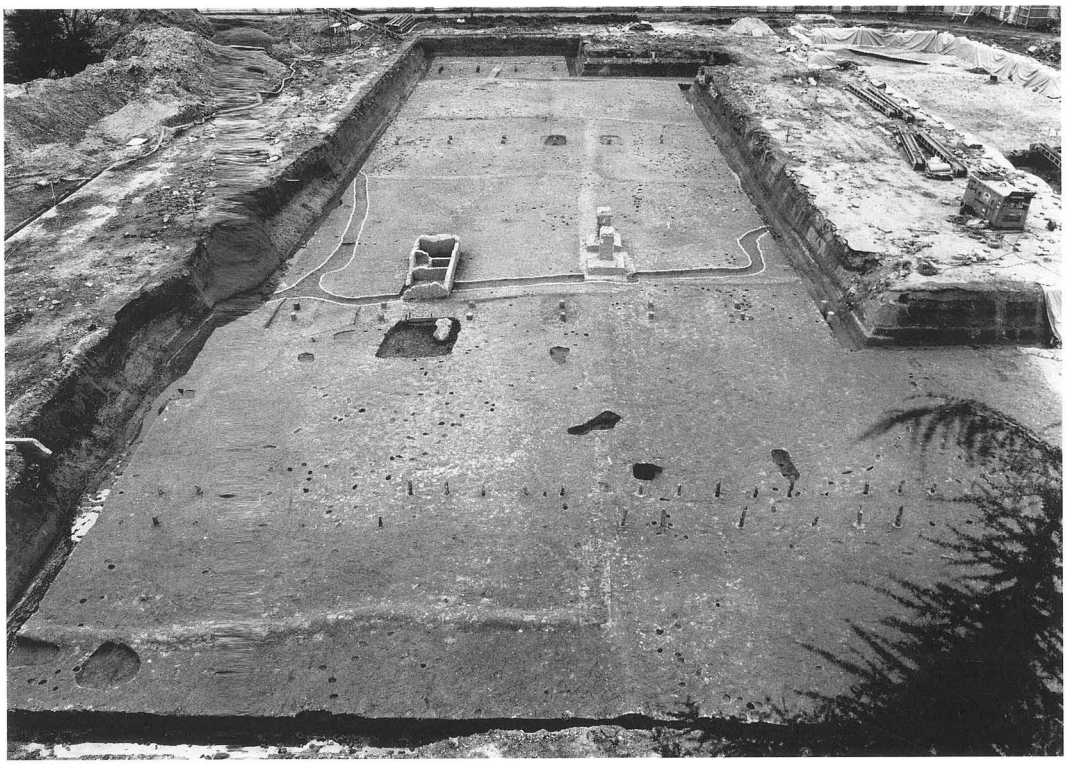


第３区SD－101（北から）

第５層内遺物出土状況（南から）



第３区第２面調査状況（東から）

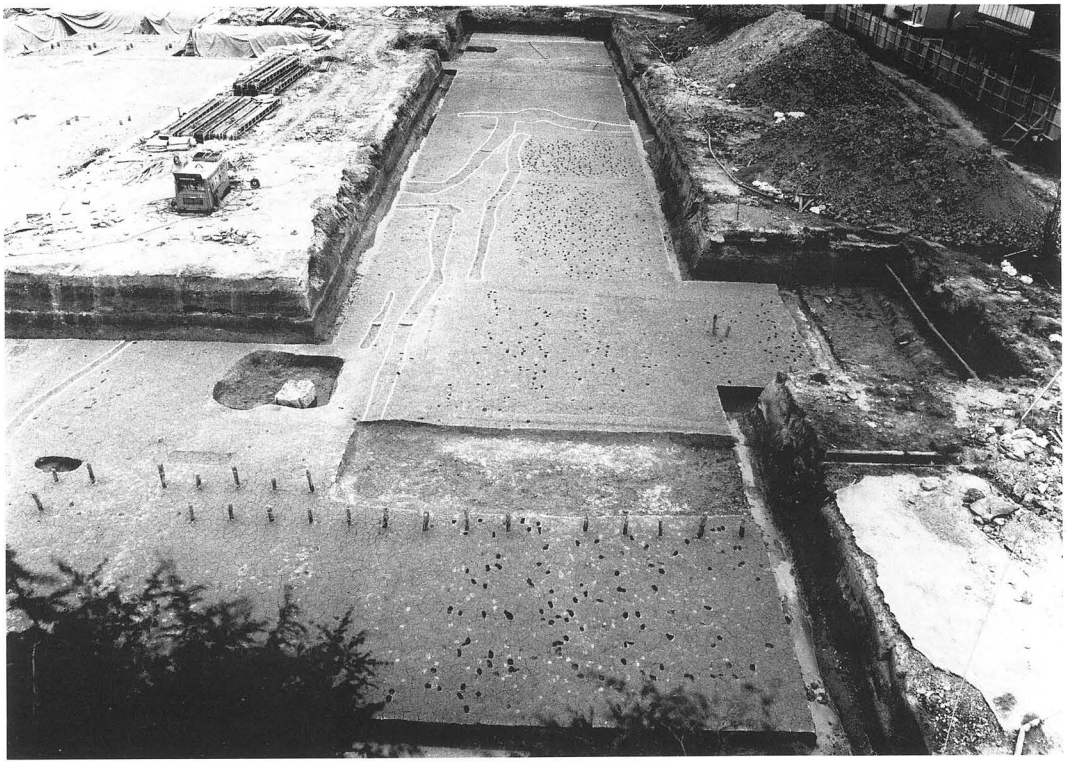


第１区第２面全景（東から）

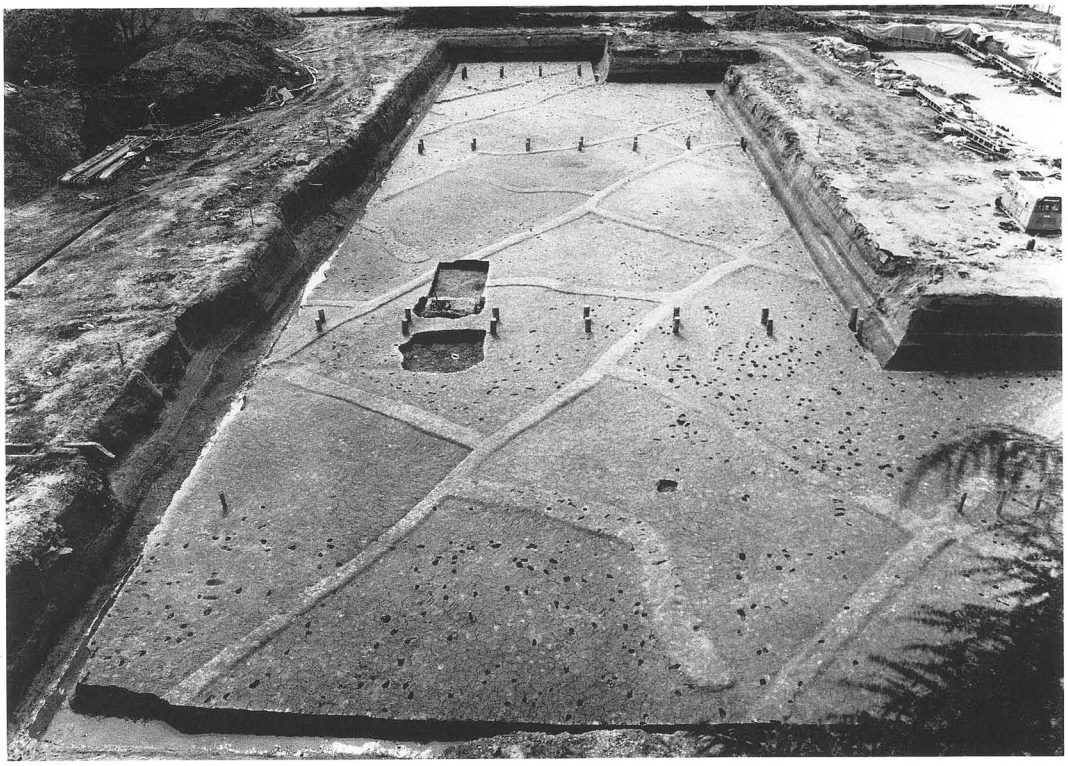
第２区第２面畦畔201（南から）

第１区SD－201（南から）

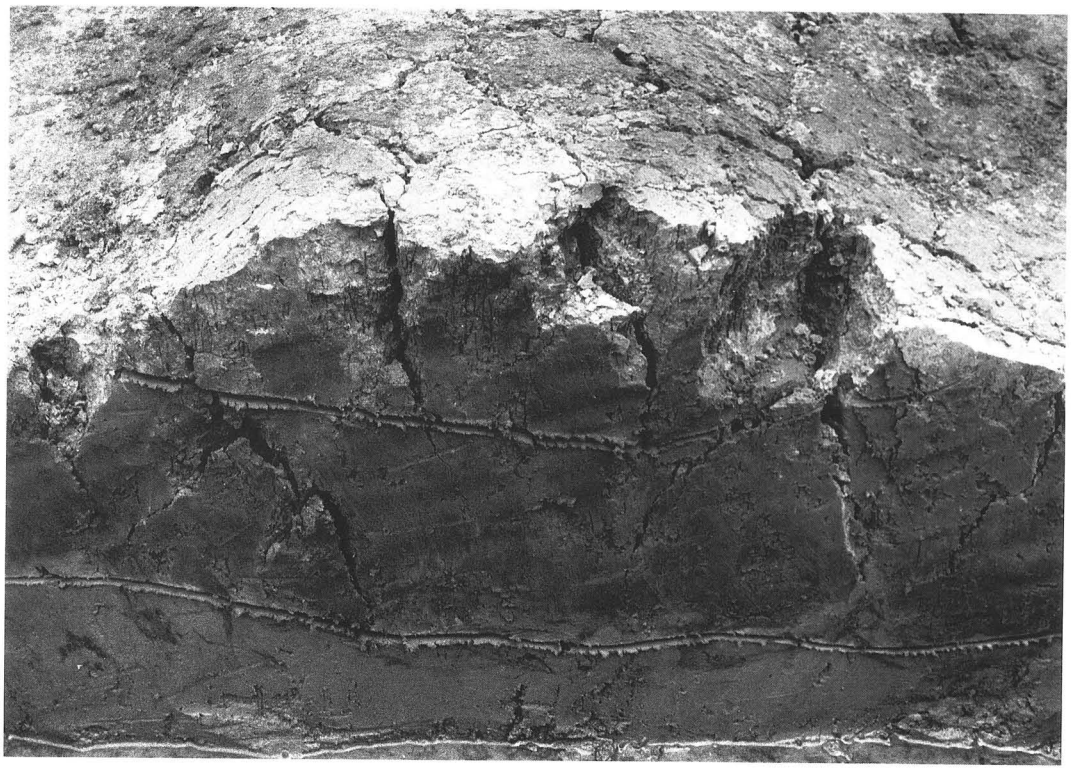
第２区第２面全景（北から）



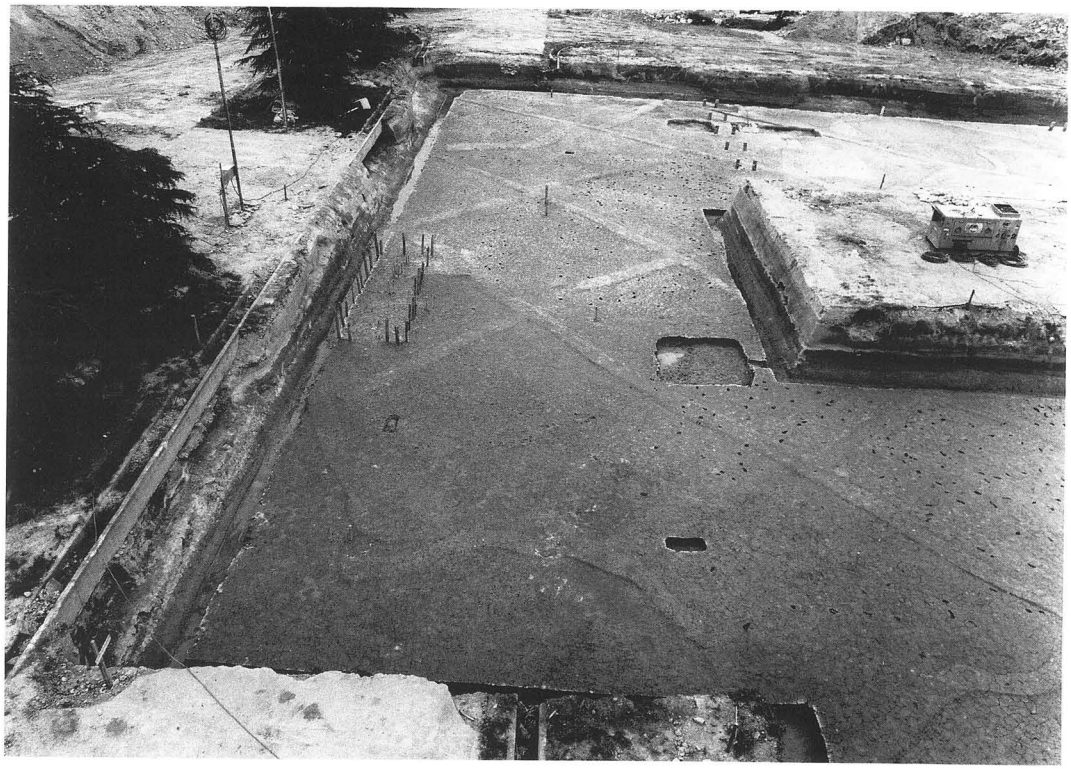
第３区第２面全景（東から）



第１区第３面全景（東から）



第１区第３面畦畔308（南西から）

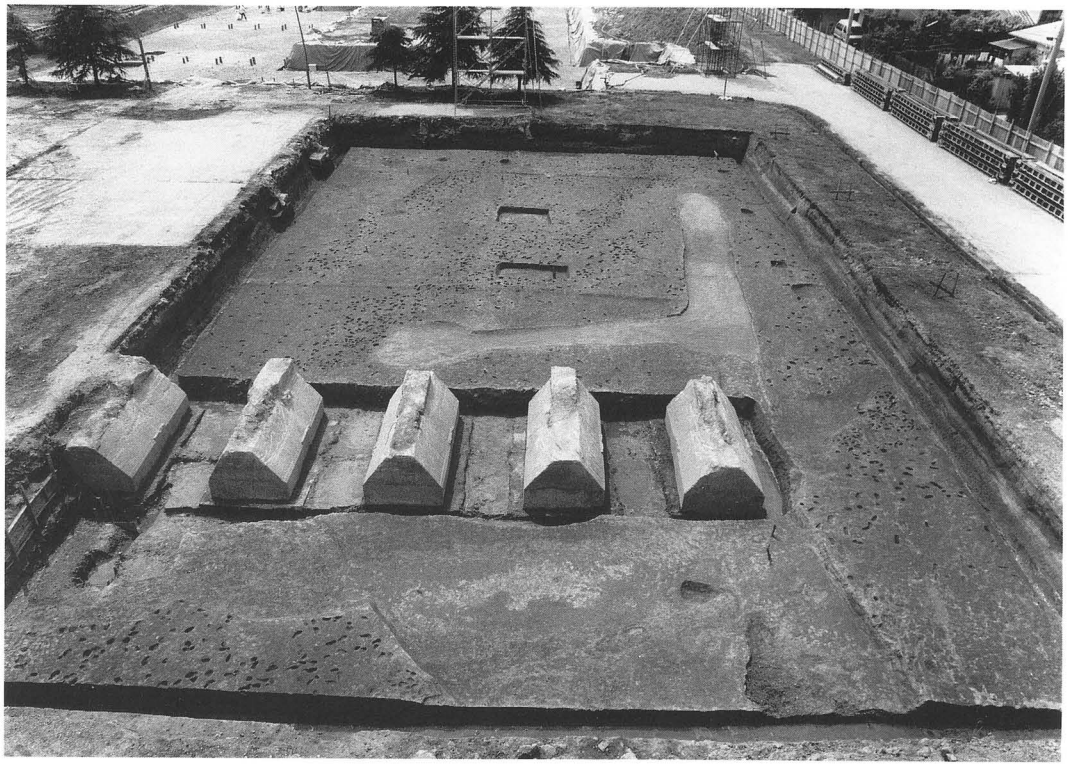


第２区第３面全景（北から）

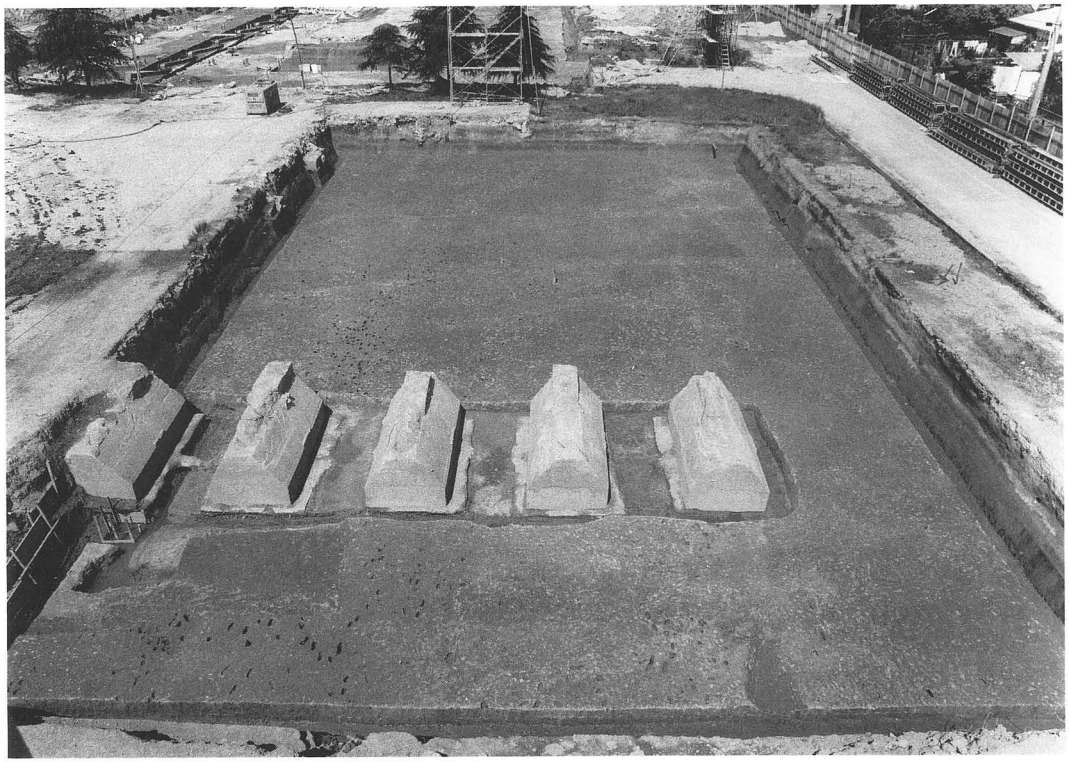
第3区第3面全景（東から）

第4区第1面調査状況（東から）

第４区第１面調査状況（南東から）

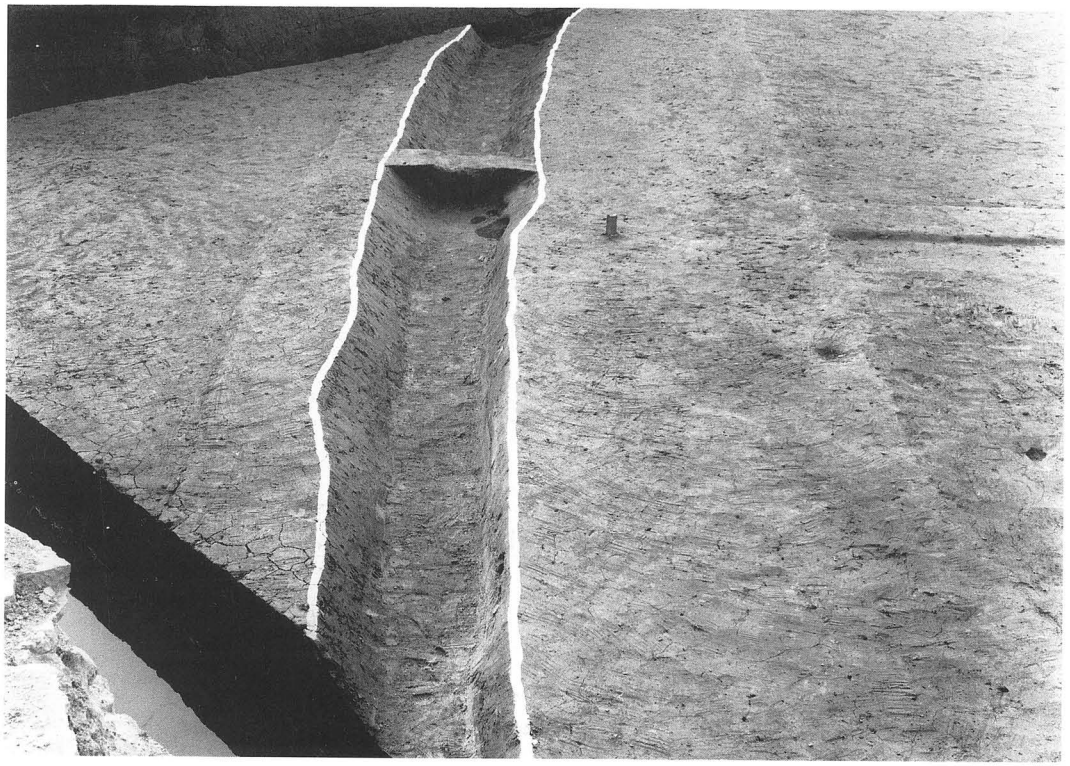


第４区第１面全景（東から）

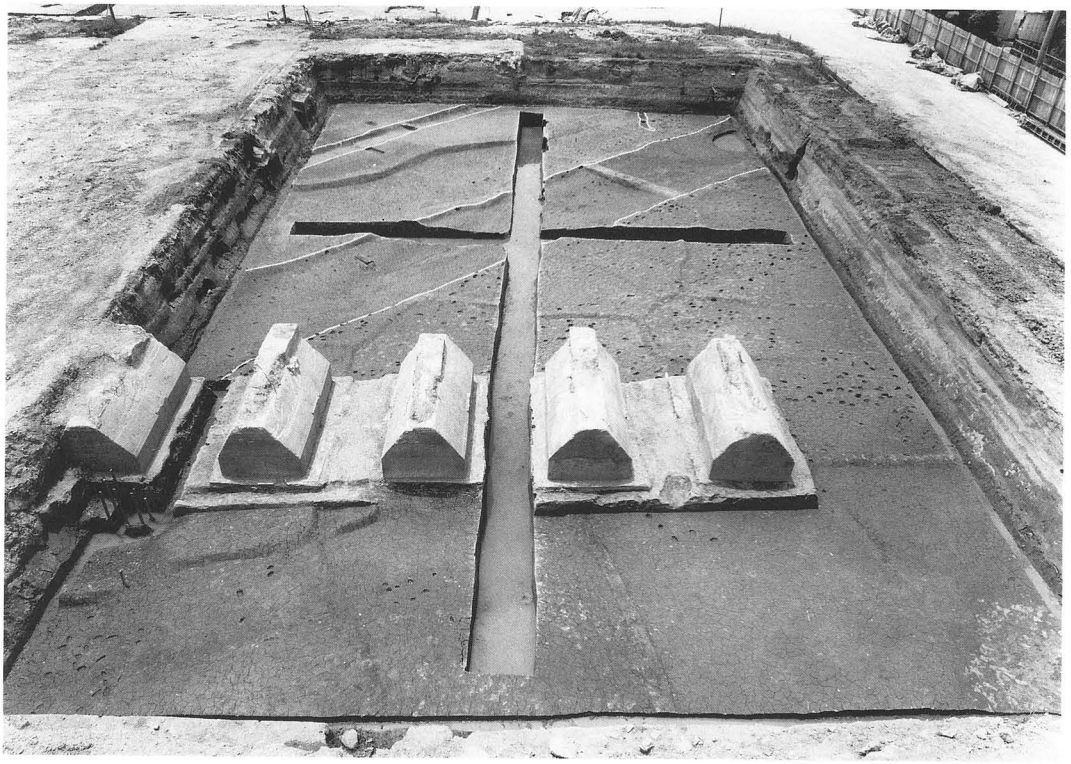


第４区第２面全景（東から）

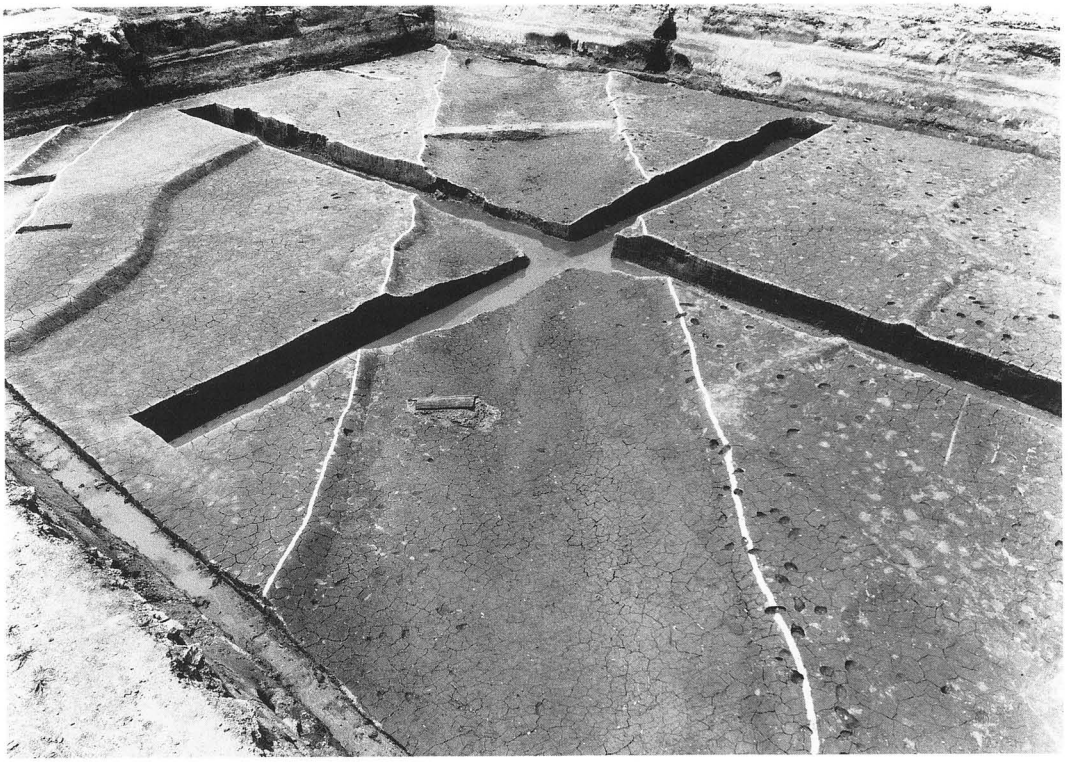
第４区第３面全景（東から）



第４区第３面SD－301（南東から）

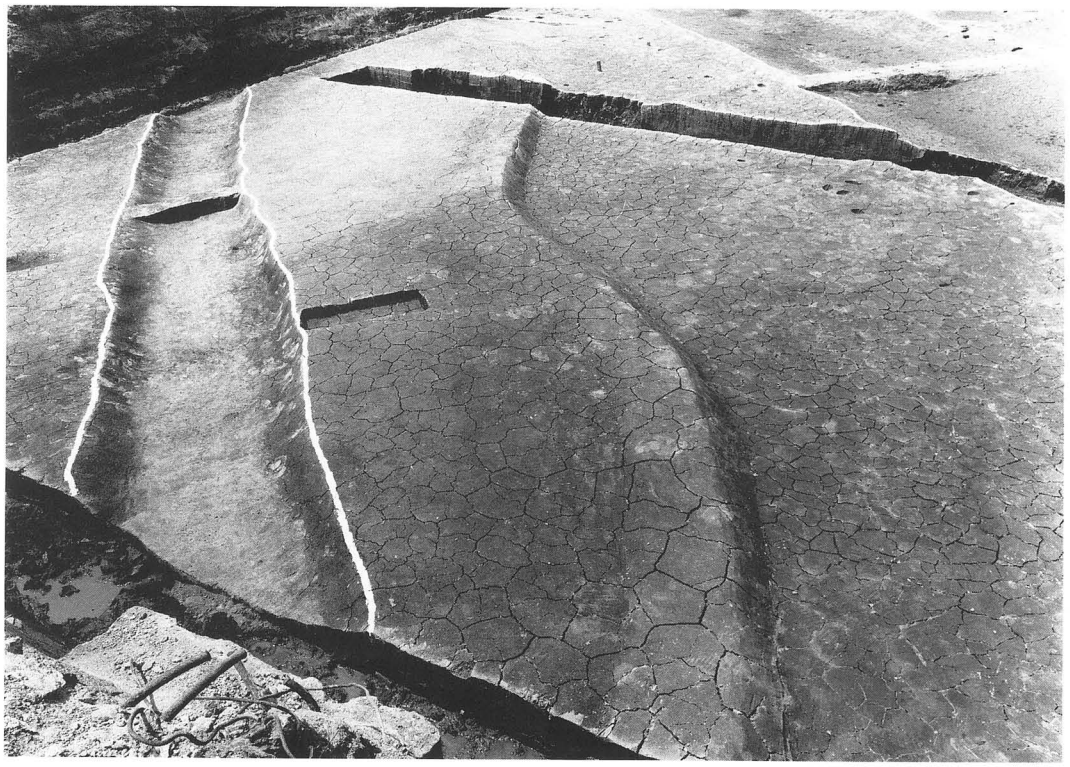


第４区第４面全景（東から）

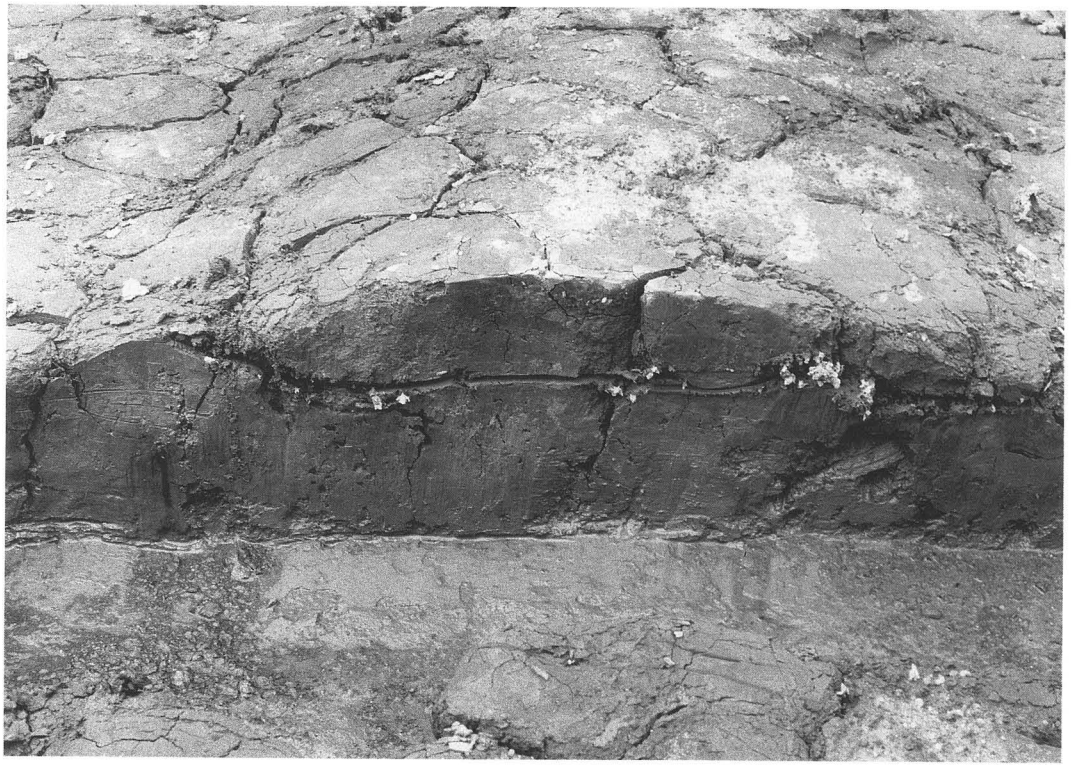


第４区SD－402（南東から）

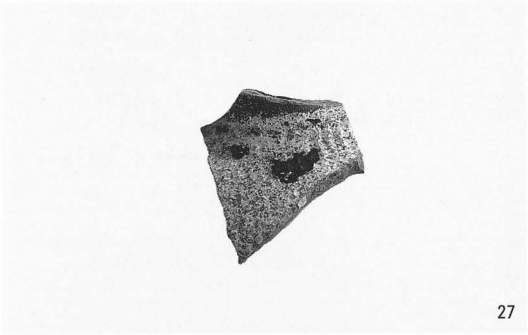
第４区SD－402内遺物出土状況（南西から）

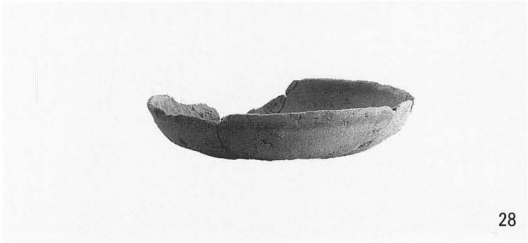


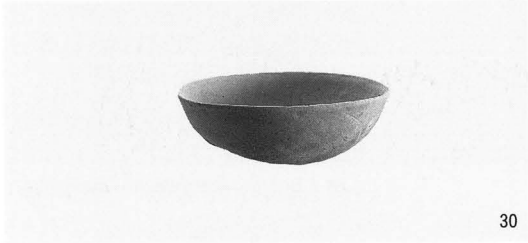
第４区SD－401畦畔401（南東から）

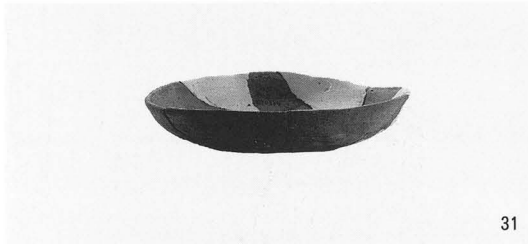


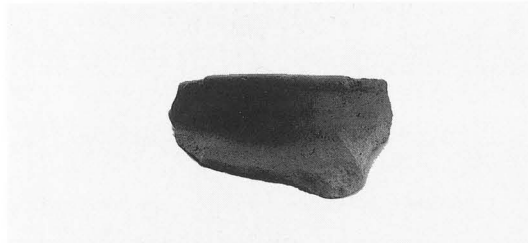
第４区第４面畦畔415（南から）


27


28


30

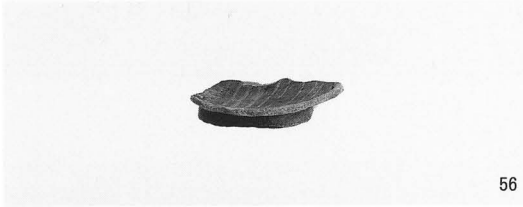

31


32

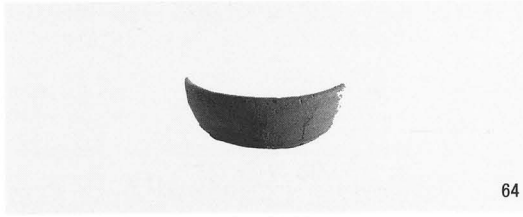
44

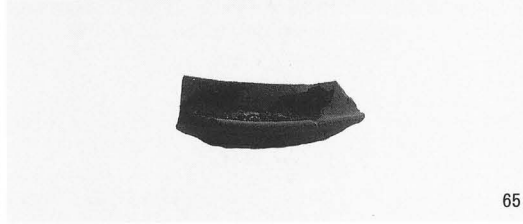
52

53


56

63


64


65

第６層(27・28・30～32)　第７層(44)　第11層(52・53・56)　第８層(63・64)　SD－401(65)出土遺物

69

70

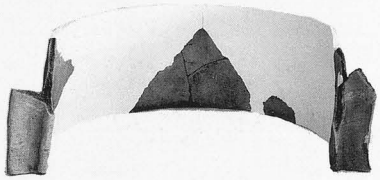
74

75

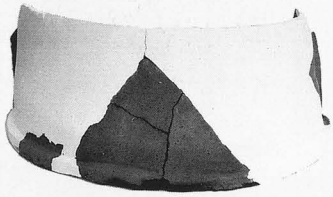
77

82

81



表


裏
80

80

SD－402（69・70・74・75・77・80・81）　第11層（82）出土遺物

報告書抄録

ふりがな	やおしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこく
書名	八尾市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ
副書名	
巻次	
シリーズ名	(財)八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番	41
編著者名	高萩千秋・西村公助・坪田真一
編集機関	財団法人　八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581　大阪府八尾市清水町1丁目2番1号　TEL　0729－94－4700
発行年月日	西暦　1994年　3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
久宝寺遺跡	大阪府　八尾市 亀井および渋川	27212	－	34° 37′ 22″	135° 35′ 17″	19900402～ 19900612	87.1	駅舎改築工事に伴う事前調査
小阪合遺跡	八尾市　青山町5丁目	27212	－	34° 37′ 20″	135° 36′ 33″	19901016～ 19901101	164	共同住宅建設に伴う事前調査
小阪合遺跡	八尾市　青山町2丁目	27212	－	34° 37′ 13″	135° 36′ 33″	19910419～ 19910516	340	共同住宅建設に伴う事前調査
東郷遺跡	八尾市　桜ヶ丘1丁目	27212	－	34° 37′ 33″	135° 36′ 40″	19890410～ 19890510	200	共同住宅建設に伴う事前調査
東郷遺跡	八尾市　光町2丁目	27212	－	34° 37′ 37″	135° 36′ 25″	19910304～ 19910319	140	共同住宅建設に伴う事前調査
八尾南遺跡	八尾市　木の本	27212	－	34° 35′ 48″	135° 35′ 15″	19870210～ 19870708	3043	新設小学校建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久宝寺	集落	弥生時代中期以降 古墳時代後期から奈良時代 平安時代	土杭1・小穴1・溝1・落込み1 土杭1・小穴2・溝1 土杭2・小穴22・溝12	土師器・須恵器	
小阪合	集落	古墳時代前期	竪穴住居3基・土器棺1基・溝1	庄内式土器・布留式土器	
小阪合	集落	古墳時代前期から中期 平安時代	河川1条 井戸1基・土杭1基	布留式土器・木製品(横櫛・横槌) 須恵器	
東郷	集落	弥生時代後期 古墳時代前期 奈良時代前半	土器集積 土杭7基 掘立柱建物5棟	弥生土器(Ⅴ様式)・布留式土器・土師器・須恵器・瓦器	古墳時代前期の集落域が確認されている。
東郷	集落	古墳時代前期	縦穴住居3棟・土杭1基・小穴35個	庄内式土器・布留式土器	
八尾南	集落	古墳時代前期 古墳時代中期 古墳時代後期 平安～鎌倉時代初頭	水田16筆・畦畔20 水田60筆・畦畔64 水田26筆・畦畔30 水田19筆・畦畔15	庄内式土器・須恵器	

（財）八尾市文化財調査研究会報告41

八尾市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ

Ⅰ 久宝寺遺跡（第４次調査）
Ⅱ 小阪合遺跡（第19次調査）
Ⅲ 小阪合遺跡（第20次調査）
Ⅳ 東郷遺跡（第33次調査）
Ⅴ 東郷遺跡（第35次調査）
Ⅵ 八尾南遺跡（第７次調査）

発　行　　平成６年３月

編　集　　財団法人　八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市清水町１丁目２番１号
TEL・FAX　0729－94－4700

印　刷　　明新印刷株式会社
表　紙　レザック66　〈260kg〉
本　文　書籍用紙　〈70kg〉
図　版　マットアート〈135kg〉